構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1。建築物の構造内容

（1）建築名称・場所　守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借　A棟、B棟
（2）工事種別　■ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（3）構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第20条第一号（高さ 60m超）
□ 法第20条第二号（□ RC造高さ 20m超 □S造 4階建以上□木造高さ 13m超■その他 ）
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。
（4）構造種別　□ 木造（W）　□ 補強コンクリートブロック造（CB）
■ 鉄骨造（S）　□ 鉄筋コンクリート造（RC）
□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
（5）階数　1 棟　地下 －階　地上 1 階　塔屋 －階
（6）主要用途　小学校
（7）屋上付属物　□ 高架水槽　－kN　□ キュービクル　－kN
□ 広告塔　□ 煙突
（8）特別な荷重　□ エレベータ　人乗（マシンルームレス　ロープ式・油圧式）　□ リフト　－kN
□ ホイスト　－kN　□ 倉庫積載床用　－N/m2　□ 受水槽　－kN
（9）付帯工事　□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場
（10）増築計画　□ 有（　）　■ 無
（11）構造計算ルート　X方向ルート　2　Y方向ルート　2

2。使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm2	品質管理強度 Fq=N/mm2	スランプ cm	備　考
捨てコンクリート	■ 普通	15	－	－	
土間コンクリート	■ 普通	18	18	15	
基礎、基礎梁	■ 普通	21	21	15	
柱、梁、床、壁	□ 普通　□ 軽量				比重
	□ 普通　□ 軽量	－	－	－	比重
押えコンクリート	□ 普通　□ 軽量	－	－	－	比重
細骨材の種類	■ 砂　□ 山砂　□ 人工　□				
粗骨材の種類	■ 砂利　□ 砕石　□ 人工　□				
水の区分	■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水　□				
混和材料の種類（ JIS　）	□ AE減水剤　□ 高性能AE減水剤　□				
呼び強度を保証する材齢、養生	■ 材齢（■ 28日　□ 56日　□　□　）				
	■ 養生（□ 現場封かん■ 現場水中 □ 標準 □　）				

※単位水量は 185kg/m3以下、単位セメント量は 270kg/m3以上とする。

（2）コンクリートブロック（□ JIS A 5406）
□ A種　□ B種　□ C種　厚□ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（□　□　）

（3）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋（ JIS G 3112）	■ SD295	D16 以下	基礎	■ 重ね継手
	■ SD345	D19 以上	基礎	□ ガス圧接継手
	□ SD390			□ 溶接継手
高強度せん断補強筋	□ 材種			□ 機械式継手
	□ 大臣認定番号　MSRB-			（　）
丸　鋼（JIS G 3112）	□ SR235			各継手の使用詳細については本仕様5.（2）鉄筋の項の鉄筋継手等の■にて表示すること。
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■ SS400　□ SWH400 □ SN400 A,B,C	梁、ササラ桁	□ 有 ■ 無	JIS G 3101
■ STKR400□ STKR490	間□梁・柱	□ 有 ■ 無	JIS G 3466
■ SWH400L	柱	□ 有 ■ 無	JIS G 3353
□ SM490 A□ SN490 B□ SN490 C		□ 有 □ 無	JIS G
■ SSC400	ツナギ・母屋・柱	□ 有 ■ 無	JIS G3350
■ SNR400B	水平ブレース、壁ブレース	□ 有 ■ 無	JIS A 5540
溶接材料　□ JIS Z			

（5）ボルト　○使用箇所の詳細については別途図示とする。
□ 高力ボルト
□ F10T（JIS B1186）□ S10T 認定番号（ □ ）F8T 認定番号（ MBLT-0050 X□ M16,□ M20,□ M22,□M24）
■ ボルト（ JIS B1180）M 12　M16　M20　M24　■ 強度区分4.8■ 強度区分 10.9
■ アンカーボルト
■ SS400　M 16　L= 350　mmナット　（□シングル、■ ダブル）
□ SNR490B　M 20　L= 400　mmナット　（□シングル、■ ダブル）
M　L=　mmナット　（□シングル、□ ダブル）
□ 植付スタッドボルト
φ=　L=　mm 使用箇所（ □柱 □大梁　□小梁）
φ=　L=　mm 使用箇所（ □柱 □大梁　□小梁）

（6）屋根、床、壁

材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　（ JIS A 5416）	厚 100	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め □ロッキング□
折版	H=78.9　厚 0.6	■屋根 □	□
特殊デッキプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版 □	□
デッキプレート　（JIS G 3352）	型式 V-50　厚 1.2	□床版 □	□
キーストーンプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版 □	□

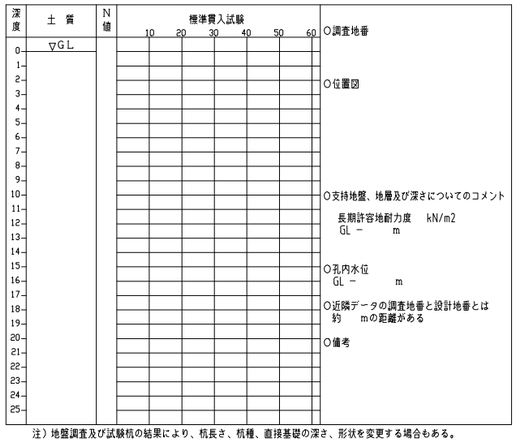
3。地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
□ 有　（□敷地内 □近隣）　□ 無　（調査計画 □ 有 □ 無）

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スエーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成 別途地耐力調査資料参照



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4。地業工事

（1）直接基礎　□ ベタ基礎　■ 布基礎　■ 独立基礎　試験堀　□ 有　■ 無
深さ　GL－0.2～－0.3　m、支持層　－　長期許容支持力度　50 kN/m2　載荷試験 □ 有　■ 無
（2）地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　□
深さ　GL－2　m、　長期許容支持力度　50　kN/m2　載荷試験 □ 有　■ 無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
（3）杭基礎　支持層　－

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□ RC　□ PRC	PRC（ □1種　□2種　□3種）	□ 打ち込み	
□ PHC　□ H鋼	PHC（ □A種　□B種　□C種）	□ 埋込み　（セメントミルク工法）	
□ 鋼管　□ 摩擦杭	鋼材　□SS400　□SKK400	□	認定第　号
□ SC杭	□ JIS	□ G-ECSN・A工法	年　月　日
□ 場所打ち	コンクリートFc=　N/mm2	□ オールケーシング　□ 拡底杭	
コンクリート杭	Fq=　N/mm2	□ リバースサーキュレーション	
	スランプ　cm以下	□ アースドリル　□ ミニアース	認定
	セメント量　kg/m3	□ BH	第　号
	単位水量　kg/m3	□ 深礎（□ 手堀 □ 機械堀）	年　月　日
	鉄　筋　主筋　SD		
	HOOP　SD		

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　（□ 有 ■ 無）（□ 打ち込み □ 載荷□ 孔壁測定）　本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
－	－	－	－	

5。鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Fc）が
36 N/mm2 以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

（1）コンクリート
■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。（2018年度版による）
■ 耐久設計基準強度　Fd　■ 短期　□ 標準　□ 長期
■ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法は JASS 5T-603 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が 150m3 を超える場合は 150m3 ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。
１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25 ℃未満の場合は 150 分以内、25 ℃以上の場合は 120 分以内とする。
■ コンクリート打込み中及び打込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下らないようにする。
■ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

（2）鉄筋
■ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位 A 級	B 級	SA級	(2) (1) 以外の部位（注） A 級	B 級	SA級	鉄筋の径
■ 重ね継手	■ 40d　□ 35d　□（　）d						□ D（ 22 ）以下
□ 圧接継手	□ 告示1463号第2項各号			□			□ D（　）以下
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号			□	□		□ D（　）以下
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号			□	□	□	□ D（　）以下

注）(1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ D22未満は、すべて重ね継手とする。
□ 継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査　有□　無□　・引張試験　有□　無□　・超音波探傷試験　有□　無□
ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、１回の試験は５本以上とする。
（１ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする）
□ 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、　□ H型（タガ型）□ W型（溶接型）□ S型（スパイラル型）とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は試験機関で行うこと。

試験機関名－工事監理者が指定する試験機関　（知事登録　号）
代行業者名－工事監理者が指定する代行業者
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

（3）型　枠
■ 材料　合板厚　12 mm を標準とする。　■ 施工　JASS 5 による。
■ 型枠存置期間

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温	せき板 基礎、梁側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	せき板 基礎、梁側、柱、壁 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	せき板 スラブ下、梁下 早強ポルトランドセメント	せき板 スラブ下、梁下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	支柱 スラブ下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 梁下 早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日） 15 ℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5 ℃～15 ℃	3	5	6	10	12	25	28
5 ℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5．0N/mm2		設計基準強度の50％		設計基準強度の85％		設計基準強度の100％

注）1　片持ち梁、庇、スパン9．0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）2　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）6　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）7　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6。鉄骨工事（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場　□ 製作要領書　□ 工作図　□ 施工計画書
■ 認定または登録工場（大臣認定　S　H　M　R　J　グレード　都登録　T1　T2　T3　ランク）
■ 材料規格証明書※、または試験成績書
■ 鋼材　□ 高力ボルト　□ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□ 社内検査表　□　□
（3）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査　□ 組立・開先検査　□ 製品検査　■ 建方検査
（4）接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464年第二号　イ、ロ
■ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」
（5）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事管理者	備　考
□ 完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	％ 個	％ 個	％ 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
□	超音波探傷試験	％ 個	％ 個	％ 個	
	内質検査（注）□硬さ試験	％ 個	％ 個	％ 個	（注）東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	内質検査（注）□示温塗料塗布	％ 個	％ 個	％ 個	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
■ 隅肉溶接部	外観検査（※）	100％ 個	－％ 個	－ ％ 個	
第三者検査機関名		（都知事登録　号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100％行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
□ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験 □　要 □　否　高力ボルトすべり係数試験□　要□　否
□ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
□ トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。
（6）防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、□JIS K 5572-2種、□JIS K 5621 、■ JIS K 5674 、□　を使用して、４つ星１回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。
（7）耐火被覆の材料
□

7。設備関係

■ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
□ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
□ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
□ 満水時の質量が15kgを超える、石油、ガス、電気の給湯設備を使用する場合はその旨の資料を添付する。

8。その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 101

［撤去］　A棟、B棟　構造設計特記仕様

A3　1/---

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1。建築物の構造内容

（1）建築名称・場所　守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借　給食棟
（2）工事種別　■ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（3）構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第20条第一号（高さ60m超）
□ 法第20条第二号（□ RC造高さ 20m超 □ S造 4階建以上 □ 木造高さ 13m超 ■ その他 ）
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。
（4）構造種別　□ 木造（W）　□ 補強コンクリートブロック造（CB）
■ 鉄骨造（S）　□ 鉄筋コンクリート造（RC）
□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
（5）階数　1 棟　地下 －階　地上 1 階　塔屋 －階
（6）主要用途　小学校
（7）屋上付属物　□ 高架水槽 －kN　□ キュービクル －kN
□ 広告塔　□ 煙突
（8）特別な荷重　□ エレベータ 人乗（マシンルームレス ロープ式・油圧式）　□ リフト －kN
□ ホイスト －kN　□ 倉庫積載床用 －N/m2　□ 受水槽 －kN
（9）付帯工事　□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場
（10）増築計画　□ 有（　）　■ 無
（11）構造計算ルート

2。使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート（レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm2	品質管理強度 Fc=N/mm2	スランプ cm	備　考
捨てコンクリート	■ 普通	15	－	－	
土間コンクリート	■ 普通	18	18	15	
基礎、基礎梁	■ 普通	21	21	15	
柱、梁、床、壁	□ 普通　□ 軽量				比重
	□ 普通　□ 軽量	－	－	－	比重
押えコンクリート	□ 普通　□ 軽量	－	－	－	比重

細骨材の種類	■ 砂　□ 山砂　□ 人工　□
粗骨材の種類	■ 砂利　□ 砕石　□ 人工　□
水の区分	■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水　□
混和材料の種類 （ JIS ）	□ AE減水剤　□ 高性能AE減水剤　□
呼び強度を保証する材齢、養生	■ 材齢（■ 28日　□ 56日　□　□　）
	■ 養生（□ 現場封かん■ 現場水中 □ 標準 □　）

※単位水量は 185kg/m3以下、単位セメント量は 270kg/m3以上とする。
（2）コンクリートブロック（□ JIS A 5406）
□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（□　□　）
（3）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋（JIS G 3112）	■ SD295	D16 以下	基礎	■ 重ね継手
	□ SD295 B			□ ガス圧接継手
	■ SD345	D19 以上	基礎	□ 溶接継手
	□ SD390			□ 機械式継手
高強度せん断補強筋	□ 材種			（　）
	□ 大臣認定番号 MSRB-			各継手の使用詳細については本仕様5.（2)鉄筋の項の鉄筋継手等の■にて表示すること。
丸　鋼（JIS G 3112）	□ SR235			
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■ SS400　□ SWH400 □ SN400 A,B,C	梁	□ 有 ■ 無	JIS G 3101
■ STKR400□ STKR490	間□梁・底梁・柱	□ 有 ■ 無	JIS G 3466
■ SWH400L	柱	□ 有 ■ 無	JIS G 3353
□ SM490 A□ SN490 B□ SN490 C		□ 有 □ 無	JIS G
■ SSC400	ツナギ・母屋・柱	□ 有 ■ 無	JIS G3350
■ SNR400B	水平ブレース、壁ブレース	□ 有 ■ 無	JIS A 5540
溶接材料　□ JIS Z			

○使用箇所の詳細については別途図示とする。
（5）ボルト
□ 高力ボルト
□ F10T（ JIS B1186）□ S10T 認定番号（ □ ）F8T 認定番号（ MBLT-0050 X□ M16.□ M20.□ M22. □M24）
■ ボルト（ JIS B1180）M 12　M16　M20　M24 ■ 強度区分4.8 ■ 強度区分10.9
□ アンカーボルト
□ SS400　M　L=　mmナット（□シングル、□ ダブル）
□ SNR490B　M　L=　mmナット（□シングル、□ ダブル）
M　L=　mmナット（□シングル、□ ダブル）
□ 頭付スタッドボルト
φ=　L=　mm 使用箇所（ □柱 □大梁 □小梁）
φ=　L=　mm 使用箇所（ □柱 □大梁 □小梁）
（6）屋根、床、壁

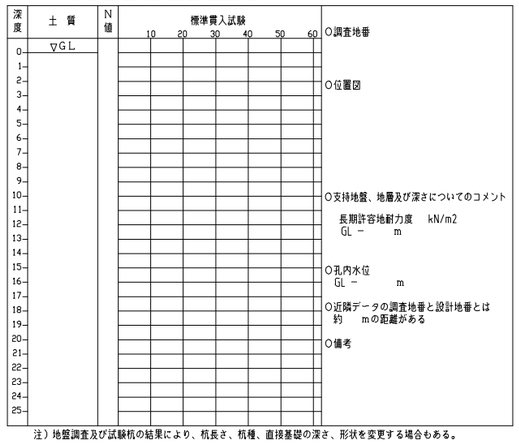
材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　（JIS A 5416）	厚 100	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め □ロッキング□
折版	H=78.9　厚 0.6	■屋根 □	□
特殊デッキプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版 □	□
デッキプレート　（JIS G 3352）	型式 V-50　厚 1.2	□床版 □	□
キーストーンプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□床版 □	□

3。地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
□ 有　（□ 敷地内 □ 近隣）　□ 無　（調査計画 □ 有 □ 無）

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スエーデン式サウンディング	○		現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。
（2）ボーリング標準貫入値、土質構成 別途地耐力調査資料参照



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4。地業工事

（1）直接基礎　□ ベタ基礎　□ 布基礎　□ 独立基礎　試験堀 □ 有 ■ 無
深さ GL－0.6 m、支持層 －　、長期許容支持力度 50 kN/m2　載荷試験 □ 有 ■ 無
（2）地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　□
深さ GL－2 m、長期許容支持力度 50 kN/m2　載荷試験 □ 有 ■ 無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
（3）杭基礎　支持層 －

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□ RC　□ PRC □ PHC　□ H鋼 □ 鋼管　□ 摩擦杭 □ SC杭	PRC（ □1種　□2種　□3種） PHC（ □A種 □B種　□C種） 鋼材　□SS400　□SKK400 □ JIS	□ 打ち込み □ 埋込み　（セメントミルク工法） □ □ G-ECSﾊﾟｲﾙ工法	認定第　号 年　月　日
□ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=　N/mm2 Fq=　N/mm2 スランプ　cm以下 セメント量　kg/m3 単位水量　kg/m3 鉄　筋　主筋　SD HOOP　SD	□ オールケーシング　□ 拡底杭 □ リバースサーキュレーション □ アースドリル　□ ミニアース □ BH □ 深礎（□ 手堀 □ 機械堀）	認定 第　号 年　月　日

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭（□ 有 ■ 無）（□ 打ち込み □ 載荷□ 孔壁測定）　本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
－	－	－	－	

5。鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Fc）が
36 N/mm2 以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

（1）コンクリート
■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合する JIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。（2018年度版による）
■ 耐久設計基準強度 Fd　■ 短期　□ 標準　□ 長期
■ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法は JASS 5T-603 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとととする。
また、打込み量が 150m3 を超える場合は 150m3 ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。
１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25 ℃未満の場合は 150 分以内、25 ℃以上の場合は 120 分以内とする。
■ コンクリート打込み中及び打込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下らないようにする。
■ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
（2）鉄筋
■ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位（注） A 級	B 級	SA級	鉄筋の径
■ 重ね継手	■ 40d　□ 35d　□（　）d				■ D（ 22 ）以下
□ 圧接継手	□ 告示1463号第2項各号	□			□ D（　）以下
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以下
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以下

注）(1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。
■ D22未満は、すべて重ね継手とする。
□ 継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査　有□　無□　・引張試験　有□　無□　・超音波探傷試験　有 □　無 □
ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、１回の試験は５本以上とする。
（１ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする）
□ 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、　□ H型（タガ型）□ W型（溶接型）□ S型（スパイラル型）とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は試験機関で行うこと。

試験機関名－工事監理者が指定する試験機関　（知事登録　号）
代行業者名－工事監理者が指定する代行業者
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
（3）型　枠
■ 材料　合板厚 12 mm を標準とする。　■ 施工　JASS 5 による。
■ 型枠存置期間

種類 / 部位	せき板 基礎、梁側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	スラブ下、梁下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	梁下 早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
セメントの種類 / 存置期間の平均気温							
コンクリートの材令（日） 15 ℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5 ℃～15 ℃	3	5	6	10	12	25	28
5 ℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5．0N/mm2		設計基準強度の50％		設計基準強度の85％		設計基準強度の100％

注）１　片持ち梁、庇、スパン9．0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）２　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）７　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6。鉄骨工事（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場　□ 製作要領書　□ 工作図　□ 施工計画書
■ 認定または登録工場（大臣認定　S　H　Ⓜ　R　J　グレード　都登録　T1　T2　T3　ランク）
■ 材料規格証明書※、または試験成績書
■ 鋼材　□ 高力ボルト　□ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□ 社内検査表　□　□
（3）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査　□ 組立・開先検査　□ 製品検査　■ 建方検査
（4）接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」
（5）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事管理者	備　考
□ 完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	% 個	% 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷試験	% 個	% 個	% 個	
□	内質検査（注） □ 硬さ試験	% 個	% 個	% 個	
	□ 示温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	（注）東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
■ 隅肉溶接部	外観検査（※）	100% 個	－% 個	－% 個	
第三者検査機関名		（都知事登録　号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
□ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□　要 □　否　高力ボルトすべり係数試験□　要□　否
□ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
□ トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。
（6）防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、□JIS K 5572-2種、□JIS K 5621 、■ JIS K 5674 、□　を使用して、４つ星１回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。
（7）耐火被覆の材料
□

7。設備関係

■ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
□ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
□ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
□ 満水時の質量が15kgを超える、石油、ガス、電気の給湯設備を使用する場合はその旨の資料を添付する。

8。その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計	高木　秀晃　一級建築士　大臣登録第280475号
守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 102
［撤去］　給食棟　構造設計特記仕様	A3　1/---
	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１。一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

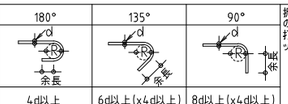
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　D…部材の成　R…直径

@…間隔　r…半径　CL…中心線　Lo…部材間の内法距離　ho…部材間の内法高さ

ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S.HOOP…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼

２。鉄筋加工、かぶり

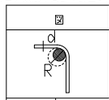
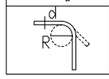
（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（x4d以上）	8d以上（x4d以上）

折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む「形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。

折曲げ内法寸法Rは、SR235～SD345の径16および D16以下は 3d以上、SD295～SD345のD19～D38は 4d以上、D41およびSD390は 5d以上。スラブ筋、壁筋には丸鋼は仕様しない。

（２）鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のりり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SR295 SD295A・B SD345	16φ D16　以下	3d以上
			19φ D19　以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR295A・B SD345 SD390	16φ　以下	4d以上
			D19～D25	6d以上
			D29～D41	8d以上

（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

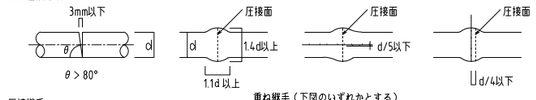
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（N/mm2）	定着の長さ 一般（L2）	定着の長さ 下端筋（L3） 小梁	定着の長さ 下端筋（L3） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（L1）
SR235	21、24	35d フックつき	25d フック付き	150mmフック付き	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295 SD345	27～36	30d または20dフック付き	25d または 15d フック付き	10d かつ 150mm以上	35d または25dフック付き
	21、24	35d または25dフック付き			40d または30dフック付き
	18以下	40d または30dフック付き			45d または35dフック付き
SD390	27～36	35d または25dフック付き			40d または30dフック付き
	21、24	40d または30dフック付き			45d または35dフック付き

［注］許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40d とする

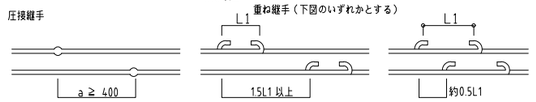
継　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が 7mm を超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

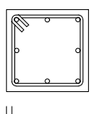


圧接継手　　重ね継手（下図のいずれかとする）



（４）かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、δ厚さが部分的に減少する箇所についてもδ最小かぶり厚さを確保する。



部位			設計かぶり厚さ（mm）	最少かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40(1)	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁および基礎の立上がり部分		50	40(4)
	基礎・擁壁		70	60(4)

［注］~~(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。~~

~~(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。~~

~~(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。~~

（４）軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

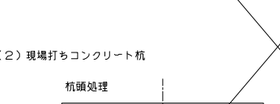
（５）（　）内は仕上げがある場合。

（６）土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

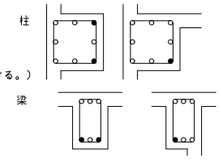
（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

粗骨材の最大寸法の 1.25倍以上かつ25以上



図の ●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（６）鉄筋のフック　（ａ～ｆに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

ａ．丸鋼　ｂ．あばら筋、帯筋　ｃ．煙突の鉄筋

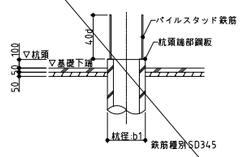
ｄ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

ｅ．単純梁の下端筋

ｆ．その他、本配筋標準に記載する箇所

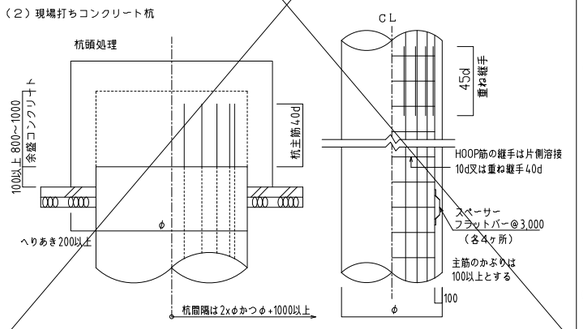
３。杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。）

（１）PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う



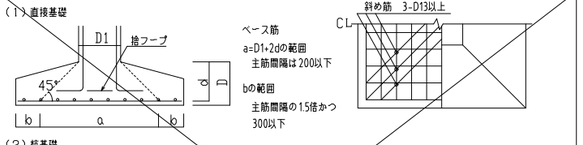
杭径：b1	杭種	パイルスタッド溶接
300φ（3045）	PHC	8－D13
	A	
	PHC	6－D16
	C	
400φ（4055）	PHC	6－D13
	A	
	PHC	8－D16
	B	

（２）現場打ちコンクリート杭

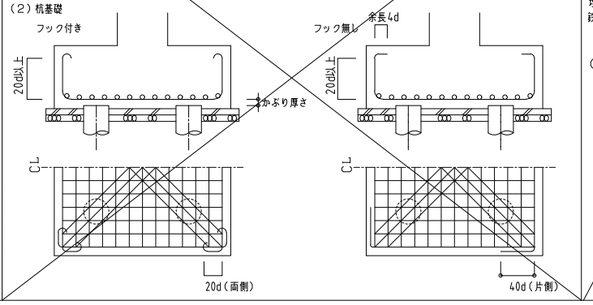


４。基　礎

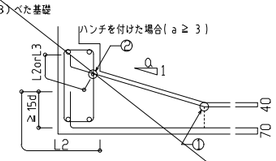
（１）直接基礎



（２）杭基礎

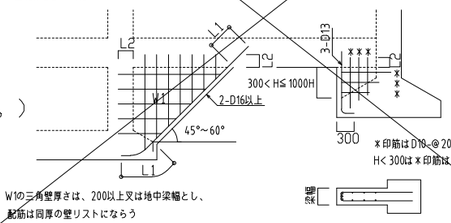


（３）べた基礎



1.耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
2.1 の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3.2の鉄筋は D13以上
4.埋戻し土のある場合は４０を７０とする

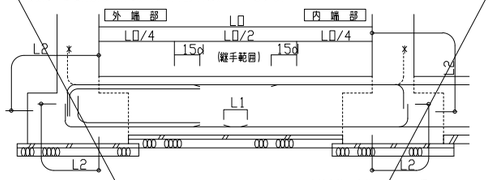
（４）基礎接合部の補強



５。地中梁

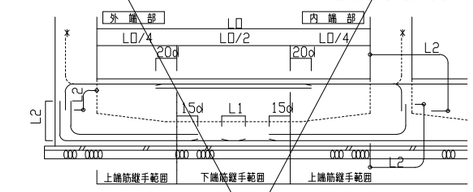
（１）独立基礎、杭基礎の場合　　（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は７.（２）大梁継手位置とする）



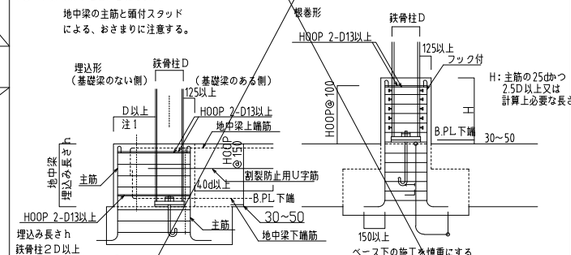
＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

（２）布基礎、べた基礎の場合　　（定着、継手）

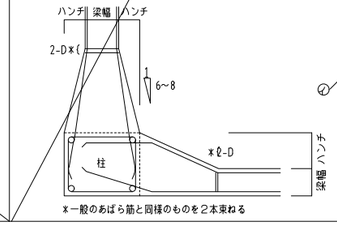


（３）小規模鉄骨造柱脚固定の配筋

地中梁の主筋と額付スタッドによる、おさまりに注意する。



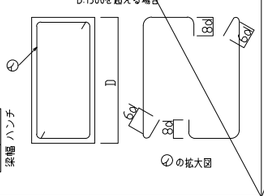
（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる

（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

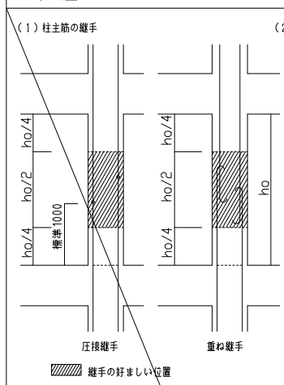
D:1500を超える場合



㋐の拡大図

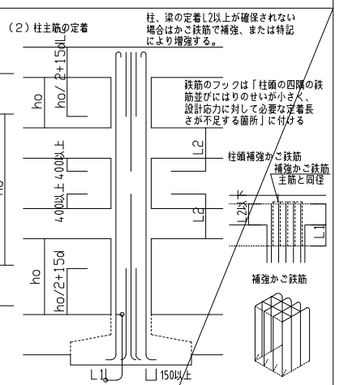
６。柱

（１）柱主筋の継手

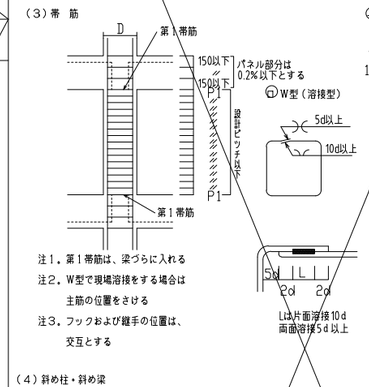


（２）柱主筋の定着

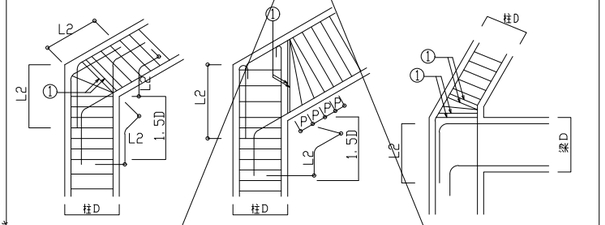
柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。



（３）帯　筋



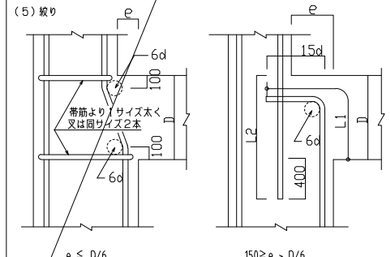
（４）斜め柱・斜め梁



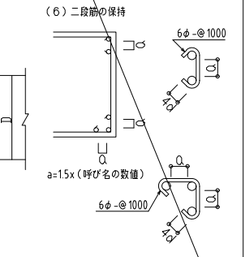
注1．1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする

注2．○の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

（５）絞り



（６）二段筋の保持



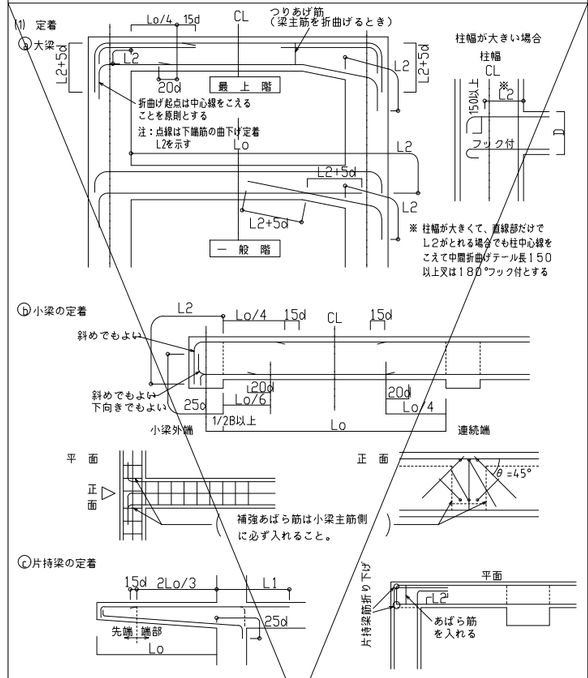
SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 103	
	［撤去］　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１） A3　1/---	DEPT. 構	

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

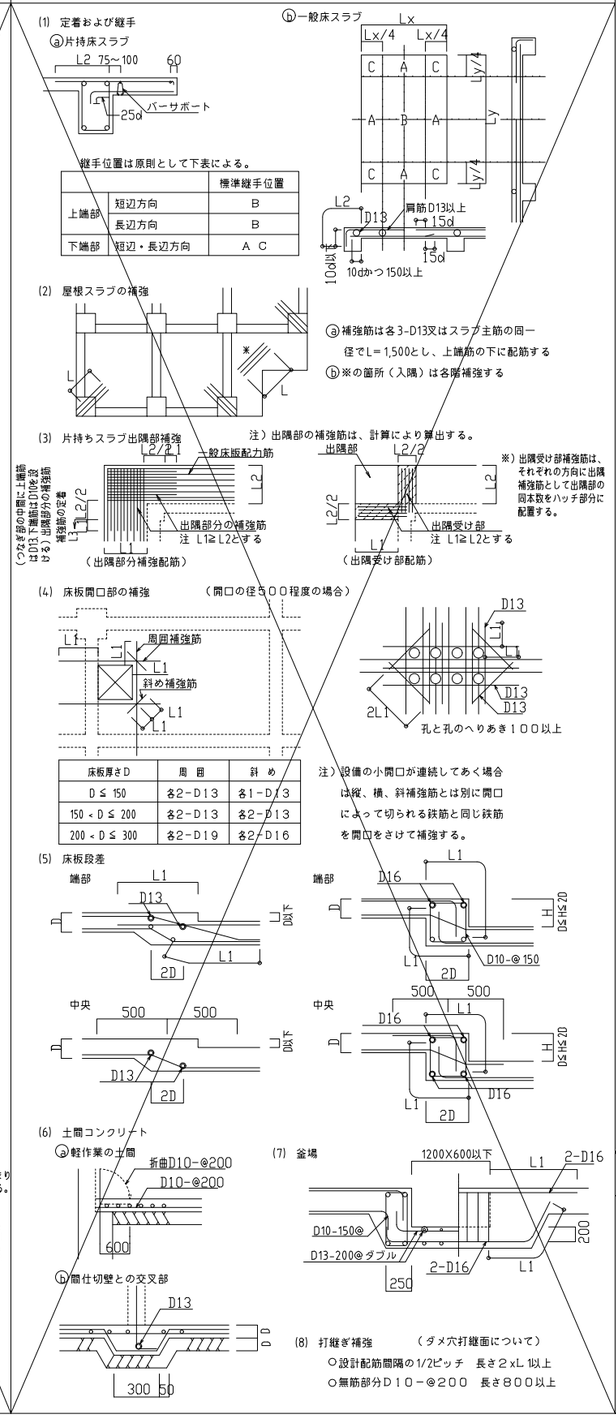
※修正箇所は下線を引くこと
L＝本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7。大梁、小梁、片持梁



腹 筋	D<600 不要	
	600 ≦ D<900	2-D10（9φ） 1段
	900 ≦ D<1200	4-D10（9φ） 2段
	1200 ≦ D	D10（9φ）@300以内
幅止め筋	D10（9φ）@1000以内で割り付ける	

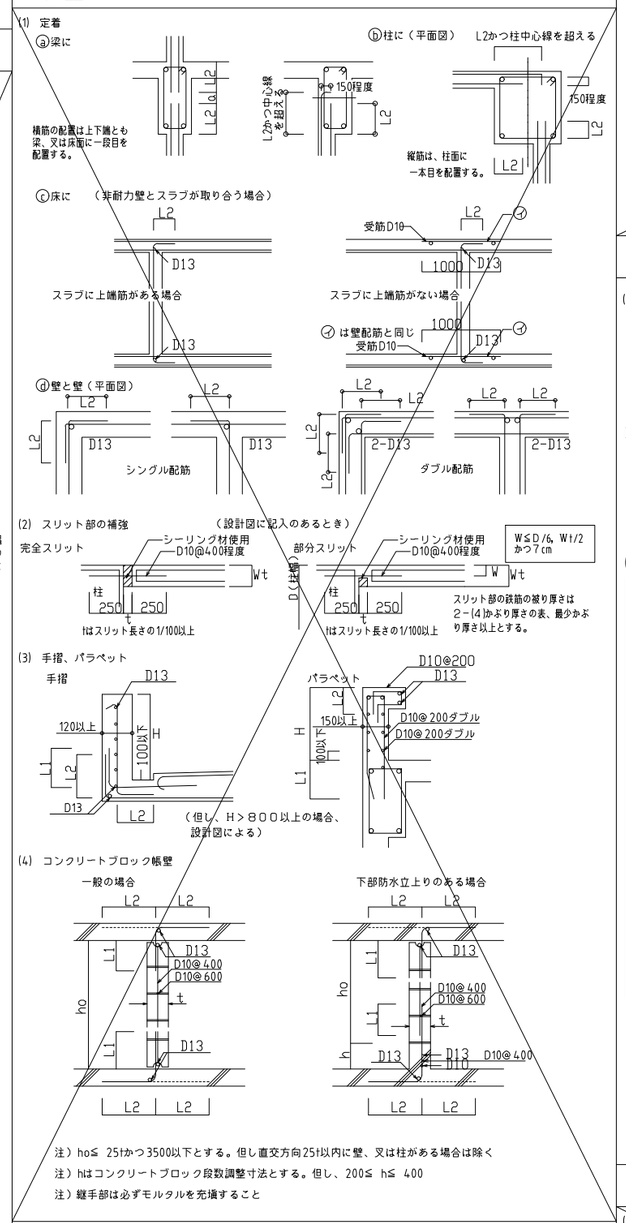
8。床 板



床板厚さD	周 囲	斜 め
D ≦ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≦ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≦ 300	各2-D19	各2-D16

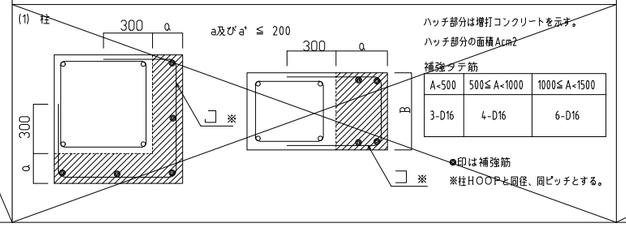
		標準継手位置
上端部	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端部	短辺・長辺方向	A C

9。壁

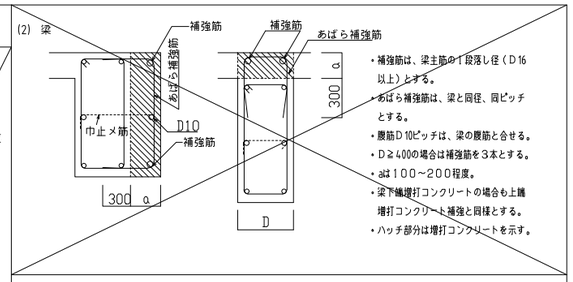


10。柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合せのこと）



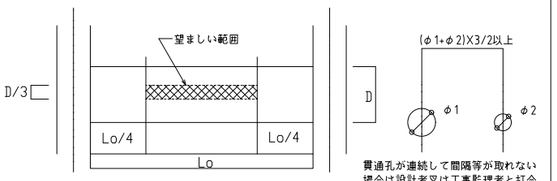
A<500	500≦A<1000	1000≦A<1500
3-D16	4-D16	6-D16



11。梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

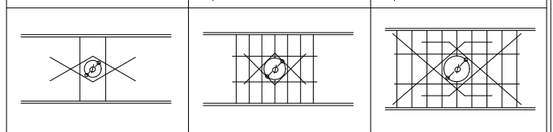
梁端部（スパンLo／１０以内かつ２D以内）は避ける

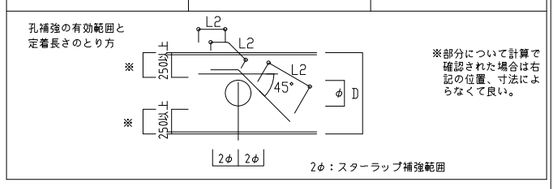


貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

(2) 鉄筋標準配筋　　但し φ ≦ D／3とする

80 ≦ φ ≦ 100	100 < φ ≦ 150	150 < φ ≦ 250
折 筋 2-(2-D13)	折 筋 2-(2-D13)	斜 筋 4-(2-D13)
縦 筋 ST 2-D13	縦 筋 ST 2-D13-@50	縦 筋 ST 2-D13-@50
	横 筋 2-(2-D13)	横 筋 2-(2-D13)
	上下縦筋 ST 2-D13-@50	上下縦筋 ST 2-D13-@50





(3) 既製品　（使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

ウェブレン、ダイヤレン 等 日本建築センター評価取得品とする。

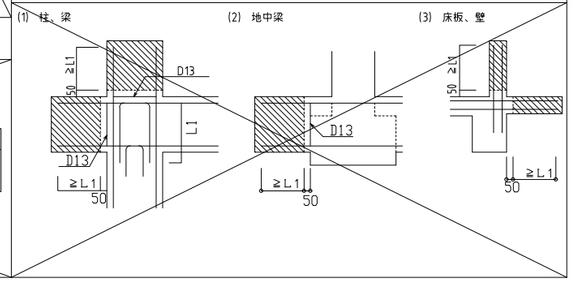
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

□リング型　□パイプ型　□金網型　□プレート型

12。増築予定

（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）



SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 104

[撤去] 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

A3 1/---

DEPT. 構

鉄骨構造標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１。一般事項

（１）材料及び検査

（ａ） 構造設計特記仕様による

（ｂ） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40ｍｍ以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く

（ｃ） 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

（２）工作一般

（ａ） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（ｂ） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（ｃ） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（３）高力ボルト接合

（ａ） 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（ｂ） 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μｍRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

（ｃ） 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

（ａ） 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

（ａ） 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

（ｂ） 溶接機器

（イ） 交流アーク溶接機　300A～500A　　（ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機

（ロ） アークエアーガウジング機（直流）　　（ホ） 溶接電流を測定する電流計

（ハ） サブマージアーク溶接機一式　　（ヘ） 溶接棒乾燥器

（ｃ） 溶接方法

アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）

アークエアーガウジング（ＡＡＧ）　　セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）

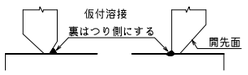
（ｄ） 溶接姿勢

（ｅ） 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

（イ） 仮付位置

組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



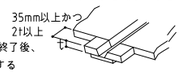
（ｆ） 溶接施工

（イ） エンドタブ

?）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

?）エンドタブの材質は母材と同質とする

?）エンドタブの長さは、ＭＣ：35ｍｍ以上
ＮＧＣ、ＧＣ：40ｍｍ以上とし、特記のない場合は、溶接終了後、母材より10ｍｍ程度残し切断して、グラインダー仕上げとする

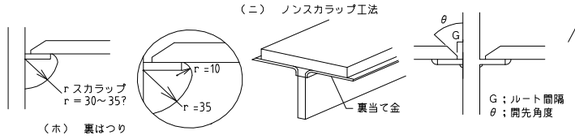


?）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者または工事監理者の承認を得る

（ロ） 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6ｍｍ、半自動溶接で9ｍｍ以上、巾は25ｍｍ以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

（ハ） スカラップ半径は30～35ｍｍと、10ｍｍのダブルアールとする
但し梁成がD＝150ｍｍ未満の場合のスカラップはｒ＝20ｍｍとする

（ニ） ノンスカラップ工法



（ホ） 裏はつり
基準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける

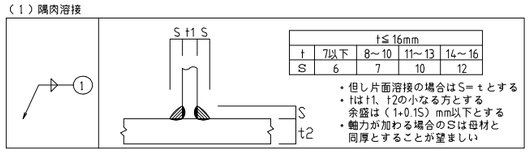
（ヘ） 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に養生を行う

（５）塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様に

２。溶接基準図

（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長　（単位ｍｍ）

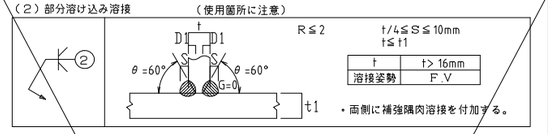
（１）隅肉溶接



	t≦16mm			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS＝ｔとする
・ｔはｔ1、ｔ2のかなる方とする
余盛は（1+0.1S）mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（２）部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）

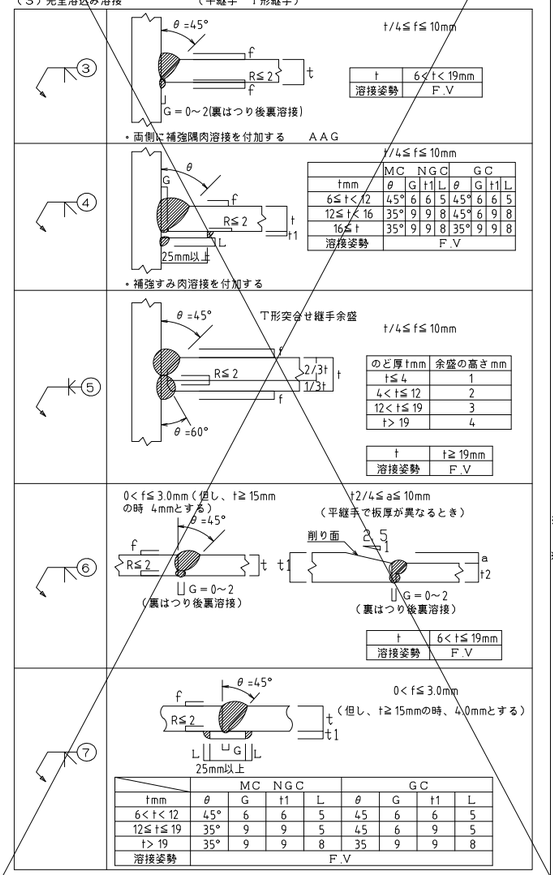


t/4≦S≦10mm
t≦t1

t	t> 16mm
溶接姿勢	F.V

・両側に補強隅肉溶接を付加する。

（３）完全溶込み溶接　（平継手　Ｔ形継手）



t/4≦f≦10mm

t	6≦t< 19mm
溶接姿勢	F.V

・両側に補強隅肉溶接を付加する　ＡＡＧ

t/4≦f≦10mm

	MC　NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t< 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t< 16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

・補強すみ肉溶接を付加する

T形突合せ継手余盛

t/4≦f≦10mm

のど厚tmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4< t≦12	2
12< t≦19	3
t> 19	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F.V

0< f≦3.0mm（但し、t≧15mm の時　4mmとする）

t2/4≦a≦10mm
（平継手で板厚が異なるとき）

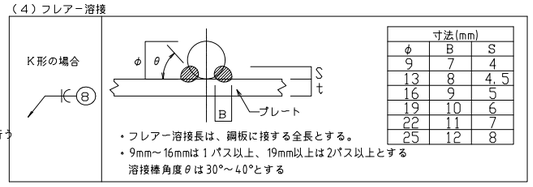
t	6< t≦19mm
溶接姿勢	F.V

0< f≦3.0mm
（但し、t≧15mmの時、4.0mmとする）

	MC　NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6< t< 12	45°	6	6	5	45	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45	6	9	5
t> 19	35°	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（４）フレアー溶接

K形の場合

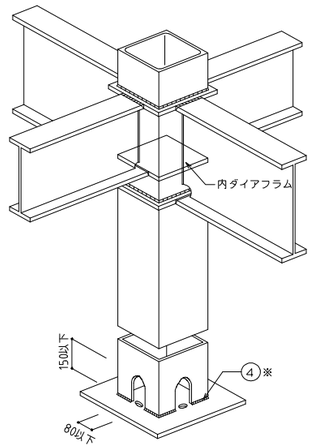


	寸法(mm)	
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

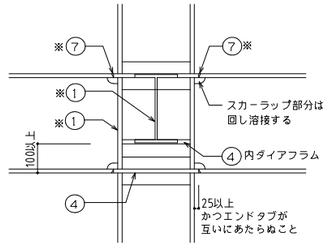
・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする。
・9mm～16mmは１パス以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

○溶接記号番号を○中に記入のこと

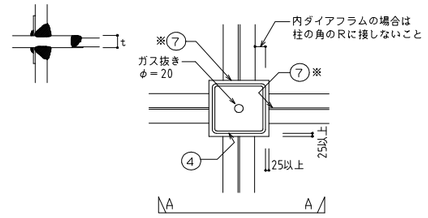
●ＢＯＸ型　（通しダイアフラムの場合）



⑦※はりフランジは、通しダイアフラムの厚み（ｔ）の内部で溶接すること。



Ａ－Ａ断面図

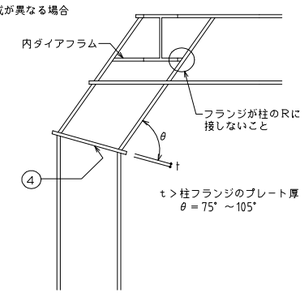


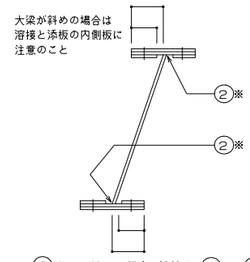
平面詳細

①※ｔ＞16mmの場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
＜柱材料：ＢＣＲ295、ＢＣＰ325を使用する場合＞
ダイアフラムは、柱フランジ厚　16mm未満の場合　ＳＮ490Ｂ・Ｃ
柱フランジ厚　16mm以上の場合　ＳＮ490Ｃ　を使用する

●柱が途中で折れる場合
及び梁成が異なる場合





②※ｔ＞16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

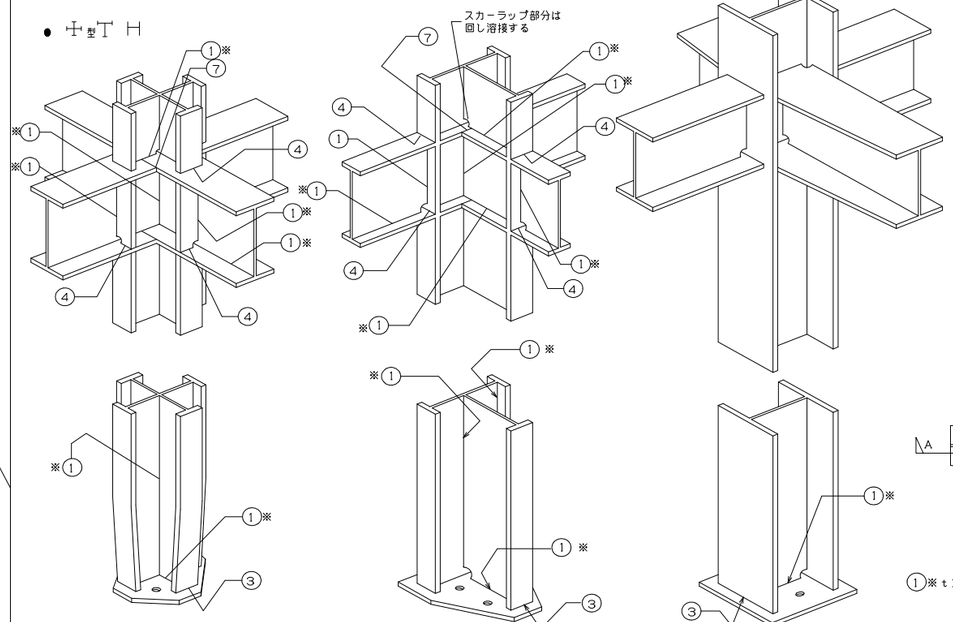
●鋼材種別による溶接条件

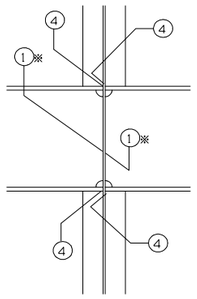
鋼材の種類	溶接材料		入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211、3212、3214		40 以下	350 以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15		
		YGW-18、19		
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		
490N級鋼	JIS Z 3212、3214		40 以下	350 以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15	30 以下	250 以下
		YGW-18、19	40 以下	350 以下
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		

注）STKR、BCR、BCPｍｍは JIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様　6.鉄骨工事(2)ロ認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

●Ｂ．Ｈ方式

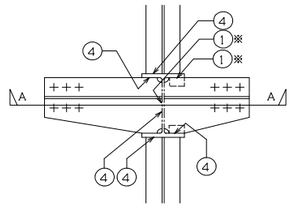
● 十型 T H





Ａ－Ａ断面図

平面詳細



①※ｔ＞16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

①※ｔ＞16mmの場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計	高木　秀晃　一級建築士　大臣登録第280475号
守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 105
［撤去］　鉄骨構造標準図（1）	A3　1/---
	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

鉄骨構造標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

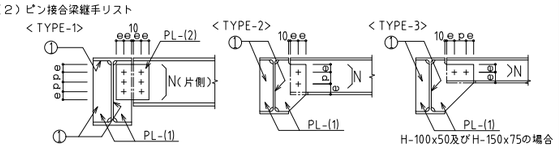
３。継手規準図、その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）　　ボルト穴径・最小縁端距離（mm）

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
			（１）	（２）	（３）	(2)(3)の標準	最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21（16.5）		28	22	（40）	（40）	（60）
	M20	25（20.5）		34	26	（40）	（50）	（60）
	M22	27（22.5）		38	28	（40）	（55）	（60）
	M24	29（24.5）		44	32	（45）	（60）	（70）
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34 以上	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

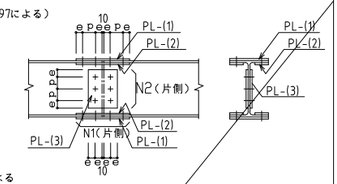
［注］（１）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２）ピン接合梁継手リスト



符　号	タイプ	部　材	PL－(1)	PL－(2)	N－径
		別紙リスト表による			

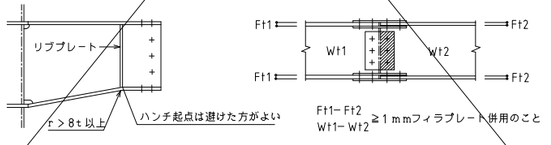
（３）剛接合継手リスト　　（SCSS-H97による）



注）端部をBHとする場合の部材は設計図による

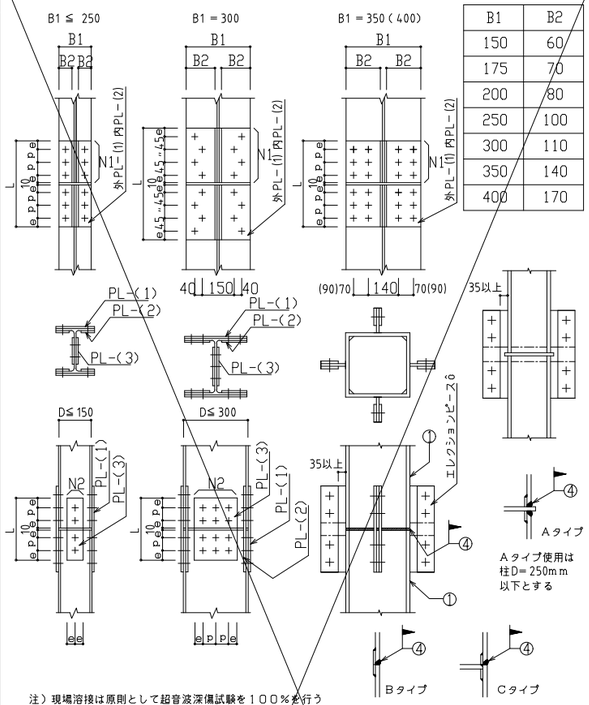
符　号	部　材	フランジ			ウエブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N1－径	PL-(3)	N2－径

（４）ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
r：半径　t：板厚

（５）柱継手リスト　　（SCSS－H97による）



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波深傷試験を１００％を行う

符　号	部　材	フランジ			ウエブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N1－径	PL－(3)	N2－径

（６）鉄筋ブレース　　（JIS規格品とする・・・JIS A 5540・・・1982／5541・5542・・2003）

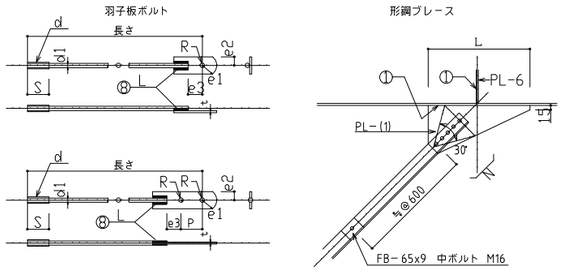
（ａ）羽子板ボルト

ねじの呼び（ｄ）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差＋0～－0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）（２）		e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小）（１）	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小）（１）	e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき（最小）		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		L	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト（２）	種　類		JIS B 1186　2種高力ボルト（F10T）						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

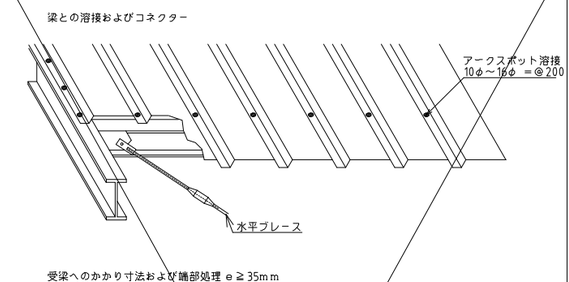
注（１）e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
（２）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（ｂ）形鋼ブレース

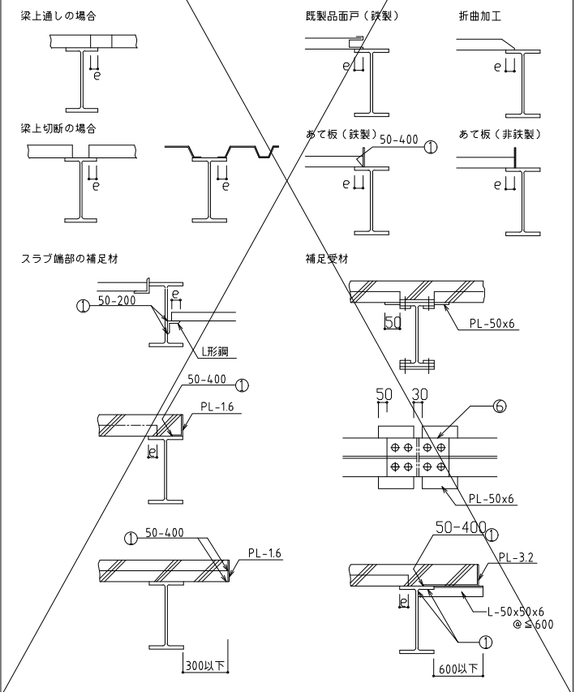
符　号	部　材	PL－(1)	N－径	L



（７）デッキプレート　　（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）



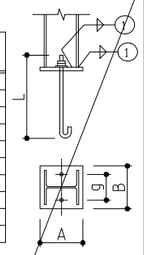
受梁へのかかり寸法および端部処理 e≧35mm



（８）露出柱脚

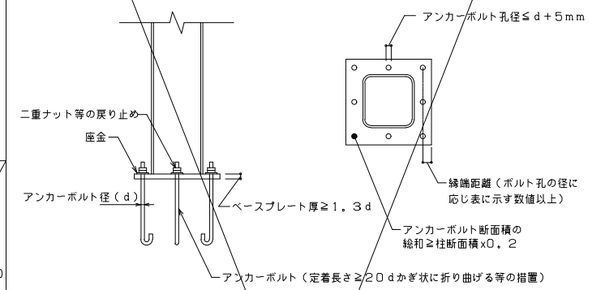
（ａ）Ｈ形鋼（ピン接合）

符　号	部　材	アンカーボルト 径	L	本数	ベースプレート 厚	A	B	g	備　考
	H-250・125・6・9	16	620	2	16	310	180	100	



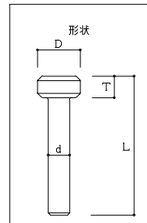
（ｂ）固定・半固定（許容応力度等計算を行わない場合）

注）表は３．（１）の（ｅ）欄に示す



（９）頭付きスタッド　　（JIS 1198）

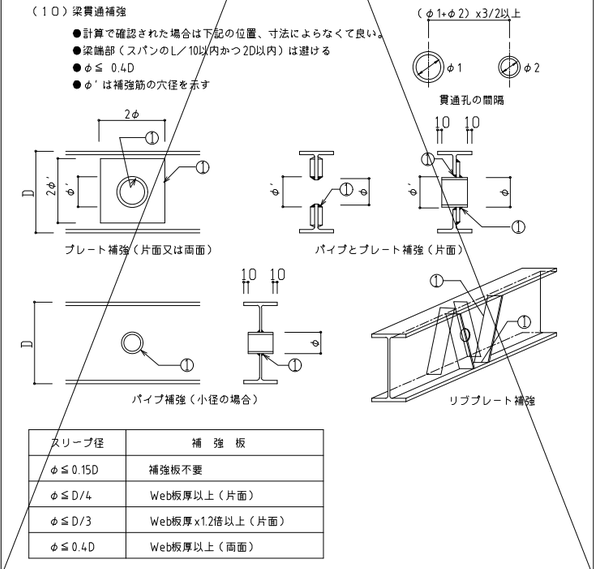
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材 呼び名	軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13 mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50、80、100、130
φ16 mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80、100、130
φ19 mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80、100、130、150
φ22 mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100、130、150

（１０）梁貫通補強

●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
●梁端部（スパンのL／10以内かつ2D以内）は避ける
●φ≦ 0.4D
●φ'は補強筋の穴径を示す



スリーブ径	補　強　板
φ≦0.15D	補強板不要
φ≦D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	Web板厚以上（両面）

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

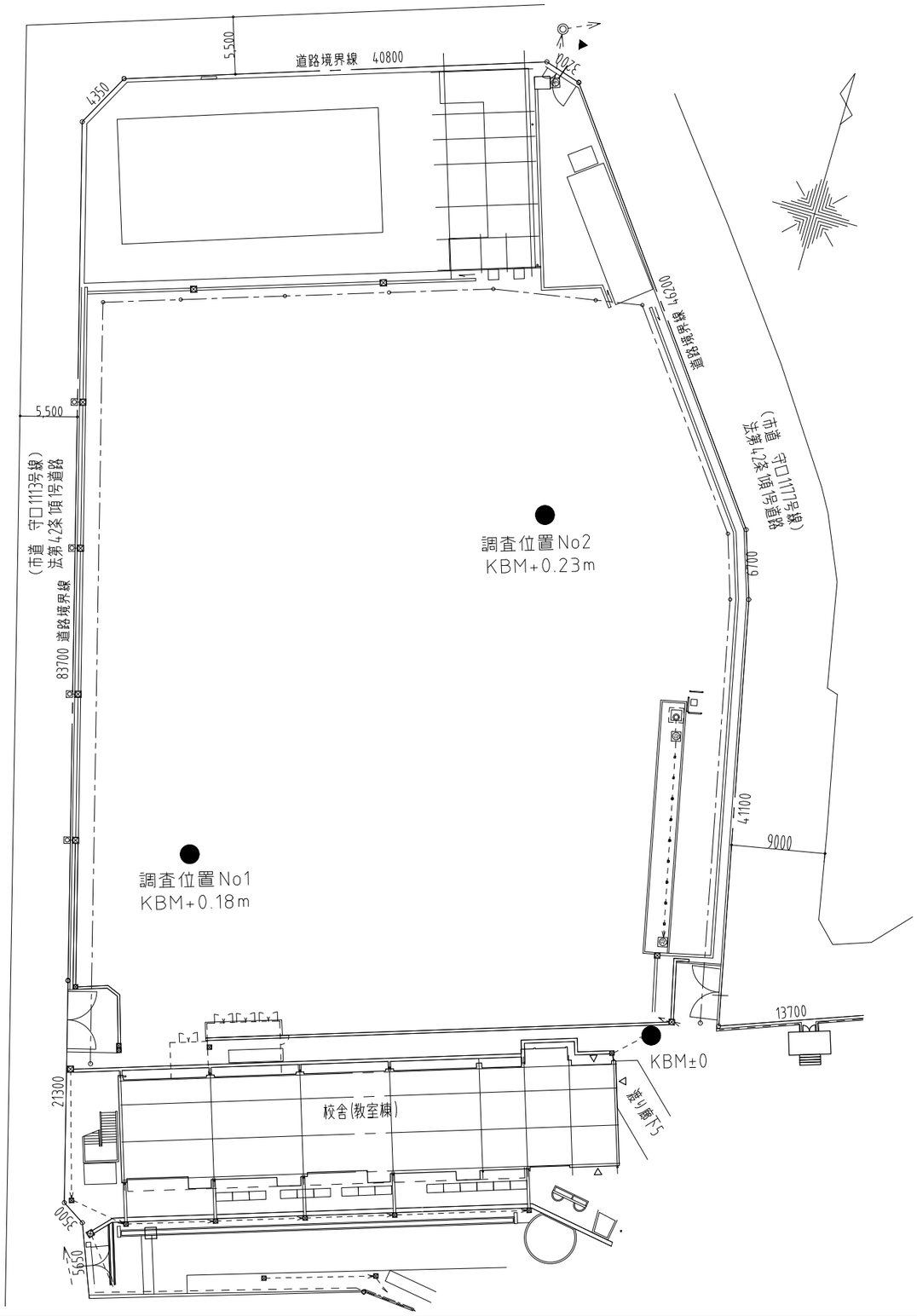
［撤去］　鉄骨構造標準図（２）

A3　1/---

No. 106

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



ボーリング柱状図

調査名　守口小学校仮設校舎他建設工事地質調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1	調査位置	大阪府守口市八島町					北緯	
発注機関				調査期間	令和 5年 6月 5日 ～ 5年 6月 7日			東経	
調査業者名	株式会社 ヒカリ産業 電話 (06-6264-5672)	主任技師		現場代理人	—	コア鑑定者	—	ボーリング責任者	皆川 侑貴
孔口標高	KBM +0.18m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具 / 半自動落下装置
総掘進長	25.44m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)/測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値 SGL=KBM+0.23m	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(～)	掘進月日
	-0.12	0.30	0.30		盛土・砂	黄褐			細～中砂からなる不均一な砂。														
1	-0.82	0.70	1.00		盛土・シルト質砂礫	暗褐			φ2～30mm礫主体。φ100mm以上コンクリートガラ点在。シルト不規則混入。		1.15	3	3	3	9/30	9							
2	-2.52	1.70	2.70		盛土・粘土混り砂	暗褐～灰褐			最上部、砂混り粘土分布、有機物点在。以深、細砂主体。	8/5 2.50	1.45 / 2.15	1	3	4	8/30	8							
3	-3.42	0.90	3.60		シルト質砂	暗青灰	緩い		微細～細砂主体。シルトシーム状多量混入。含水量中位。		2.45 / 3.15	1	2	1	4/30	4							
4					砂	褐灰～灰	中ぐらい		上部は細砂主体。下部は中砂混入。上部、シルト少量混入。含水量中位。		3.45 / 4.15	3	4	5	12/30	12							6/5
5	-5.52	2.10	5.70								4.45 / 5.15	5	7	7	19/30	19							
6	-6.62	1.10	6.80		砂礫	暗青灰	中ぐらい		φ2～10mm礫主体。細～粗砂充填。含水量中位。		5.45 / 6.15	7	4	4	15/30	15							
											6.45												

ボーリング柱状図

調査名　守口小学校仮設校舎他建設工事地質調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	大阪府守口市八島町					北緯	
発注機関				調査期間	令和 5年 6月 8日 ～ 5年 6月 10日			東経	
調査業者名	株式会社 ヒカリ産業 電話 (06-6264-5672)	主任技師		現場代理人	—	コア鑑定者	—	ボーリング責任者	皆川 侑貴
孔口標高	KBM +0.23m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具 / 半自動落下装置
総掘進長	25.50m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)/測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値 SGL=KBM+0.23m	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(～)	掘進月日
	-0.07	0.30	0.30		盛土・砂	黄褐			細～粗砂からなる不均一砂。														
1	-1.67	1.60	1.90		盛土・シルト質砂礫	暗褐			φ100mm以上のコンクリートガラ混入。プラスチックごみ等の人工物点在。		1.00 / 1.50	60/9			60/9	200							
2	-2.57	0.90	2.80		盛土・シルト質砂	暗灰褐			シルト不規則多量混入。	6.8 2.80	2.15 / 2.45	1	1	1	3/30	3							
3	-3.37	0.80	3.60		シルト混り砂	青灰	緩い		細～中砂主体。シルトシーム状混入。		3.45 / 3.75	1	2	4	7/30	7							
4	-3.97	0.60	4.20		砂混りシルト	暗灰			シルト多量混入。		4.45 / 4.75	1	1	4	6/30	6							
5	-5.57	1.60	5.80		砂	淡青灰	中ぐらい		細～中砂主体。粗砂混入。含水量中位。		5.45 / 5.75	6	6	8	20/30	20							6/3
6	-6.17	0.90	6.70		砂礫	暗青灰	中ぐらい		φ2～20mm礫主体。φ30mm礫点在。含水量中位。		6.45 / 6.75	6	7	6	19/30	19							
7											7.45 / 7.75	3	6	8	17/30	17							

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

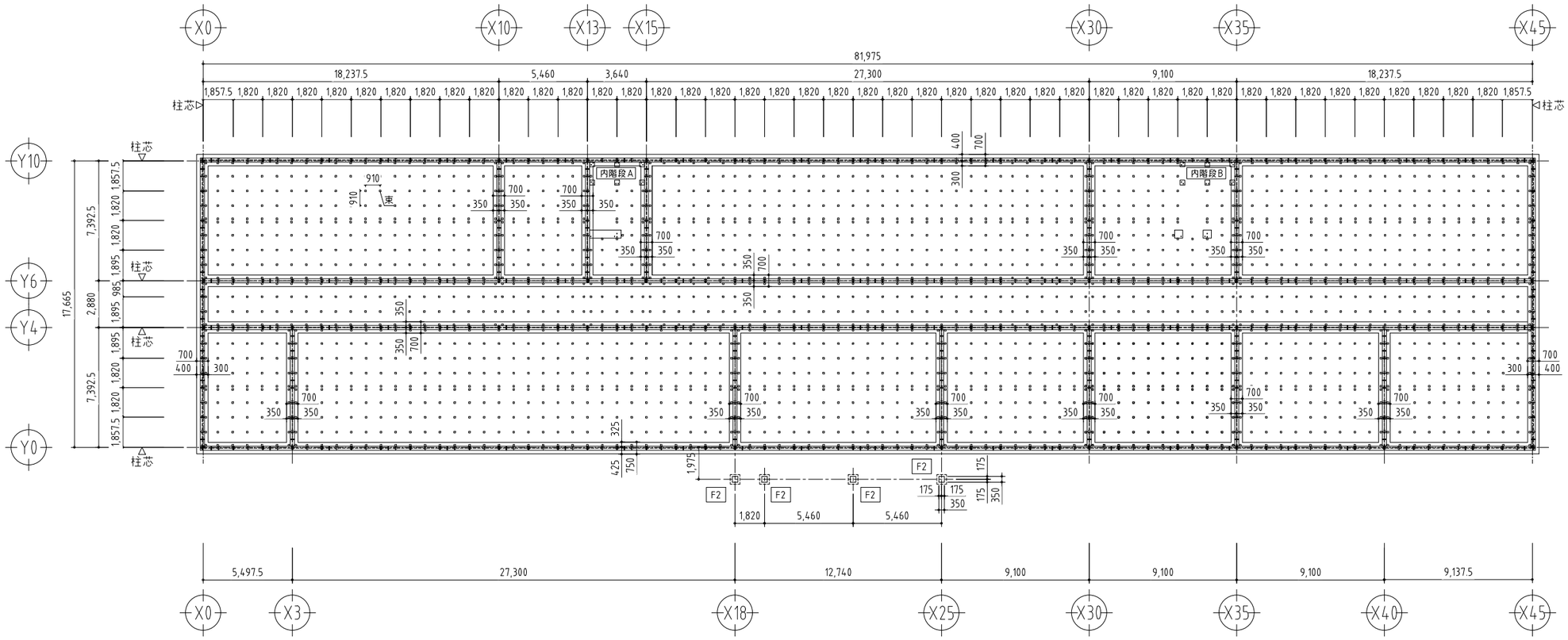
No. 107

[仮設] 土質柱状図

A3 1/---

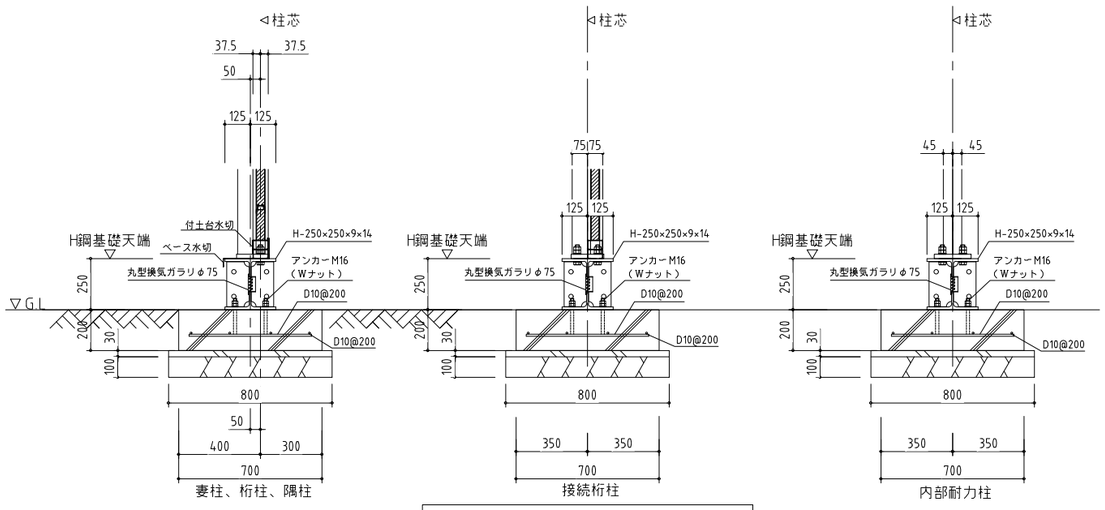
DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

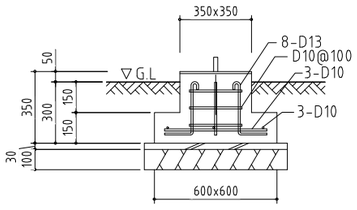


基礎伏図　S=1/300

※特記なき基礎は、F1とする
※内階段部基礎は別図参照のこと



F1 基礎詳細図S=1/30



F2 基礎詳細図S=1/30

特記事項

レディミクストコンクリート	(JIS A 5308)
コンクリート強度	21 N/mm2
異形鉄筋	SD 295（D16 マデ）(JIS G 3112)
鉄筋	重ね継手40dとする。
アンカーボルト	SS400　JIS G 3101
許容地耐力	50 kN/m2

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

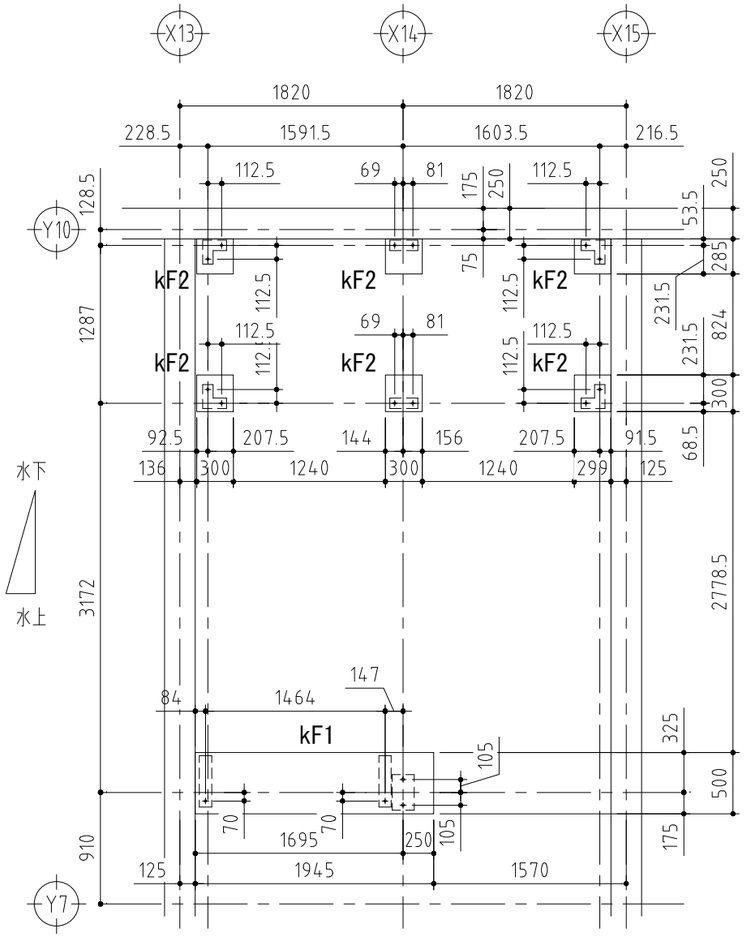
No. 108

[仮設] A棟　基礎伏図・基礎詳細図

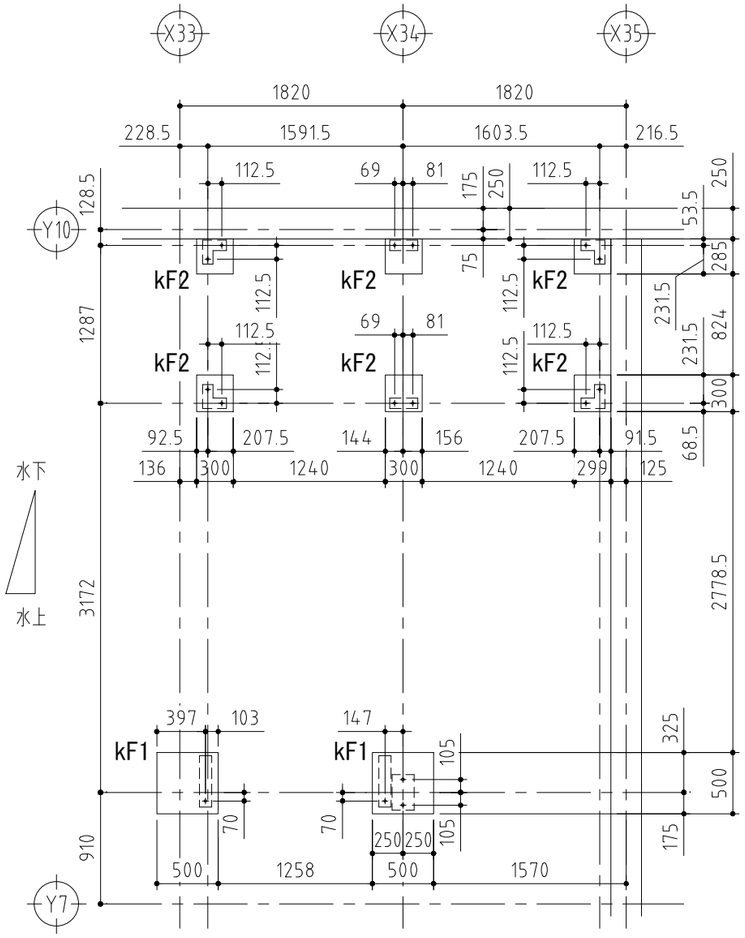
A3　図示

DEPT. 構

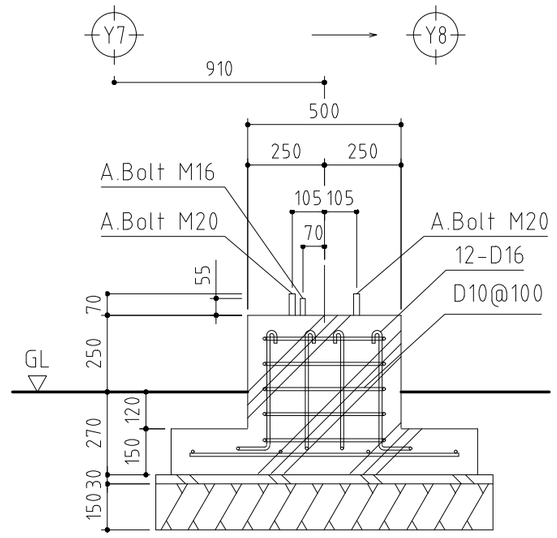
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



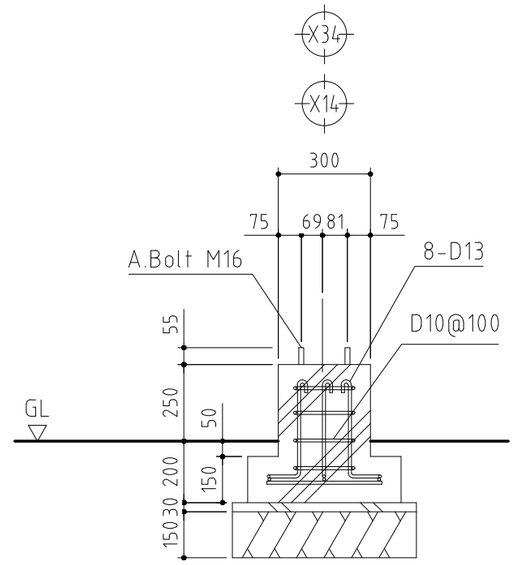
内階段A基礎伏図　S=1/50



内階段B基礎伏図　S=1/50



kF1 基礎詳細図　S=1/20



kF2 基礎詳細図　S=1/20

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

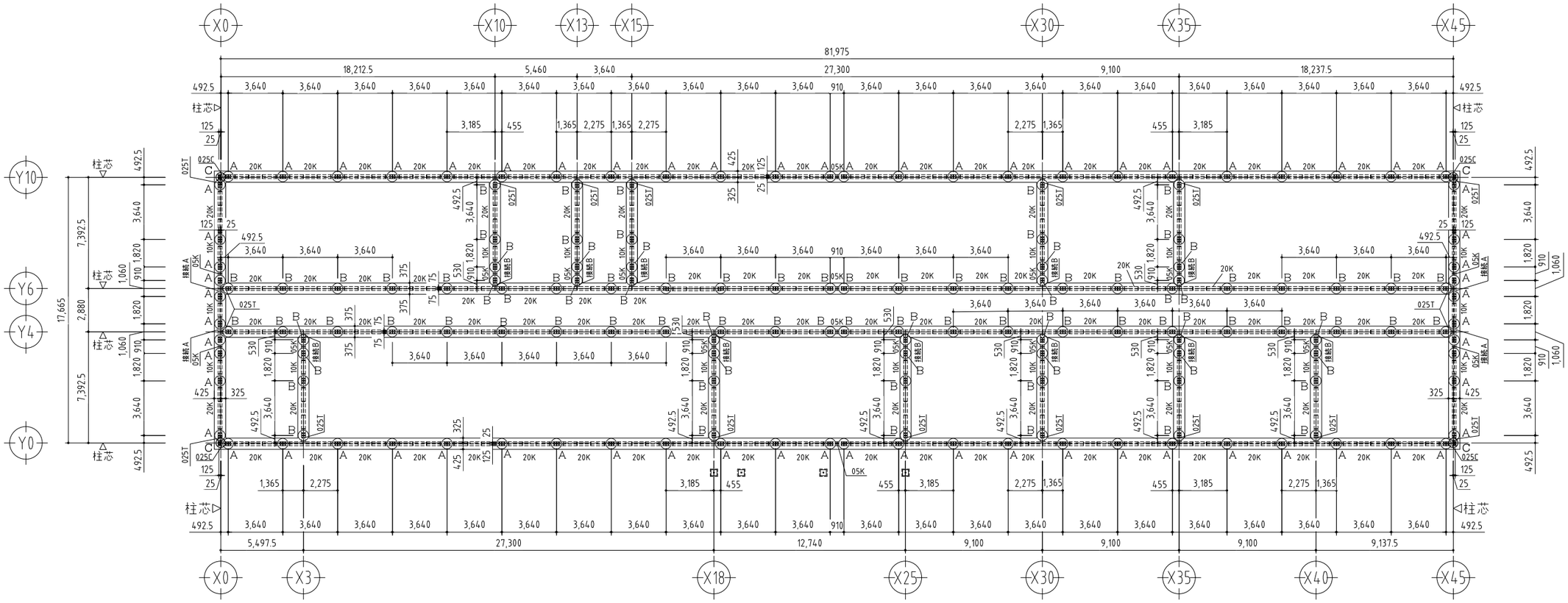
No. 109

[仮設] A棟　内部階段基礎図

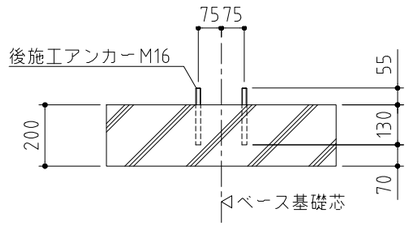
A3　図示

DEPT. 構

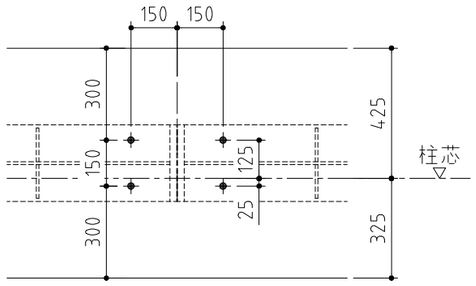
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



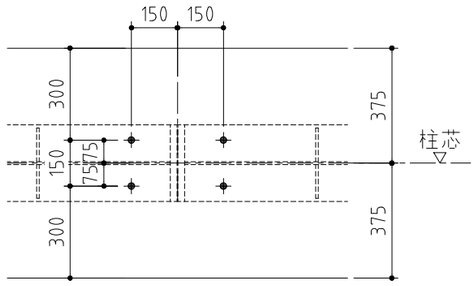
アンカー位置図　S=1/300



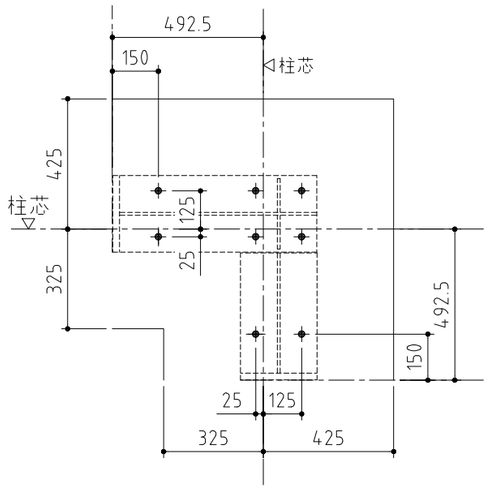
ベース基礎部詳細図 S=1/20



A部詳細図 S=1/15



B部詳細図 S=1/20

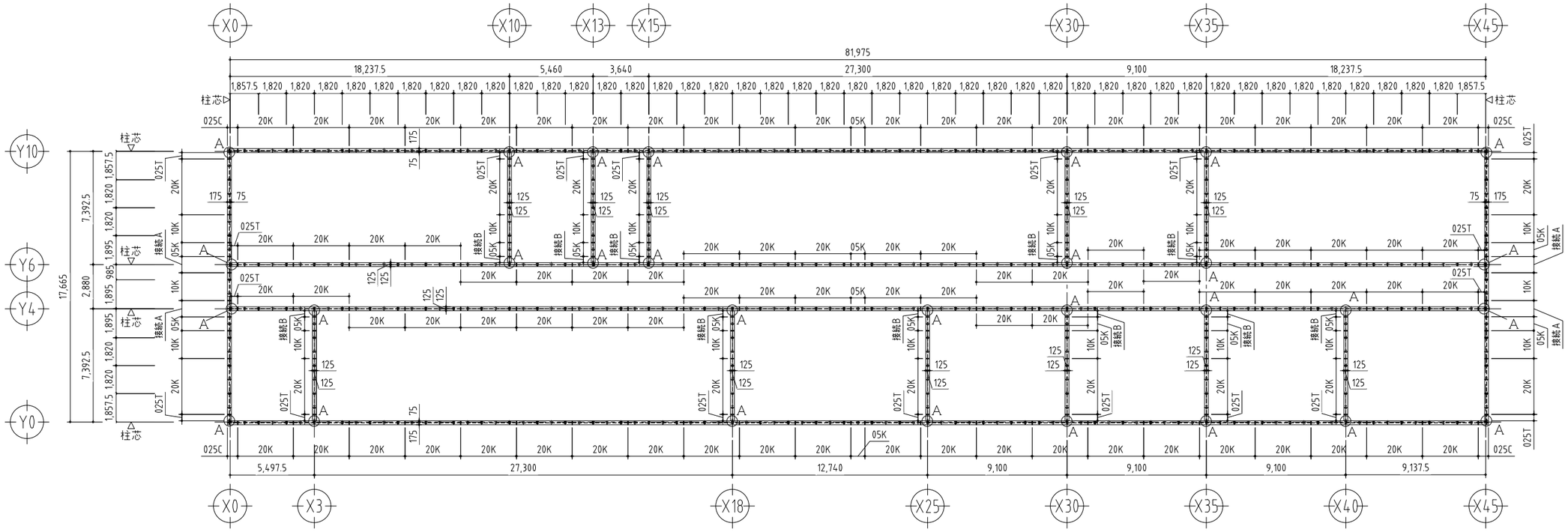


C部詳細図 S=1/20

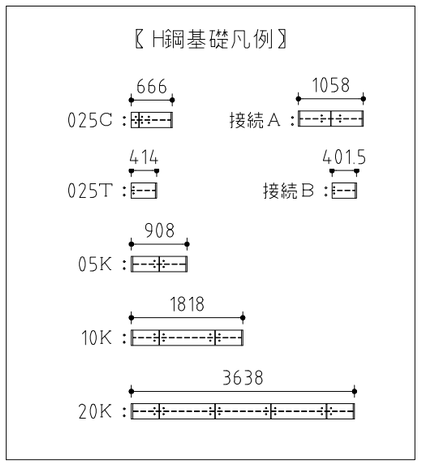
※後施工アンカーはケミカルアンカー標準サイズ同等品とする。（長期許容引張強度19kN以上）

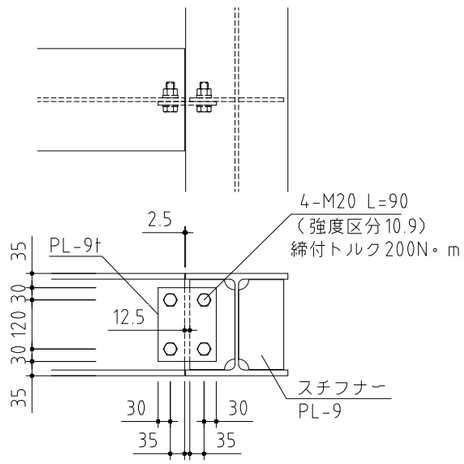
SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 110
	[仮設] A棟 アンカー位置図 A3 図示	DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

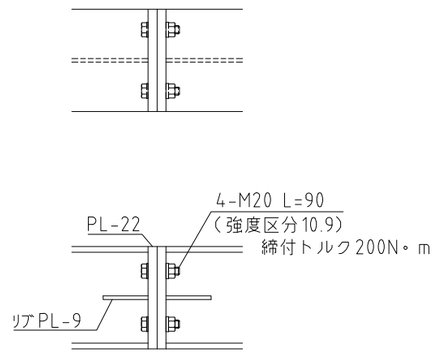


H鋼基礎配置図　S=1/300





A部接続　S=1/15

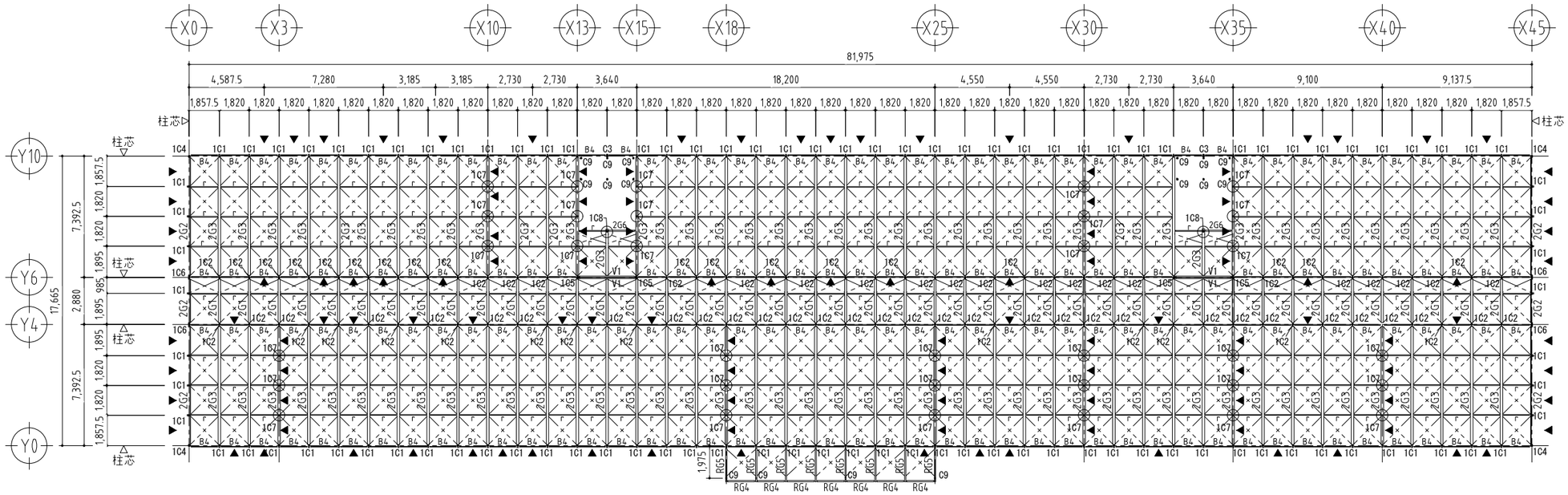


B部接続　S=1/15

※A部以外の接続部

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 111
	[仮設] A棟　H鋼基礎配置図　A3　図示	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



2階梁伏図　S=1/300

——--- は、水平ブレース（M12）を示す。
▲　は、柱ブレース（M20）位置を示す。
○　は、梁下柱を示す。

部　材　リ　ス　ト

符　号	部　材	材　質		
1C1	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L	BPL-22	中ボルト　2-M24
	＋□-75× 75× 3.2	STKR400		
1C2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L	BPL-22	中ボルト　4-M24
	＋2□-75× 45× 3.2	STKR400		
C3	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L	BPL-22	中ボルト　2-M24
	＋2□-75× 45× 3.2	STKR400		
1C4	2C-75× 45× 15× 2.3	SSC400	BPL-22	中ボルト　2-M24
	＋□-75× 75× 2.3	STKR400		
1C5	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L	BPL-22	中ボルト　4-M24
	＋4□-75× 45× 3.2	STKR400		
1C6	2C-75× 45× 15× 2.3	SSC400	BPL-22	中ボルト　2-M24
	＋2□-75× 75× 2.3	STKR400		
1C7	2□-75× 45× 3.2	STKR400	BPL-22	中ボルト　4-M24
1C8	2□-75× 45× 3.2	STKR400	BPL-22	A.Bolt 2-M20
C9	□-75× 75× 2.3	STKR400	BPL-16	A.Bolt 2-M16 L=350　定着L=255

符　号	部　材	材　質		
2G1	H-248× 124× 5× 8	SS400	GPL-6	中ボルト　3-M16
2G2	[-100× 50× 5× 7.5	SS400		中ボルト　2-M12
2G3	H-298× 149× 5.5× 8	SS400	GPL-6	中ボルト　3-M16
RG4	[-150× 75× 6.5× 10	SS400	GPL-6	中ボルト　2-M12
RG5	H-150× 75× 5× 7	SS400	GPL-6	中ボルト　2-M16
2G6	[-150× 75× 6.5× 10	SS400	GPL-6	中ボルト　2-M12
V1	上下弦材：2□-75× 75× 3.2	STKR400	GPL-6	中ボルト　3-M16
D=550	ラチス材：□-75× 75× 3.2	STKR400		
r	C-75× 45× 15× 2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト　2-M12
B4	C-75× 45× 15× 2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト　2-M12
水平ﾌﾞﾚｰｽ　——-	1-M12（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-6 羽子板PL-6	ボルト（強度区分 10.9）1-M16
柱ﾌﾞﾚｰｽ　▲	1-M20（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-9 羽子板PL-9	ボルト（強度区分 10.9）1-M20

※中ボルトは戻り止め仕様（スプリングワッシャー使用）とする。

・鋼材

■SSC400	(ツナギ・母屋・柱)	JIS G 3350
■SWH400L	(柱)	JIS G 3353
■STKR400	(柱・開口梁)	JIS G 3466
■SS400	(梁・アンカーボルト)	JIS G 3101
■仕上ボルト	ボルト強度区分4.8 ボルト強度区分10.9	JIS B 1180
■SNR400B	(ブレース・ターンバックル)	JIS A 5540

部　材　断　面

1C1	1C2	C3	1C4	1C5	1C6	1C7	1C8	C9	2G1	2G2	2G3	RG4	RG5	2G6
ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋□-75× 75× 3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋2□-75× 45× 3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋2□-75× 45× 3.2	2C-75× 45× 15× 2.3 ＋□-75× 75× 2.3	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋4□-75× 45× 3.2	2C-75× 45× 15× 2.3 ＋2□-75× 75× 2.3	2□-75× 45× 3.2	2□-75× 45× 3.2	□-75× 75× 2.3	H-248× 124× 5× 8	[-100× 50× 5× 7.5	H-298× 149× 5.5× 8	[-150× 75× 6.5× 10	H-150× 75× 5× 7	[-150× 75× 6.5× 10

V1	r	B4	柱ﾌﾞﾚｰｽ	水平ﾌﾞﾚｰｽ
550 上下弦材：2□-75× 75× 3.2 ラチス材：□-75× 75× 3.2	C-75× 45× 15× 2.3	C-75× 45× 15× 2.3	1-M20	1-M12

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

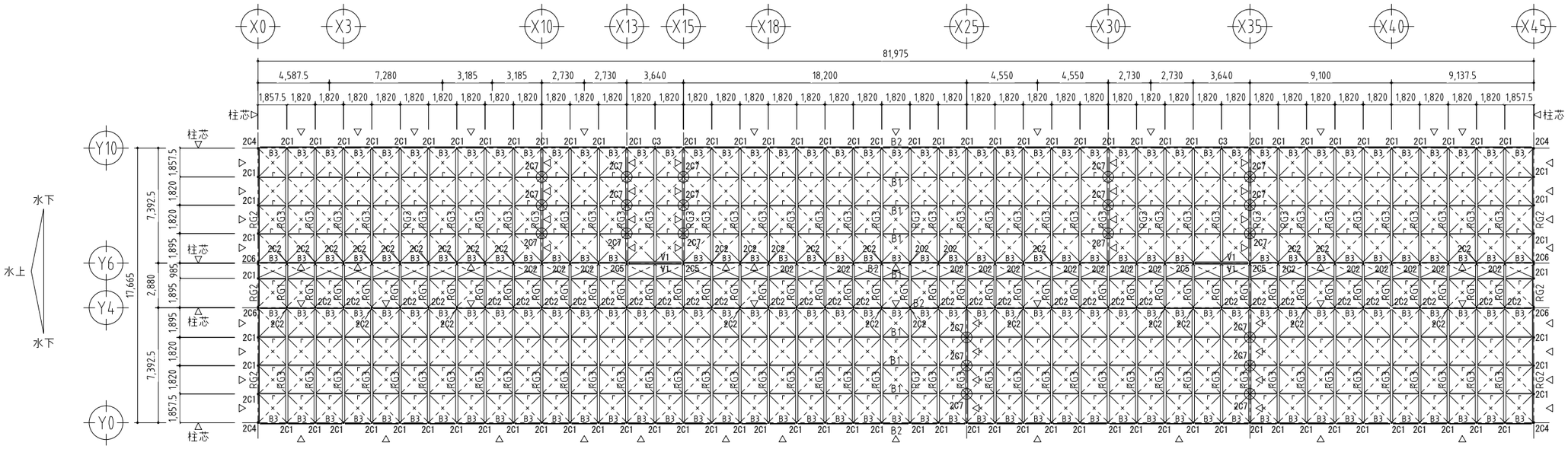
No. 112

[仮設] A棟　2階梁伏図

A3　1/300

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



小屋梁伏図　S=1/300

——--- は、水平ブレース（M12）を示す。
△　は、柱ブレース（M14）位置を示す。
○　は、梁下柱を示す。

部　材　リ　ス　ト

符　号	部　材	材　質
2C1	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L
2C2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L
	＋ 2□-75× 45× 3.2	STKR400
C3	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L
	＋ 2□-75× 45× 3.2	STKR400
2C4	2C-75× 45× 15× 2.3	SSC400
	＋□-75× 75× 2.3	STKR400
2C5	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L
	＋ 4□-75× 45× 3.2	STKR400
2C6	2C-75× 45× 15× 2.3	SSC400
	＋ 2□-75× 75× 2.3	STKR400
2C7	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	SWH400L

符　号	部　材		材　質		
RG1	H-248× 124× 5× 8		SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16
RG2	[-100× 50× 5× 7.5		SS400		中ボルト 2-M12
RG3	H-298× 149× 5.5× 8		SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16
V1	上下弦材：2□-75× 75× 3.2		STKR400	GPL-6	中ボルト 3-M16
D=550	ラチス材：□-75× 75× 3.2		STKR400		
r	C-75× 45× 15× 2.3		SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12
B1	C-75× 45× 15× 2.3　母屋@1820		SSC400		中ボルト 1-M12
B2	C-75× 45× 15× 2.3		SSC400		中ボルト 1-M12
B3	C-75× 45× 15× 2.3		SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12
水平ﾌﾞﾚｰｽ	——	1-M12（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-6 羽子板PL-6	ボルト（強度区分 10.9）1-M16
柱ﾌﾞﾚｰｽ	△	1-M14（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-9 羽子板PL-6	ボルト（強度区分 10.9）1-M16

※中ボルトは戻り止め仕様（スプリングワッシャー使用）とする。

・鋼材

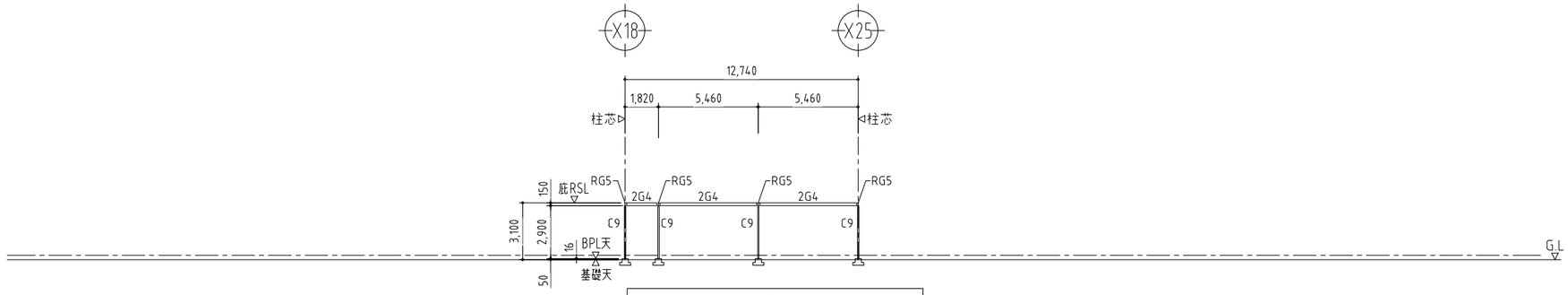
■SSC400	(ツナギ・母屋・柱)	JIS G 3350
■SWH400L	(柱)	JIS G 3353
■STKR400	(柱・開口梁)	JIS G 3466
■SS400	(梁)	JIS G 3101
■仕上ボルト	ボルト強度区分4.8 ボルト強度区分10.9	JIS B 1180
■SNR400B	(ブレース・ターンバックル)	JIS A 5540

部　材　断　面

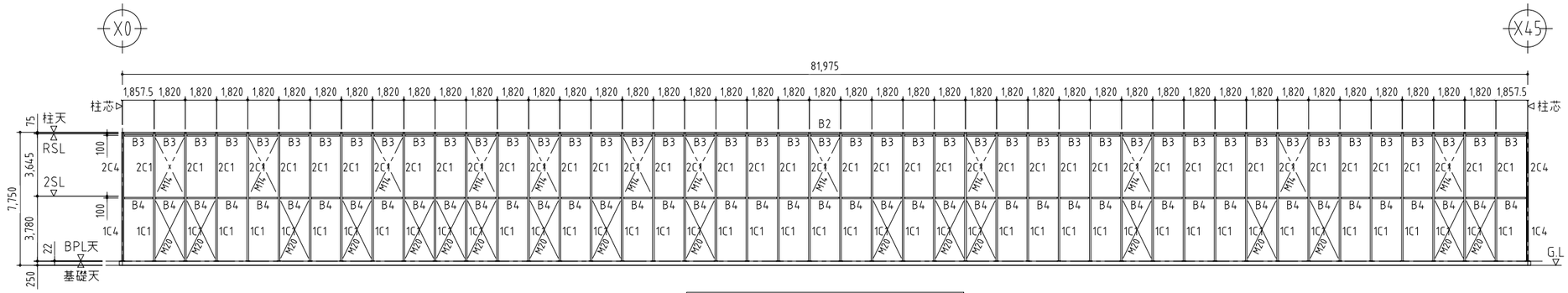
2C1	2C2	C3	2C4	2C5	2C6	2C7	RG1	RG2	RG3	r	B1	B2	B3
ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋ 2□-75× 45× 3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋ 2□-75× 45× 3.2	2C-75× 45× 15× 2.3 ＋□-75× 75× 2.3	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2 ＋ 2□-75× 45× 3.2	2C-75× 45× 15× 2.3 ＋ 2□-75× 75× 2.3	ﾘｯﾌﾟ H-75× 90× 15× 3.2× 3.2	H-248× 124× 5× 8	[-100× 50× 5× 7.5	H-298× 149× 5.5× 8	C-75× 45× 15× 2.3	C-75× 45× 15× 2.3	C-75× 45× 15× 2.3	C-75× 45× 15× 2.3
V1		柱ﾌﾞﾚｰｽ	水平ﾌﾞﾚｰｽ										
550 上下弦材：2□-75× 75× 3.2 ラチス材：□-75× 75× 3.2		○ 1-M14	○ 1-M12										

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計	高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 113
		[仮設] A棟　小屋梁伏図　A3　1/300	DEPT. 構

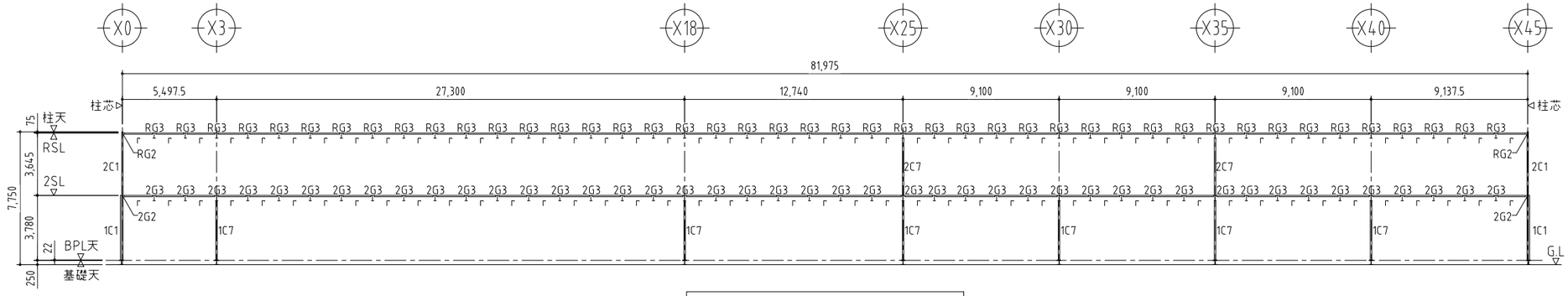
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



Y0-1975通 軸組図 S=1/300



Y0通 軸組図 S=1/300



Y1～3通 軸組図 S=1/300

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

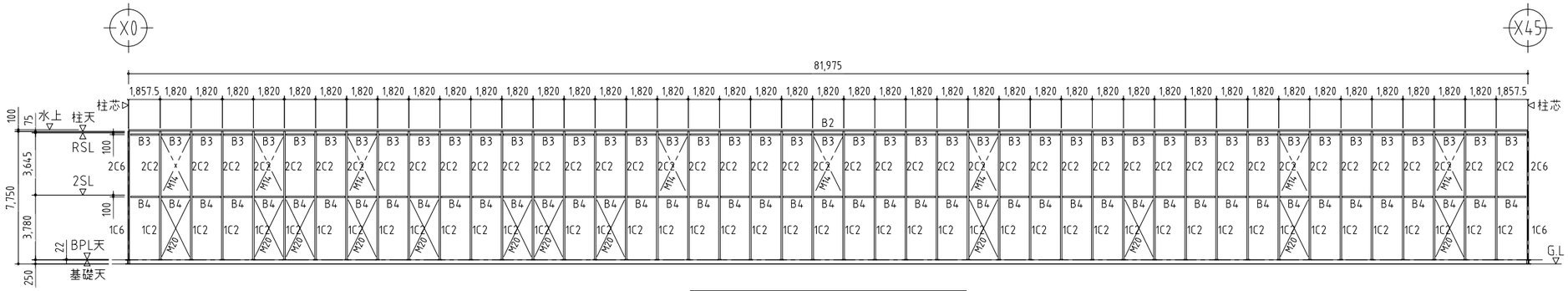
No. 114

[仮設] A棟 軸組図 1

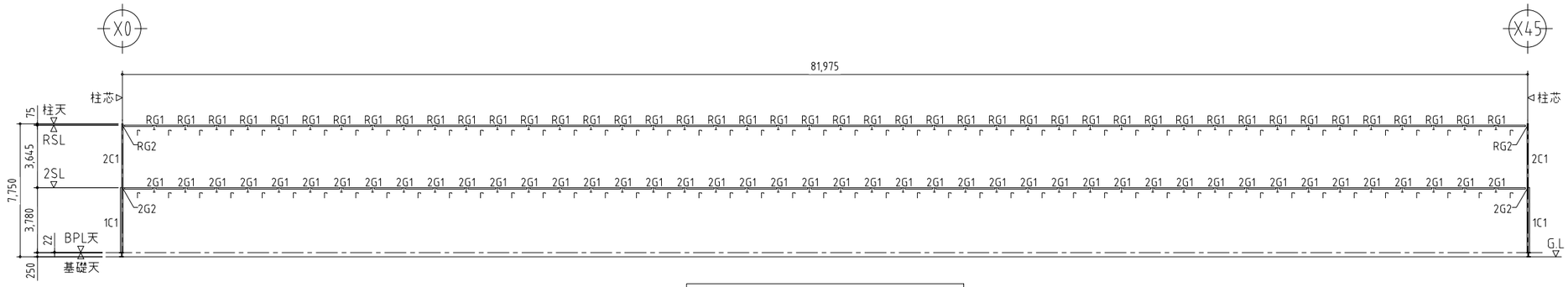
A3 1/300

DEPT 構

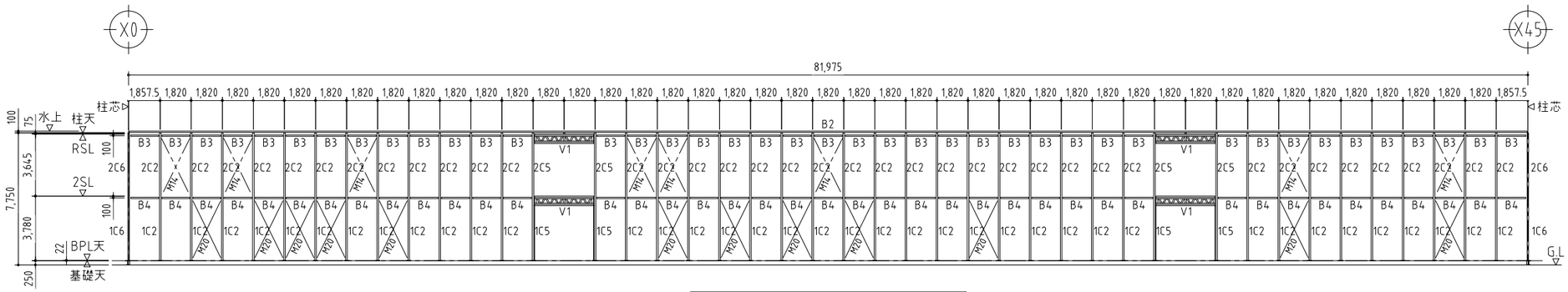
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y4通 軸組図 S=1/300



Y5通 軸組図 S=1/300



Y6通 軸組図 S=1/300

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

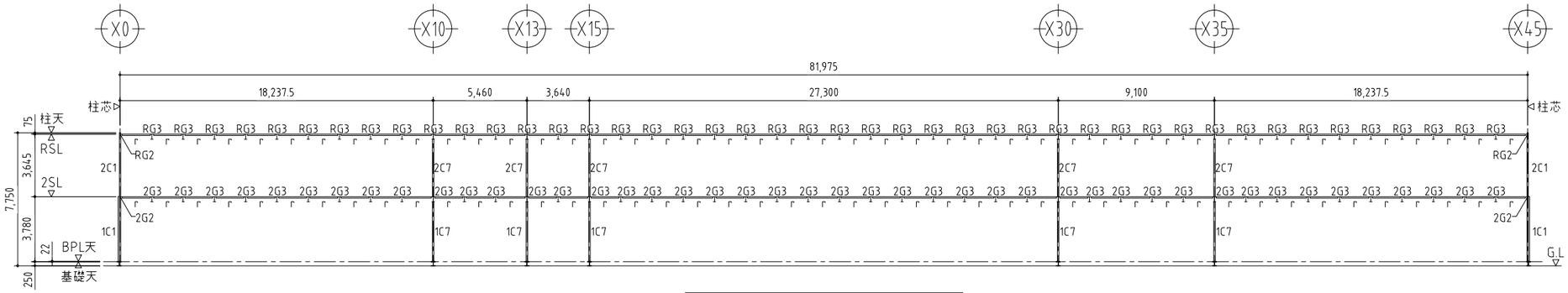
No. 115

[仮設] A棟 軸組図２

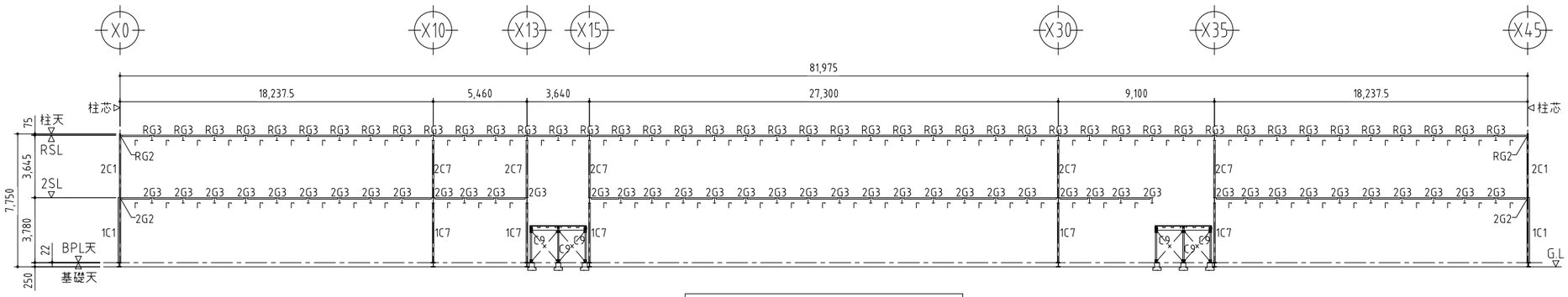
A3 1/300

DEPT. 構

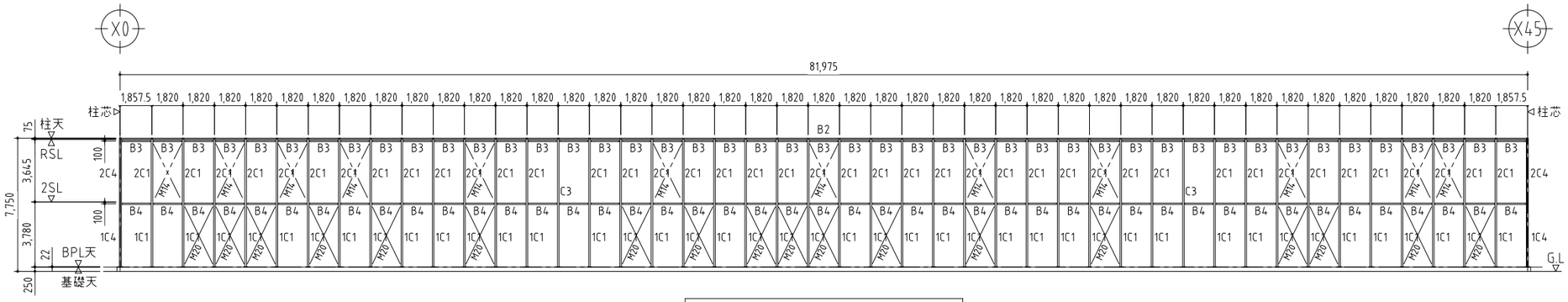
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y7通 軸組図 S=1/300



Y8,9通 軸組図 S=1/300



Y10通 軸組図 S=1/300

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

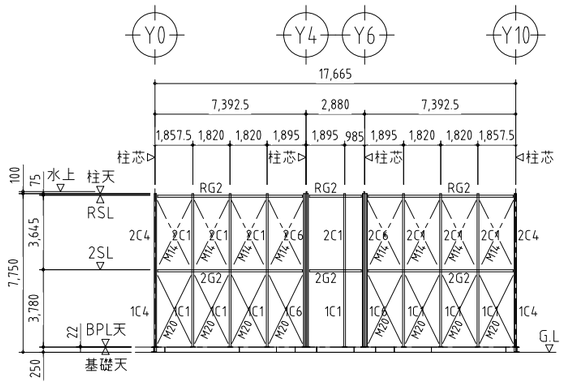
No. 116

[仮設] A棟 軸組図３

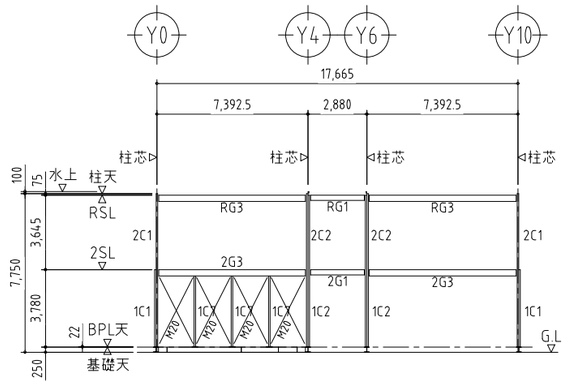
A3 1/300

DEPT. 構

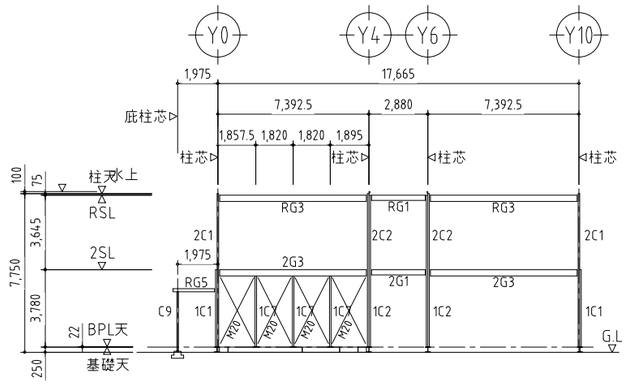
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



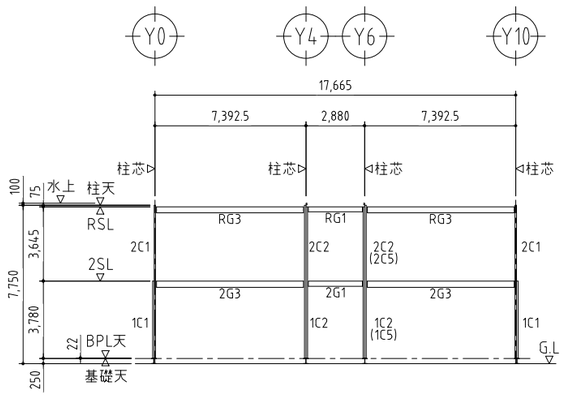
X0通 軸組図 S=1/300

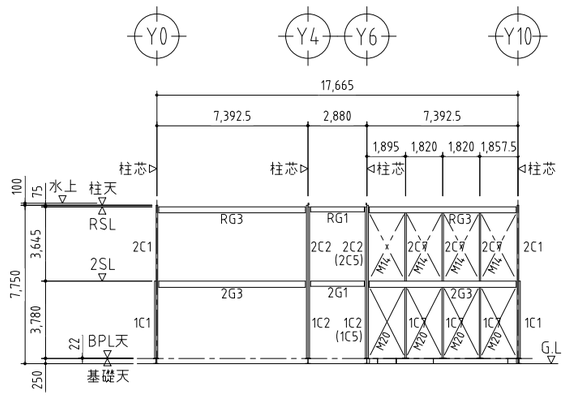


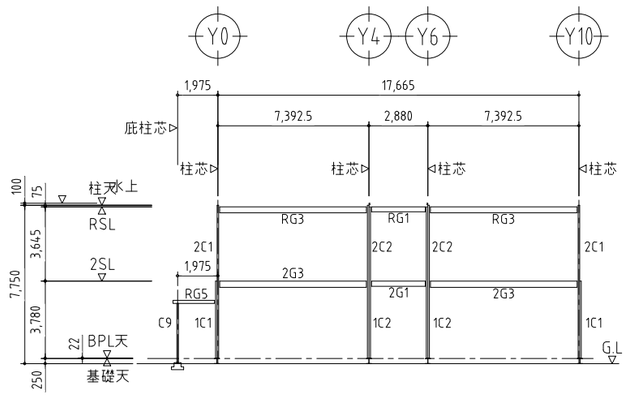
X3,40通 軸組図 S=1/300



X18通 軸組図 S=1/300



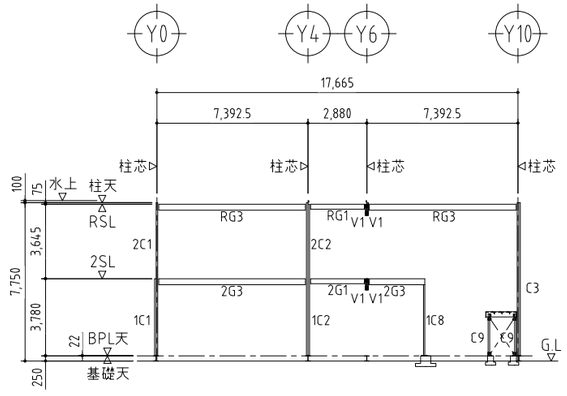




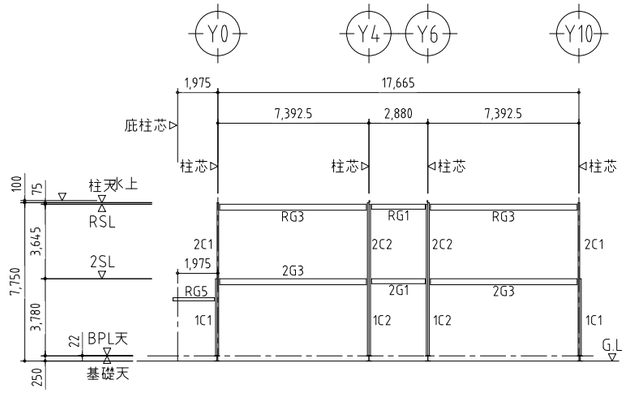
X19,22通 軸組図 S=1/300

X1,2,X4～9通 軸組図 S=1/300
X11,12,16,17通 軸組図 S=1/300
X26～29通 軸組図 S=1/300
X31,32,(33)通 軸組図 S=1/300
X36～39通 軸組図 S=1/300
X41～44通 軸組図 S=1/300

X10通 軸組図 S=1/300
(X13,15通) 軸組図 S=1/300



X14,34通 軸組図 S=1/300



X20,21,23,24通 軸組図 S=1/300

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

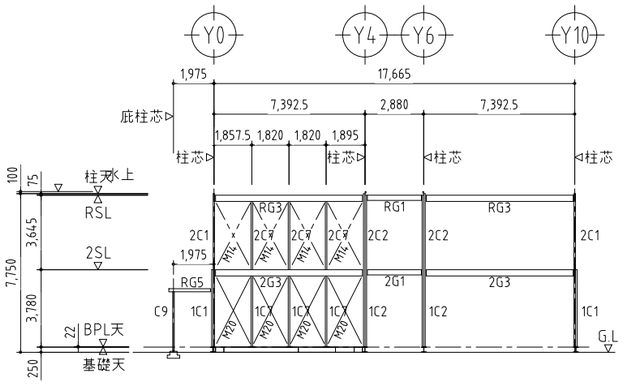
No. 117

[仮設] A棟 軸組図4

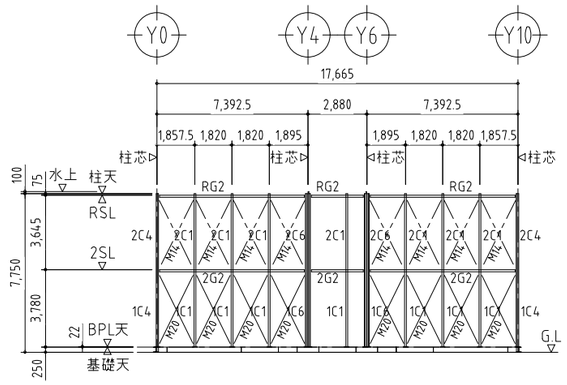
A3 1/300

DEPT. 構

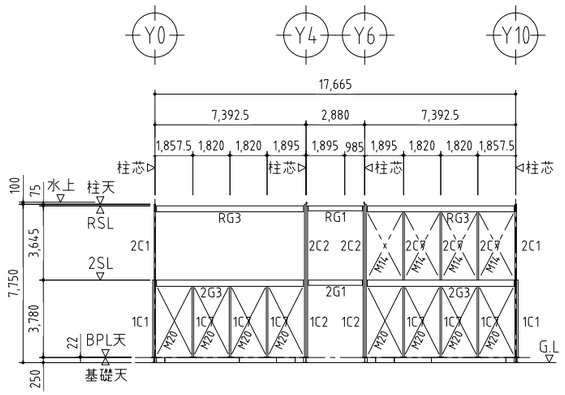
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



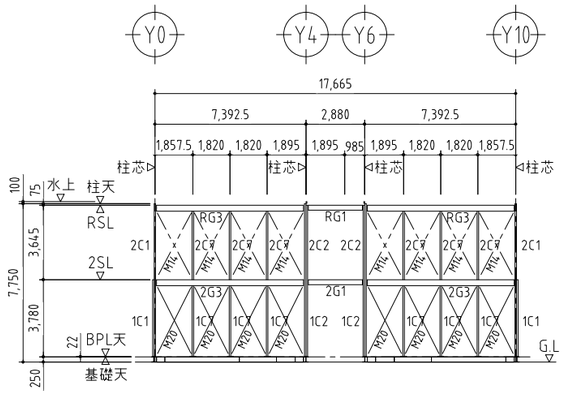
X25通 軸組図 S=1/300



X45通 軸組図 S=1/300



X30通 軸組図 S=1/300



X35通 軸組図 S=1/300

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

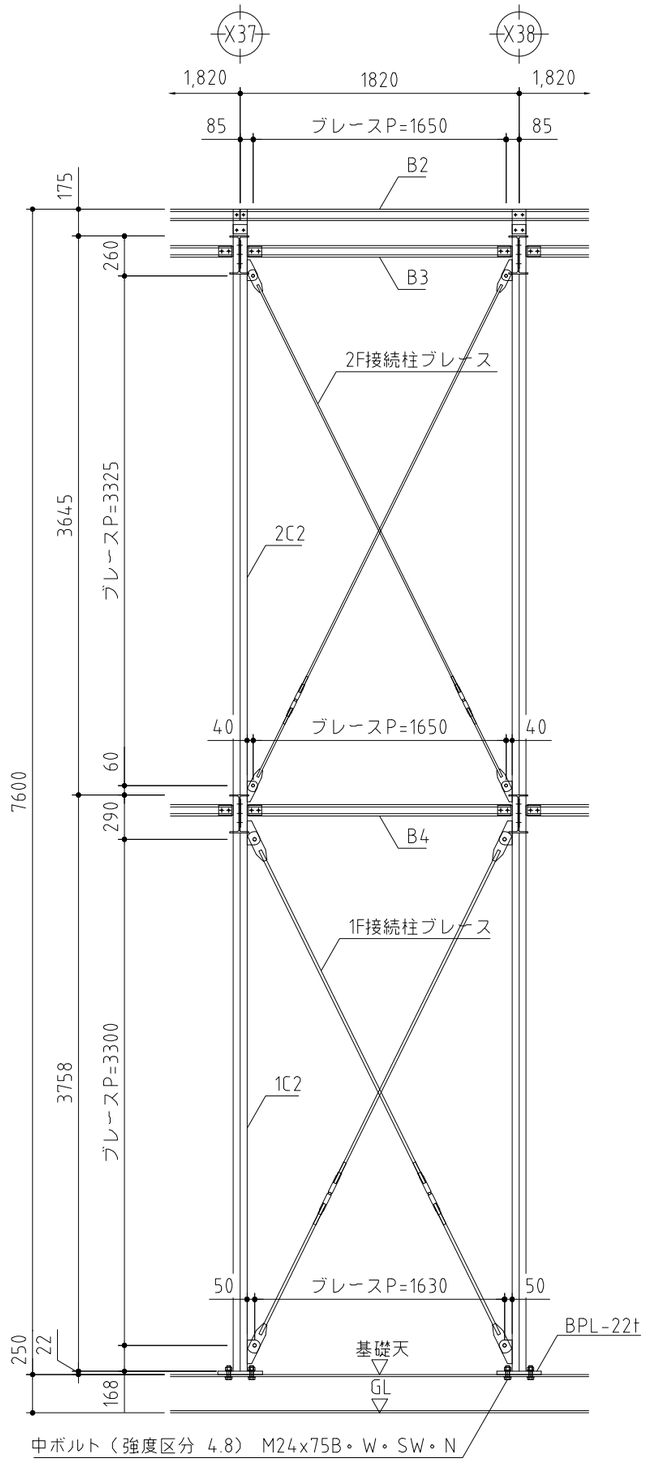
No. 118

[仮設] A棟 軸組図５

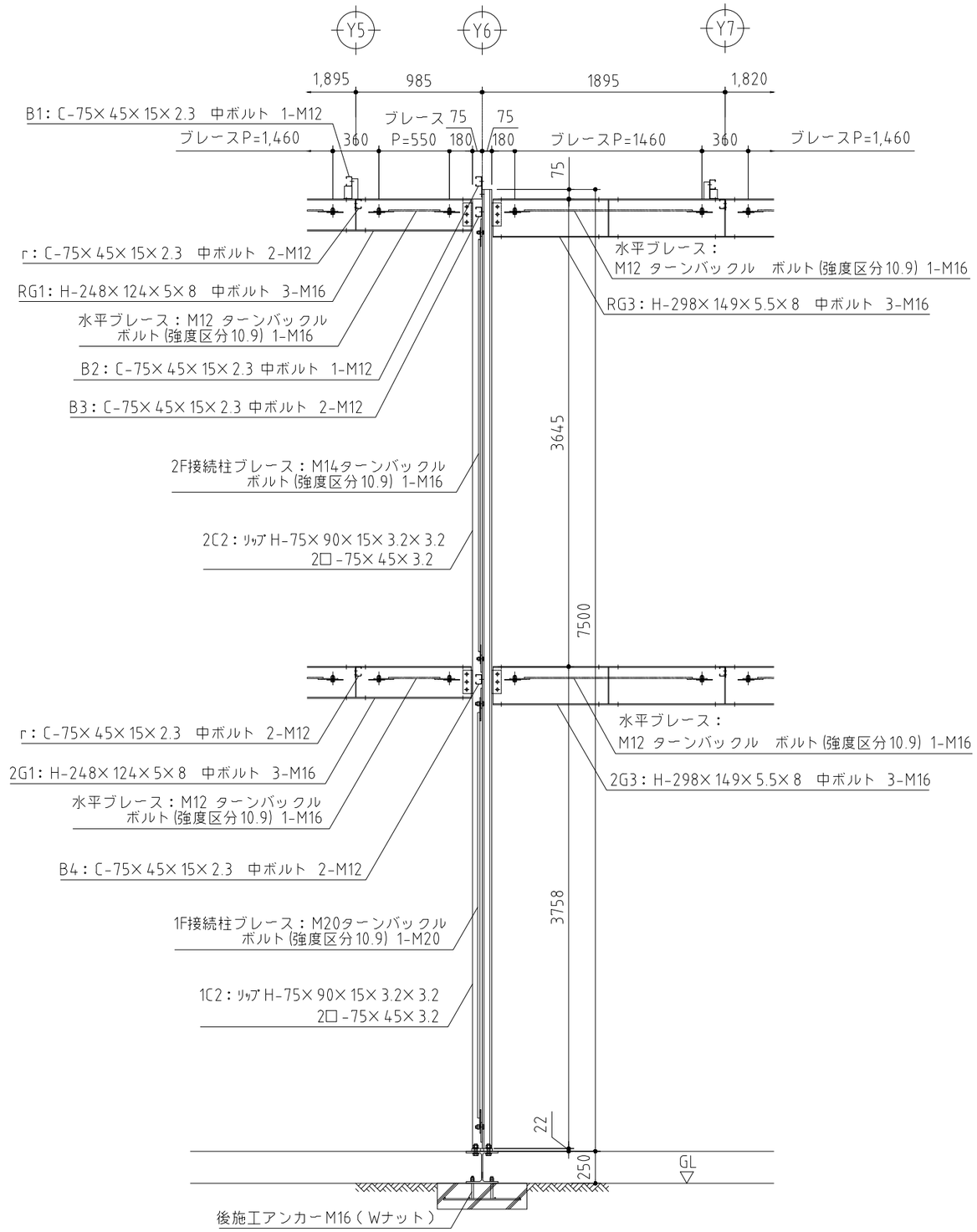
A3 1/300

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y6通 架構図（接続部） S=1/40



X37通 架構図（接続部） S=1/40

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

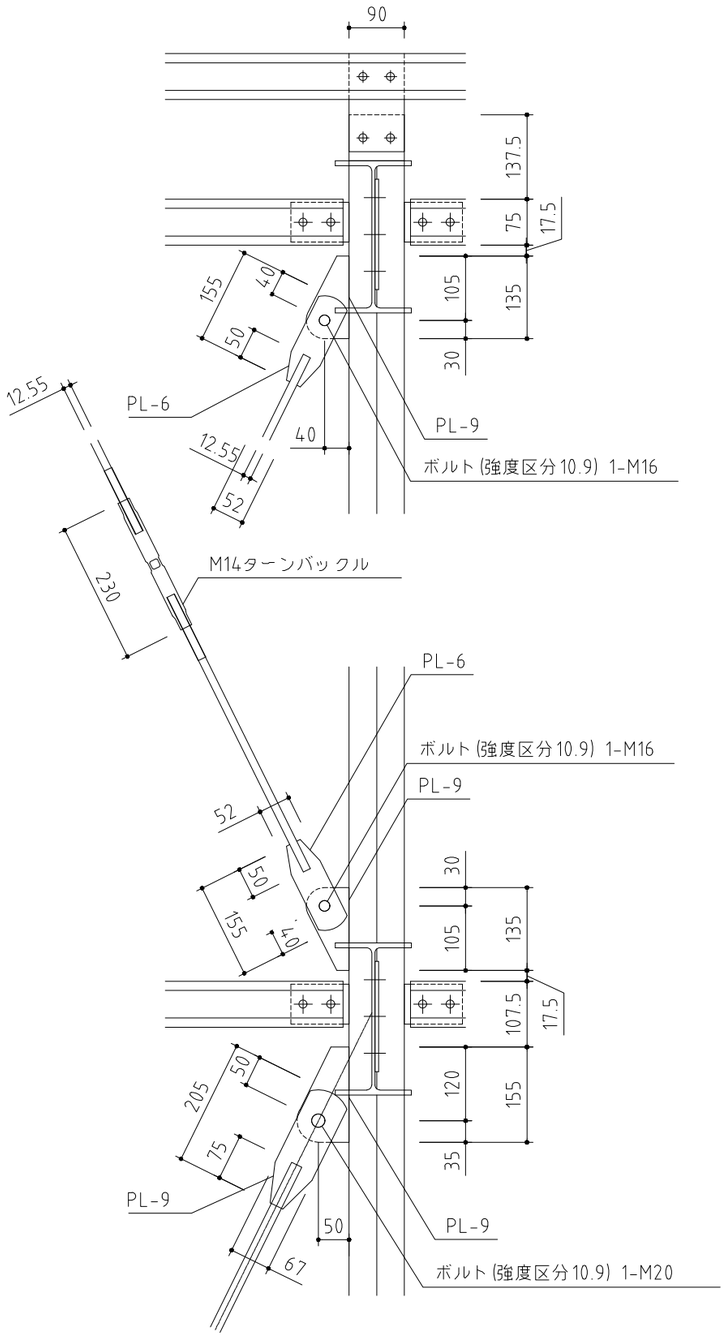
No. 119

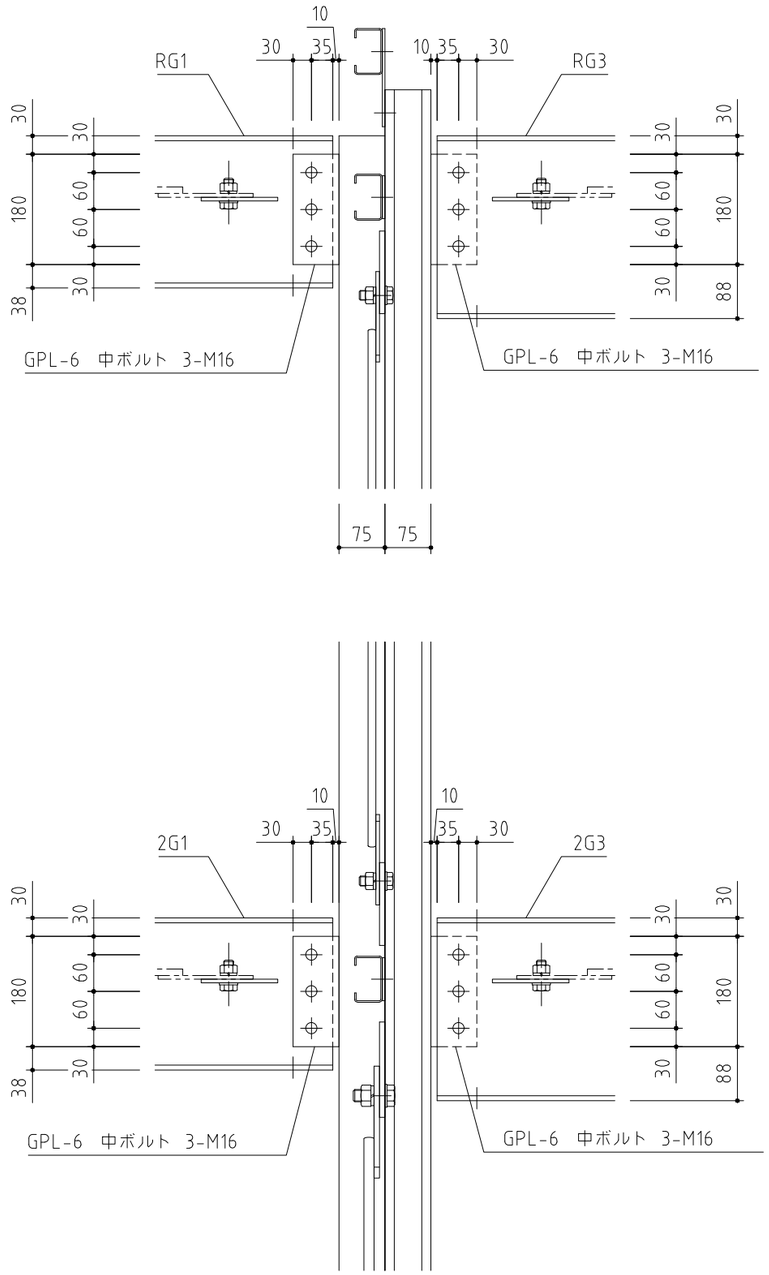
[仮設] A棟 架構図

A3 1/40

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23





鉄骨詳細図　S=1/10

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

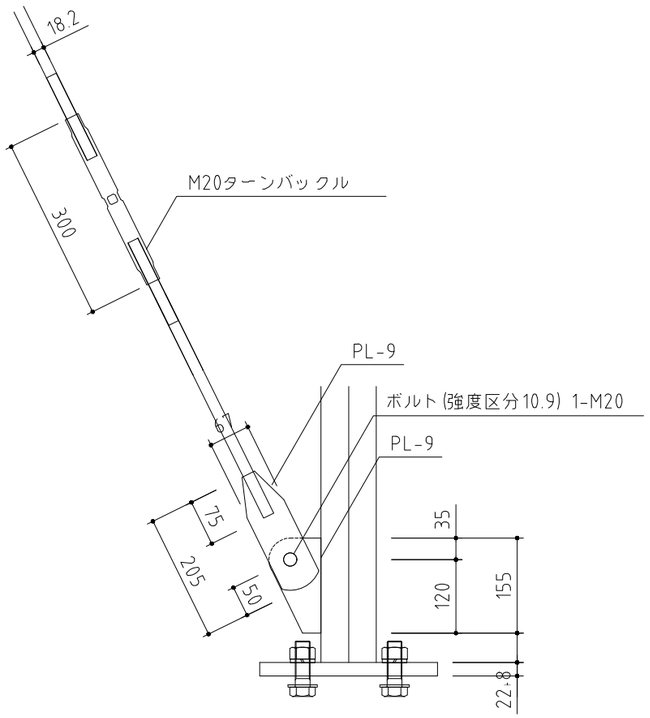
No. 120

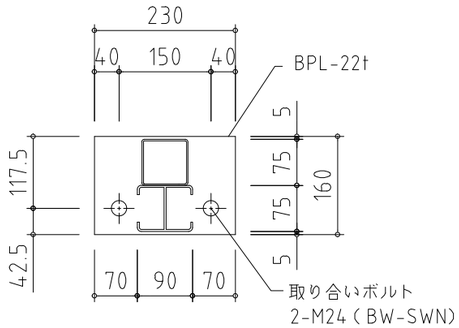
[仮設] A棟 鉄骨詳細図

A3 1/10

DEPT. 構

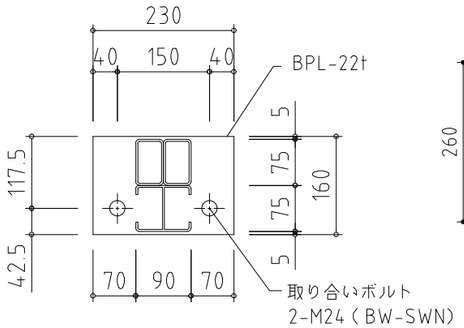
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23





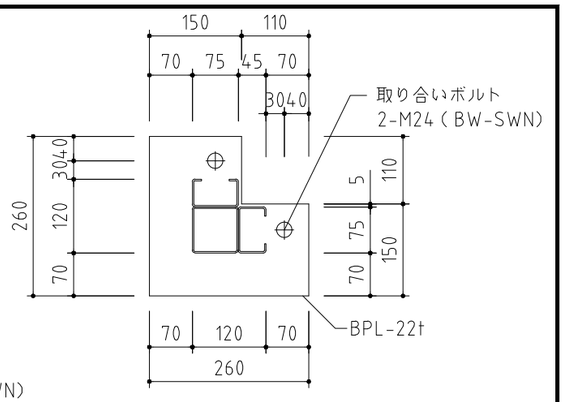
1C1: LH-75×90×15×3.2×3.2
+□-75x75x3.2

1C1 柱脚詳細図 S=1/10



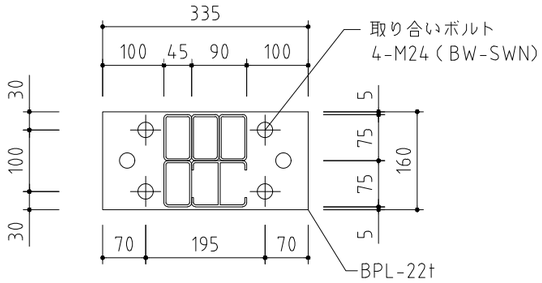
C3: LH-75×90×15×3.2×3.2
+2□-75x45x3.2

C3 柱脚詳細図 S=1/10



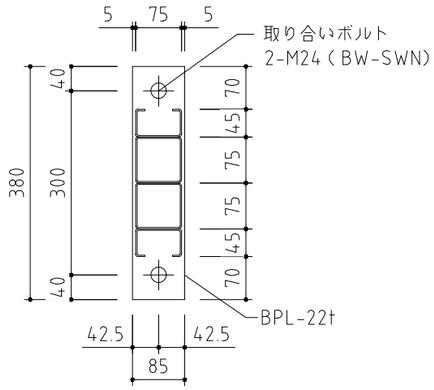
1C4: 2C-75x45x15x2.3
+ □-75x75x2.3

1C4 柱脚詳細図 S=1/10



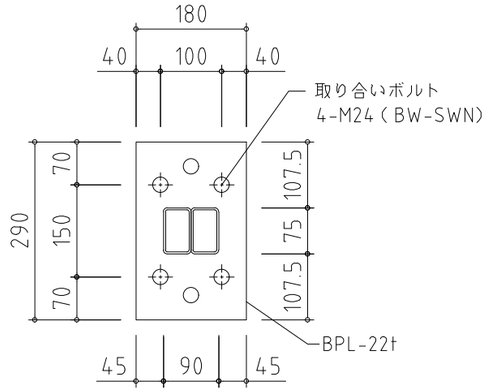
1C5: LH-75×90×15×3.2×3.2
+4□-75×45×3.2

1C5 柱脚詳細図 S=1/10



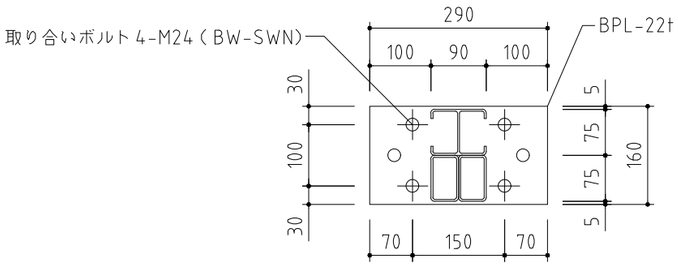
1C6: 2C-75x45x15x2.3 + 2□-75x75x2.3

1C6 柱脚詳細図 S=1/10



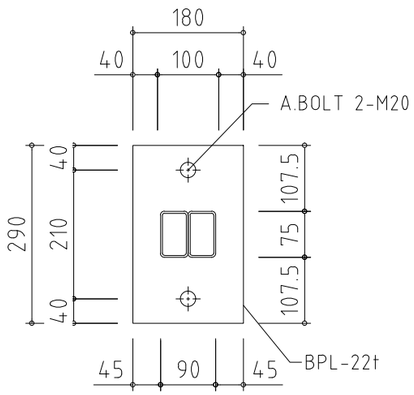
1C7: 2□-75×45×3.2

1C7 柱脚詳細図 S=1/10



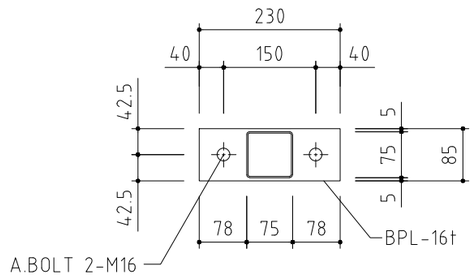
1C2: LH-75×90×15×3.2×3.2
+2□-75×45×3.2

1C2 柱脚詳細図 S=1/10



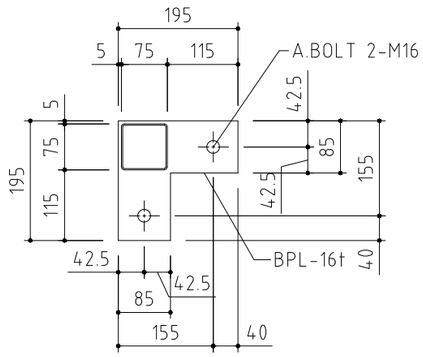
1C8: 2□-75×45×3.2

1C8 柱脚詳細図 S=1/10



C9: □-75×75×2.3

C9 柱脚詳細図 S=1/10



C9: □-75×75×2.3

C9 柱脚詳細図 S=1/10

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

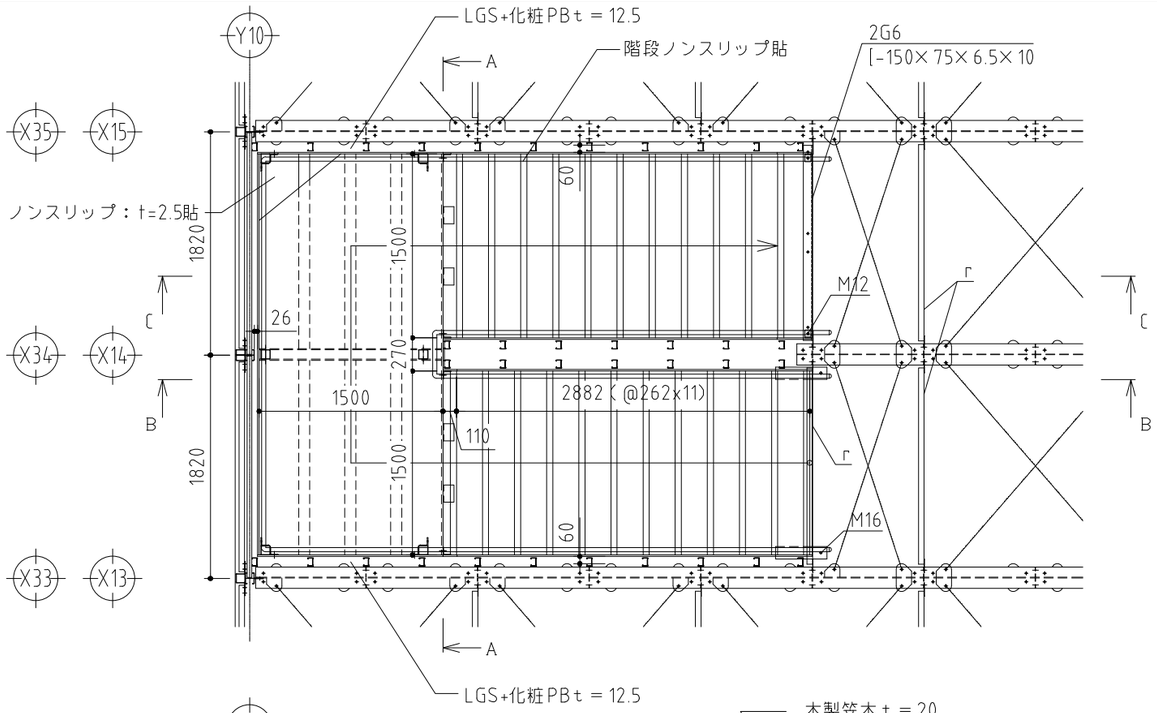
No. 121

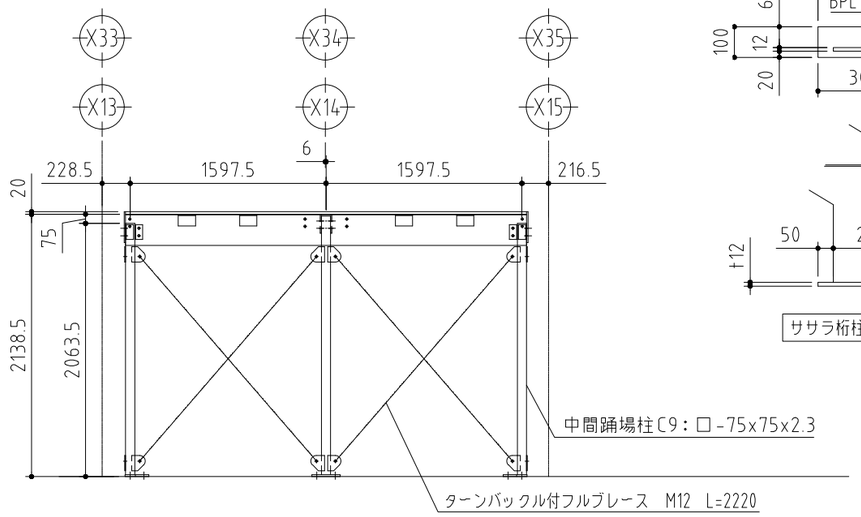
[仮設] A棟 柱脚詳細図

A3 1/10

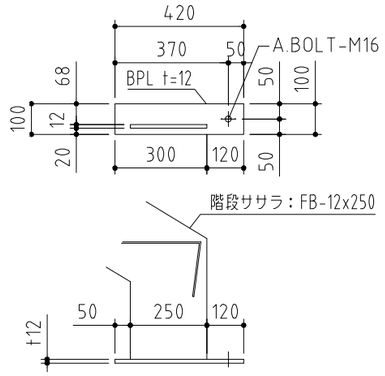
DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23

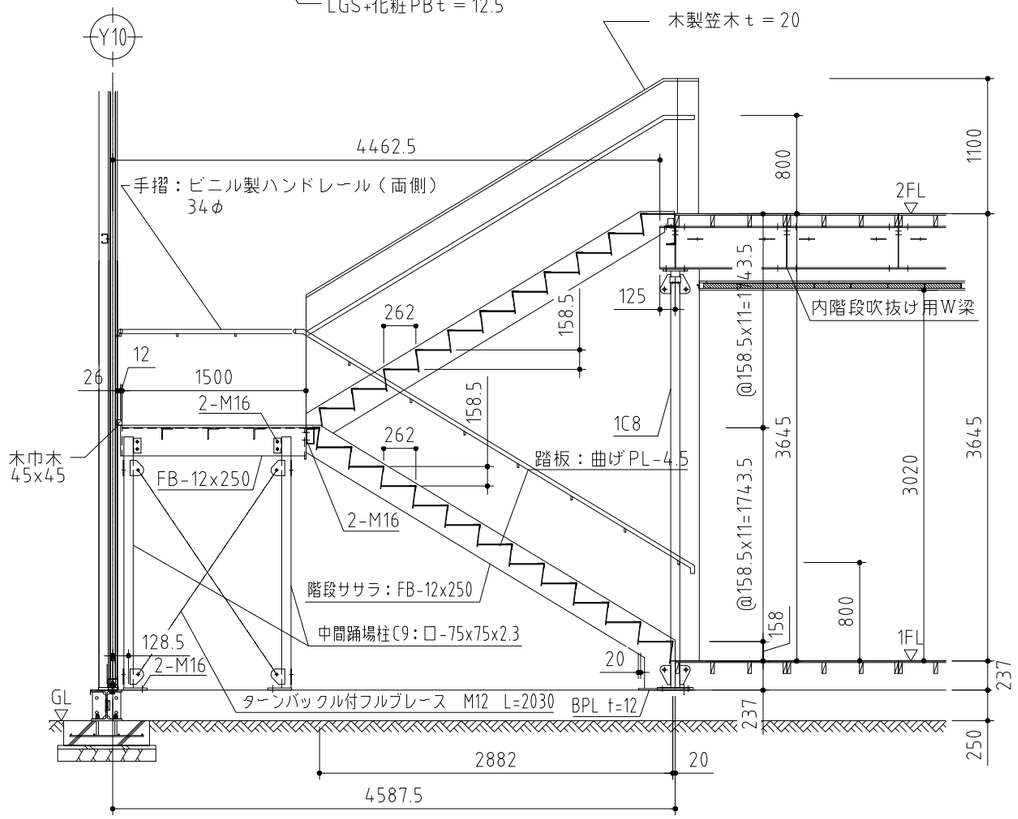




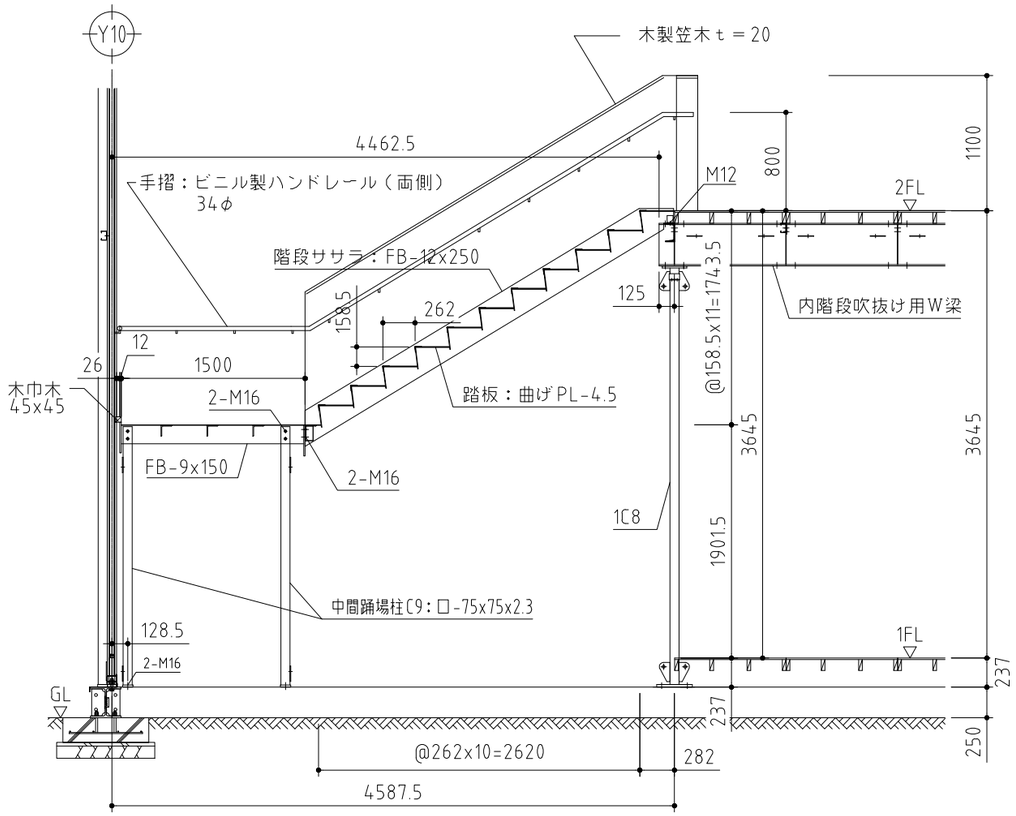
A-A矢視図



ササラ桁柱脚部　S=1/20



B-B断面図



C-C 断面図

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

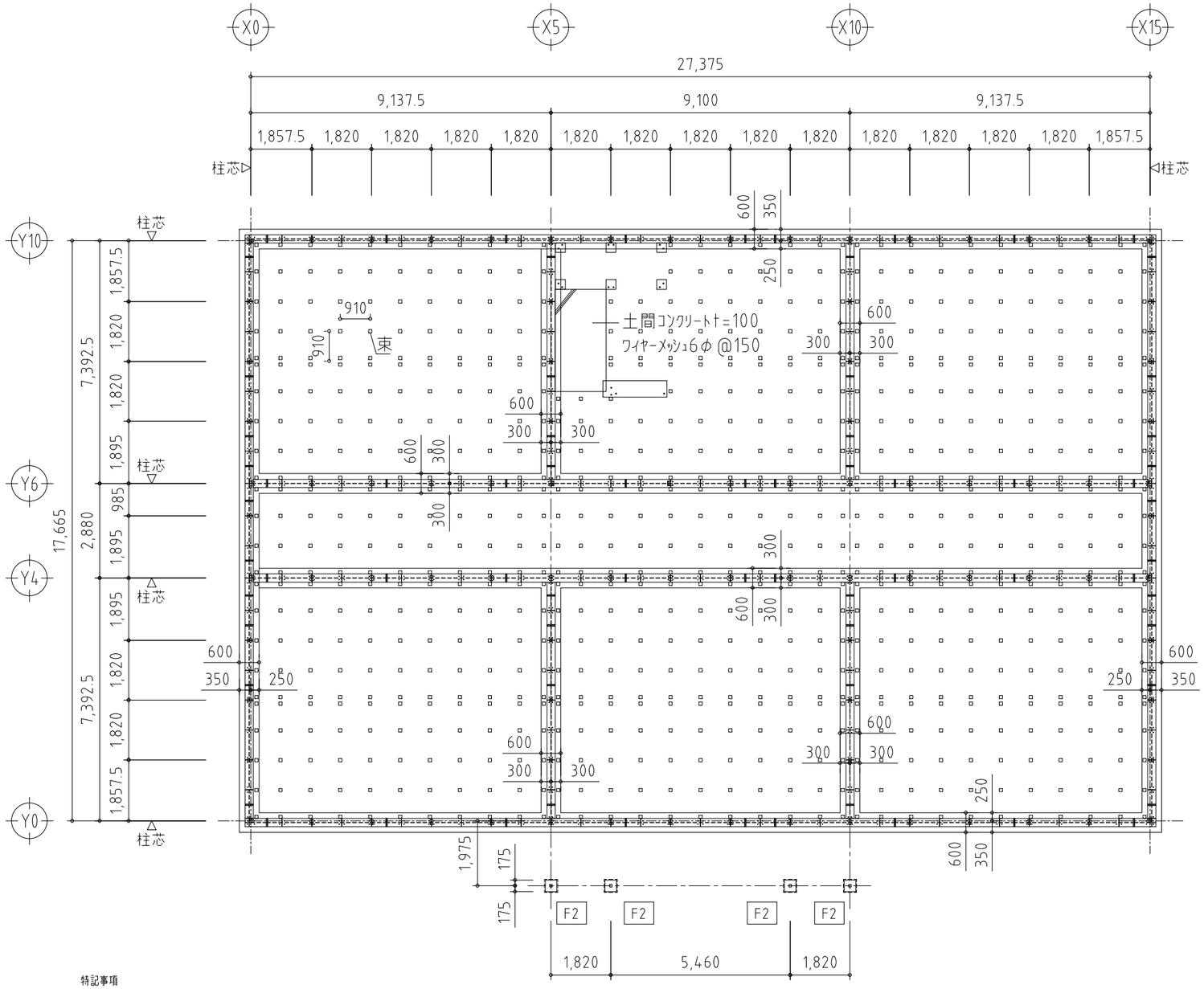
No. 122

[仮設] A棟　階段詳細図

A3　1/50

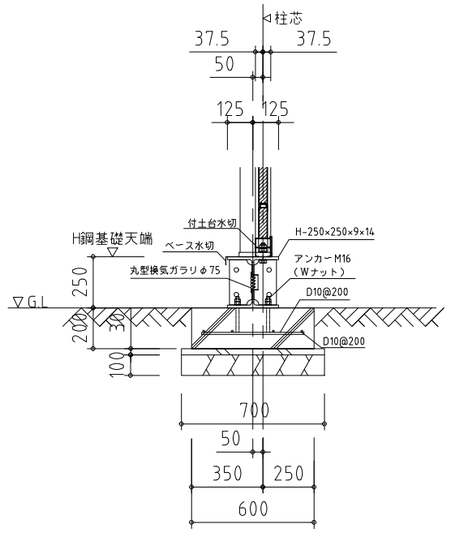
DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

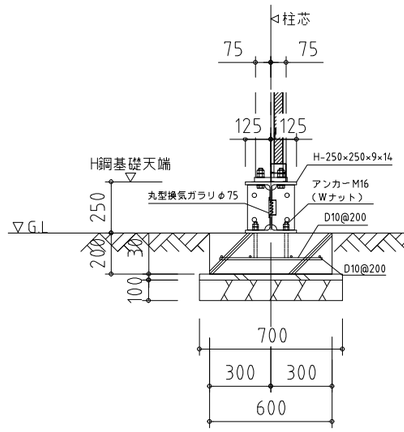


基礎伏図　S=1/150

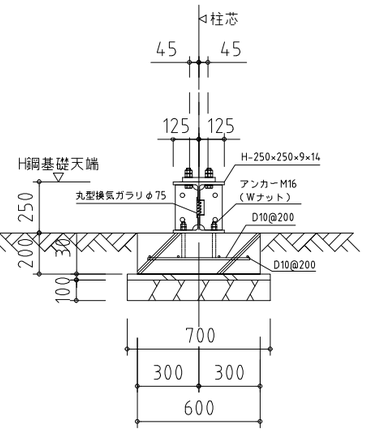
※特記なき基礎は、F1 とする
※内階段部基礎は別図参照のこと



妻柱、桁柱、隅柱

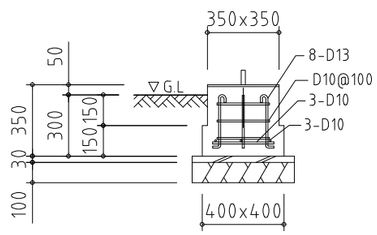


接続桁柱



内部耐力柱

F1 基礎詳細図 S=1/30



F2 基礎詳細図 S=1/30

特記事項

レディミクストコンクリート	(JIS A 5308)
コンクリート強度	21 N/mm2
異形鉄筋	SD 295 (D16 マデ) (JIS G 3112)
鉄筋	重ね継手40dとする。
アンカーボルト	SS400　JIS G 3101
許容地耐力	50 kN/m2

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

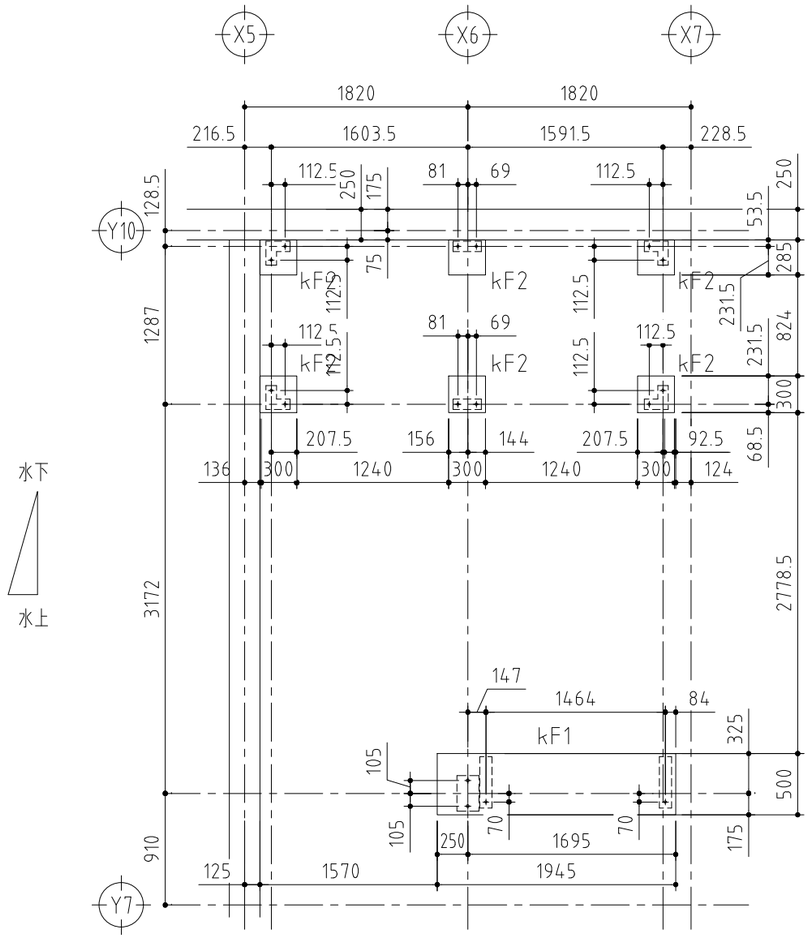
No. 123

[仮設] B棟　基礎伏図・基礎詳細図

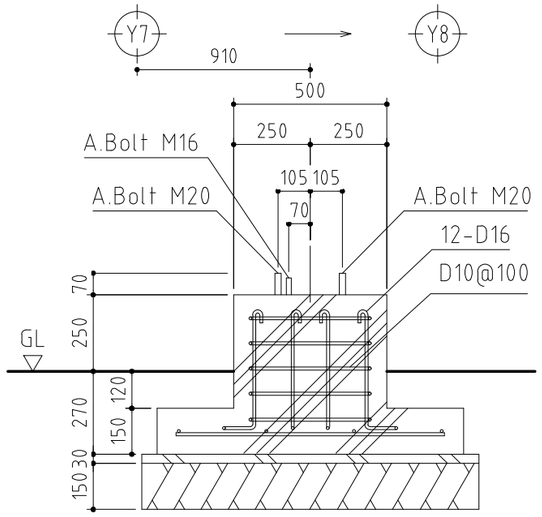
A3　図示

DEPT. 構

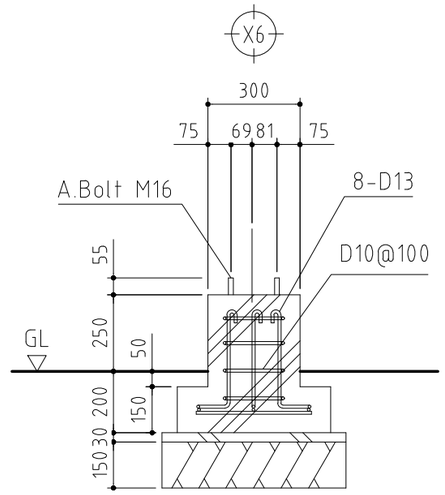
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



内階段基礎伏図　S=1/50



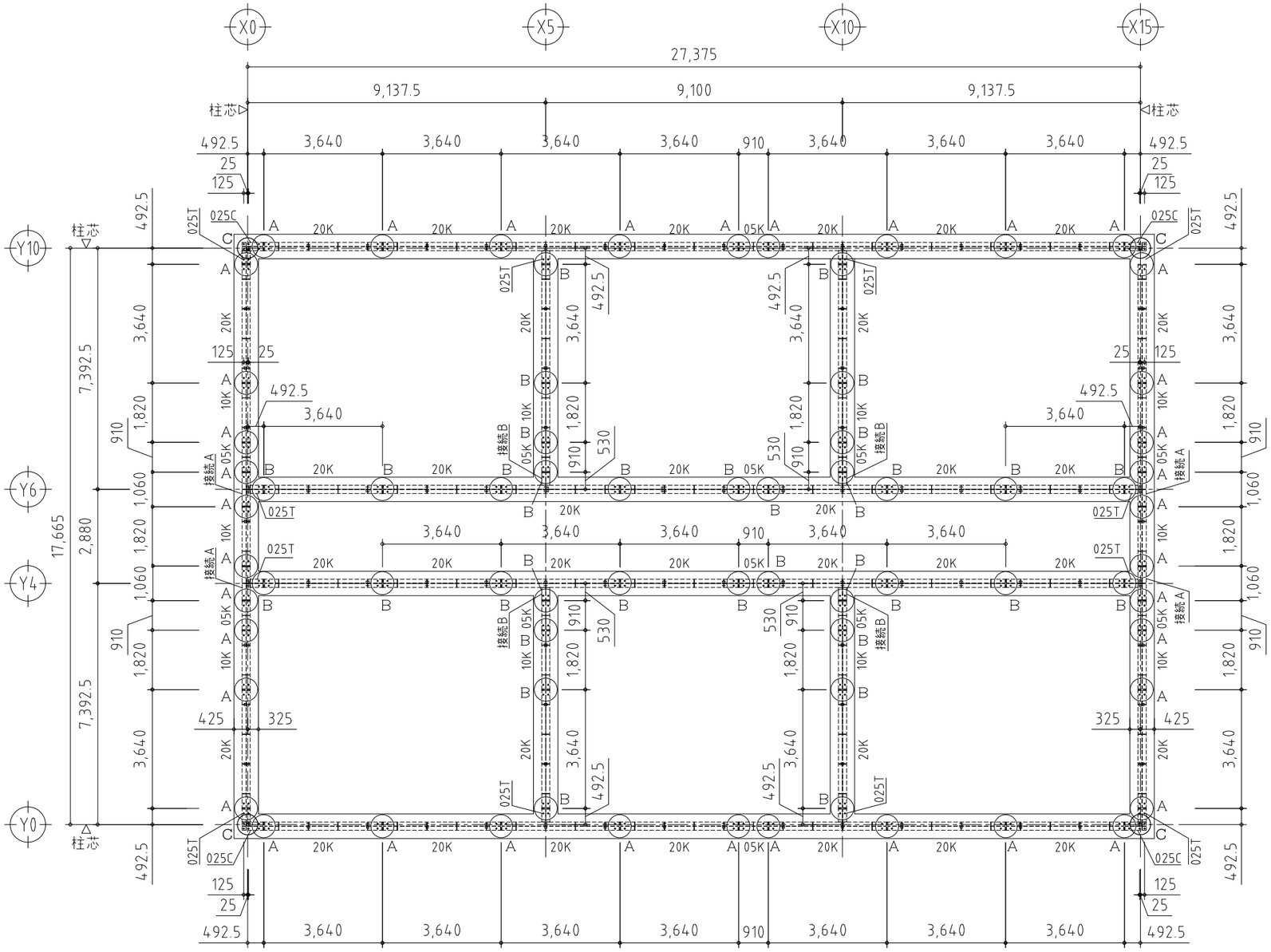
kF1 基礎詳細図　S=1/20



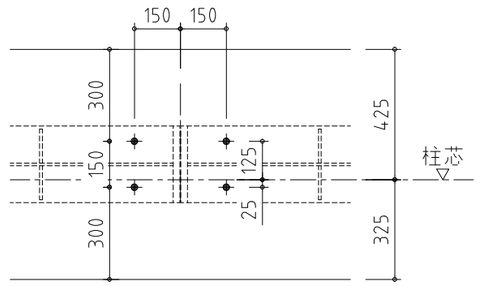
kF2 基礎詳細図　S=1/20

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 124
	[仮設] B棟　内部階段基礎図　A3　図示	DEPT. 構

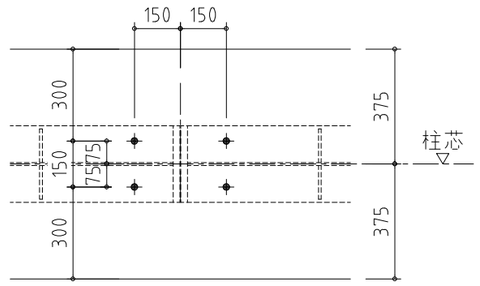
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



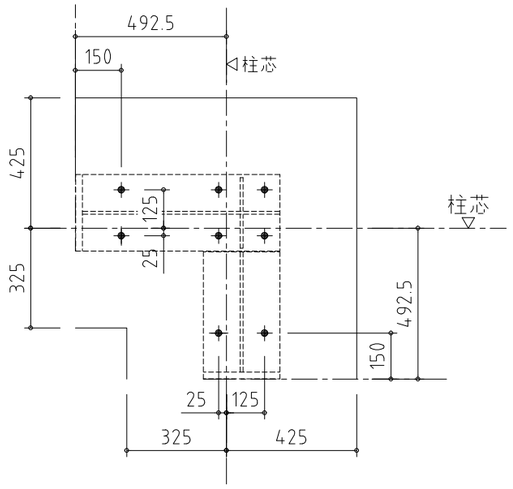
アンカー位置図　S=1/150



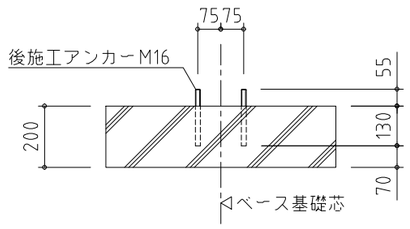
A部詳細図　S=1/20



B部詳細図　S=1/20



C部詳細図　S=1/20



ベース基礎部詳細図　S=1/20

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

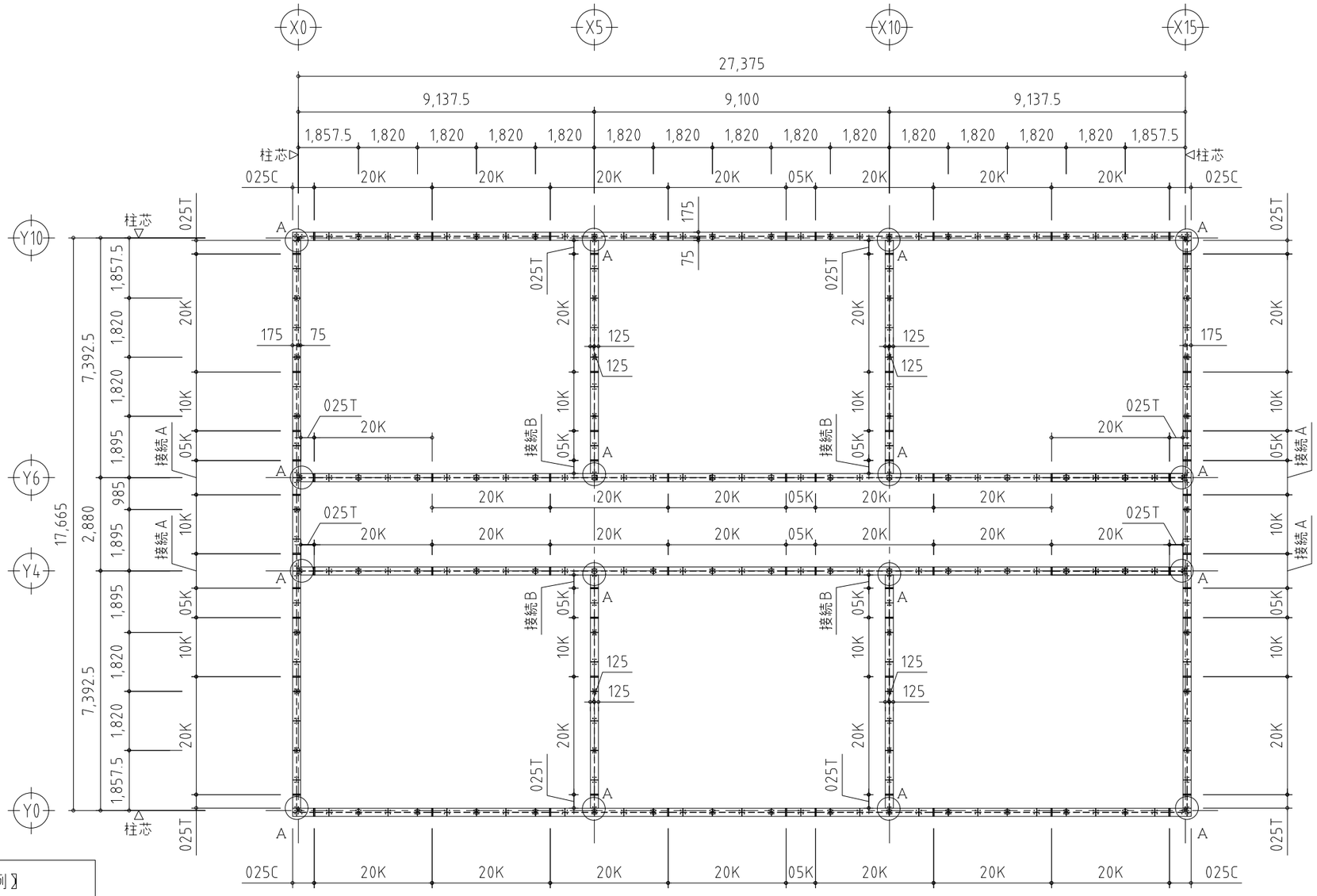
No. 125

[仮設] B棟　アンカー位置図

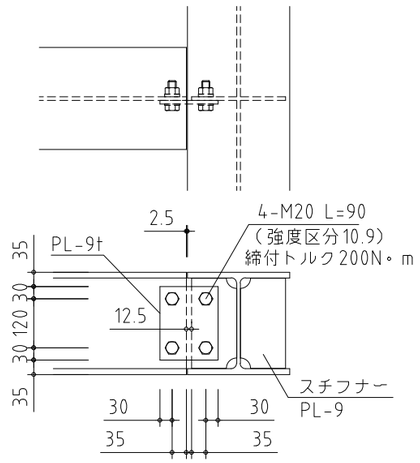
A3　図示

DEPT. 構

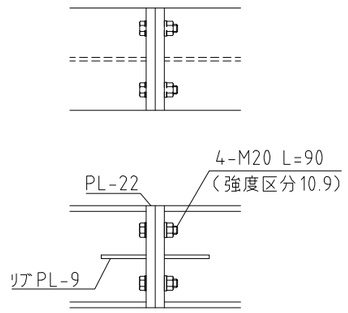
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



H鋼基礎配置図　S=1/150



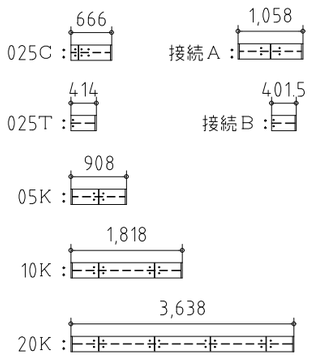
A部接続　S=1/15



B部接続　S=1/15

※A部以外の接続部

〖H鋼基礎凡例〗



SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

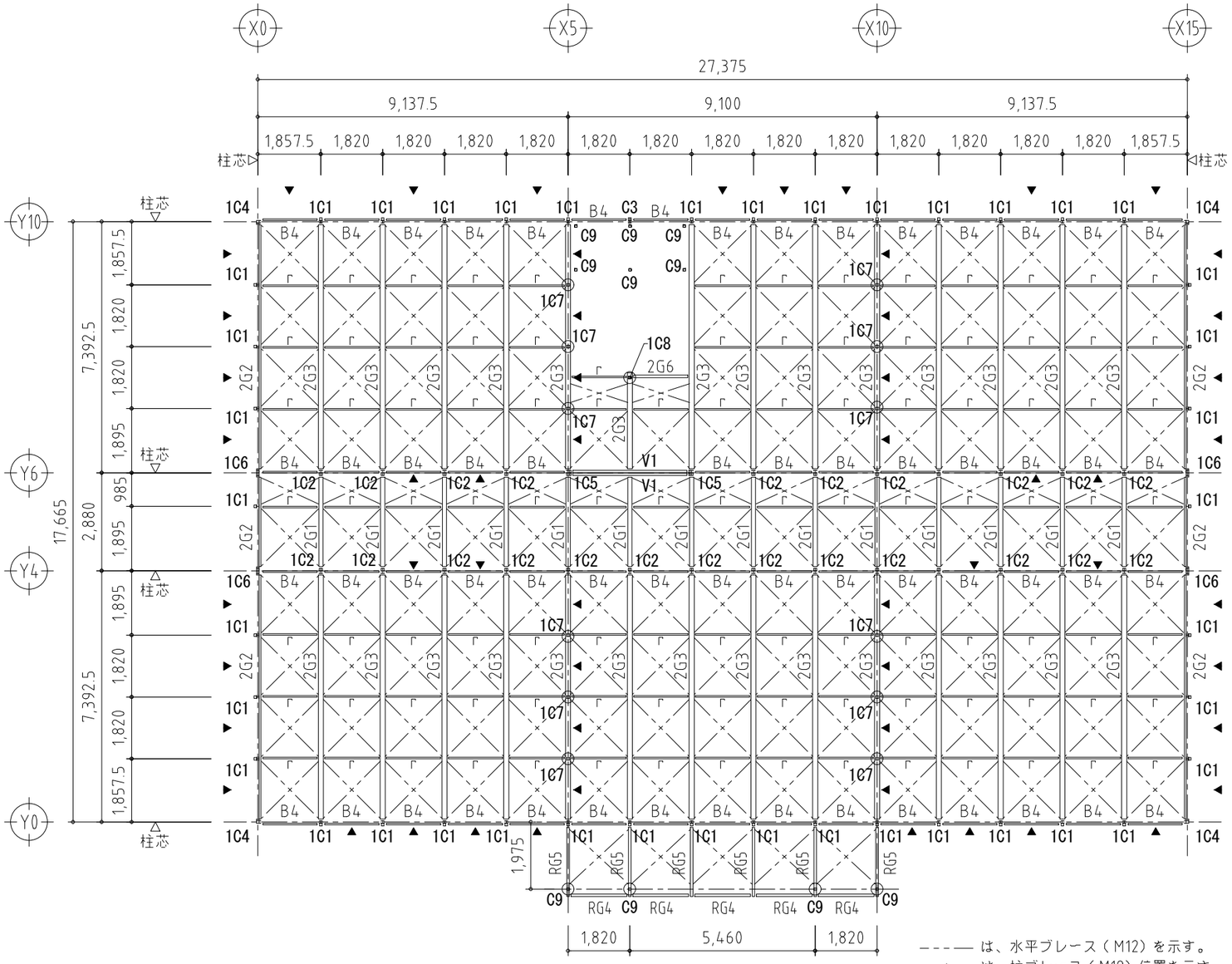
No. 126

[仮設] B棟　H鋼基礎配置図

A3　図示

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



2階梁伏図　S=1/150

部　材　リ　ス　ト

符号	部材		材質		
1C1	ﾘｯﾌﾟH-75×90×15×3.2×3.2		SWH400L	BPL-22	中ボルト 2-M24
	+□-75×75×3.2		STKR400		
1C2	ﾘｯﾌﾟH-75×90×15×3.2×3.2		SWH400L	BPL-22	中ボルト 4-M24
	+2□-75×45×3.2		STKR400		
C3	ﾘｯﾌﾟH-75×90×15×3.2×3.2		SWH400L	BPL-22	中ボルト 2-M24
	+2□-75×45×3.2		STKR400		
1C4	2C-75×45×15×2.3		SSC400	BPL-22	中ボルト 2-M24
	+□-75×75×2.3		STKR400		
1C5	ﾘｯﾌﾟH-75×90×15×3.2×3.2		SWH400L	BPL-22	中ボルト 4-M24
	+4□-75×45×3.2		STKR400		
1C6	2C-75×45×15×2.3		SSC400	BPL-22	中ボルト 2-M24
	+2□-75×75×2.3		STKR400		
1C7	2□-75×45×3.2		STKR400	BPL-22	中ボルト 4-M24
1C8	2□-75×45×3.2		STKR400	BPL-22	A.Bolt 2-M20 L=400　定着L=305
C9	□-75×75×2.3		STKR400	BPL-16	A.Bolt 2-M16 L=350　定着L=255
2G1	H-248×124×5×8		SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16
2G2	[-100×50×5×7.5		SS400		中ボルト 2-M12
2G3	H-298×149×5.5×8		SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16
RG4	[-150×75×6.5×10		SS400	GPL-6	中ボルト 2-M12
RG5	H-150×75×5×7		SS400	GPL-6	中ボルト 2-M16
2G6	[-150×75×6.5×10		SS400	GPL-6	中ボルト 2-M12
V1	上下弦材：2□-75×75×3.2		STKR400	GPL-6	中ボルト 3-M16
D=550	ラチス材：□-75×75×3.2		STKR400		
r	C-75×45×15×2.3		SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12
B4	C-75×45×15×2.3		SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12
水平ブレース	----	1-M12（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-6 羽子板PL-6	ボルト（強度区分10.9）1-M16
柱ブレース	▲	1-M18（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-9 羽子板PL-9	ボルト（強度区分10.9）1-M20

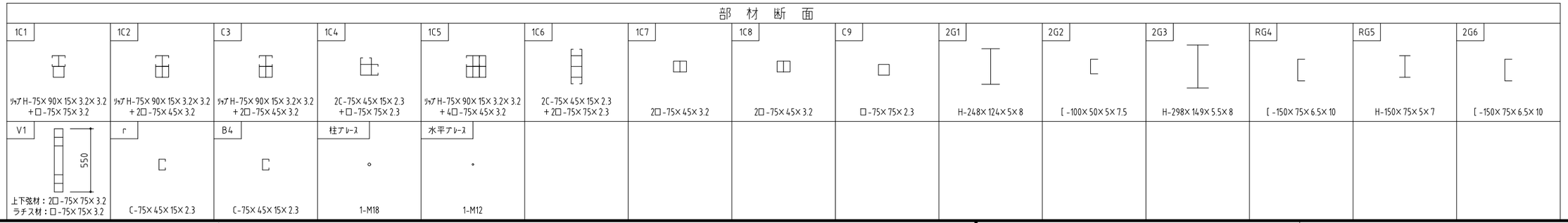
・鋼材

■SSC400	(ツナギ・母屋・柱)	JIS G 3350
■SWH400L	(柱)	JIS G 3353
■STKR400	(柱)	JIS G 3466
■SS400	(梁・アンカーボルト)	JIS G 3101
■仕上ボルト	ボルト強度区分4.8 ボルト強度区分10.9	JIS B 1180
■SNR400B	(ブレース・ターンバックル)	JIS A 5540

※中ボルトは戻り止め仕様（スプリングワッシャー使用）とする。

---- は、水平ブレース（M12）を示す。
▲ は、柱ブレース（M18）位置を示す。
○ は、梁下柱を示す。

部　材　断　面



SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

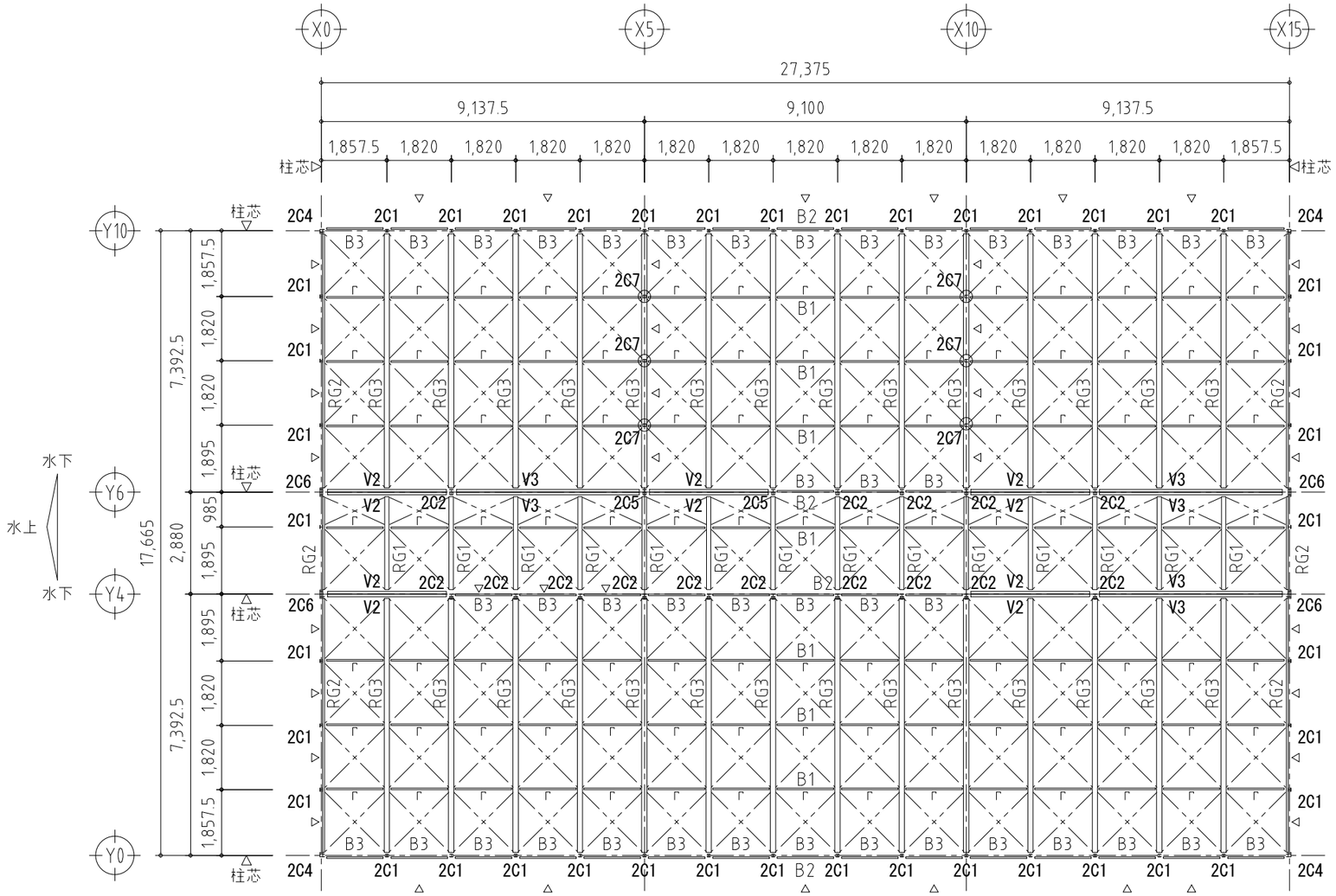
No. 127

[仮設] B棟　2階梁伏図

A3　1/150

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



小屋梁伏図　S=1/150

部　材　リ　ス　ト				
符　号	部　材	材　質		
2C1	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L		
2C2	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L		
	＋2□-75×45×3.2	STKR400		
C3	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L		
	＋2□-75×45×3.2	STKR400		
2C4	2C-75×45×15×2.3	SSC400		
	＋□-75×75×2.3	STKR400		
2C5	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L		
	＋4□-75×45×3.2	STKR400		
2C6	3C-75×45×15×2.3	SSC400		
	＋2□-75×75×2.3	STKR400		
2C7	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L		
RG1	H-248×124×5×8	SS400	GPL-6	中ボルト　3-M16
RG2	[-100×50×5×7.5	SS400		中ボルト　2-M12
RG3	H-298×149×5.5×8	SS400	GPL-6	中ボルト　3-M16
V2　V3	上下弦材：2□-75×75×3.2	STKR400	GPL-6	中ボルト　3-M16
D=550	ラチス材：□-75×75×3.2	STKR400		
r	C-75×45×15×2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト　2-M12
B1	C-75×45×15×2.3　母屋@1820	SSC400		中ボルト　1-M12
B2	C-75×45×15×2.3	SSC400		中ボルト　1-M12
B3	C-75×45×15×2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト　2-M12
水平ﾌﾞﾚｰｽ	――	1-M12（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-6 羽子板PL-6	ボルト（強度区分10.9）1-M16
柱ﾌﾞﾚｰｽ	△	1-M14（ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ）	SNR400B	ｼｰﾄ-9 羽子板PL-6	ボルト（強度区分10.9）1-M16

・鋼材		
■SSC400	(ツナギ・母屋・柱)	JIS G 3350
■SWH400L	(柱)	JIS G 3353
■STKR400	(柱)	JIS G 3466
■SS400	(梁)	JIS G 3101
■仕上ボルト	ボルト強度区分4.8 ボルト強度区分10.9	JIS B 1180
■SNR400B	(ブレース・ターンバックル)	JIS A 5540

※中ボルトは戻り止め仕様（スプリングワッシャー使用）とする。

――――― は、水平ブレース（M12）を示す。
△　は、柱ブレース（M14）位置を示す。
○　は、梁下柱を示す。

部　材　断　面

2C1	2C2	C3	2C4	2C5	2C6	2C7	RG1	RG2	RG3	r	B1	B2	B3
ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2 ＋2□-75×45×3.2	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2 ＋2□-75×45×3.2	2C-75×45×15×2.3 ＋□-75×75×2.3	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2 ＋2□-75×45×3.2	2C-75×45×15×2.3 ＋2□-75×75×2.3	ﾘｯﾌﾟ H-75×90×15×3.2×3.2	H-248×124×5×8	[-100×50×5×7.5	H-298×149×5.5×8	C-75×45×15×2.3	C-75×45×15×2.3	C-75×45×15×2.3	C-75×45×15×2.3

V1	柱ﾌﾞﾚｰｽ	水平ﾌﾞﾚｰｽ
550 上下弦材：2□-75×75×3.2 ラチス材：□-75×75×3.2	1-M14	1-M12

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

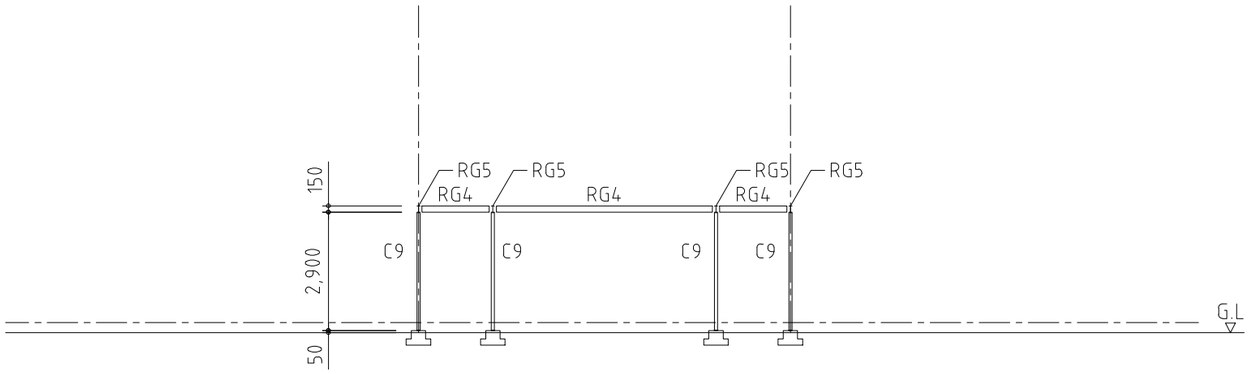
守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 128

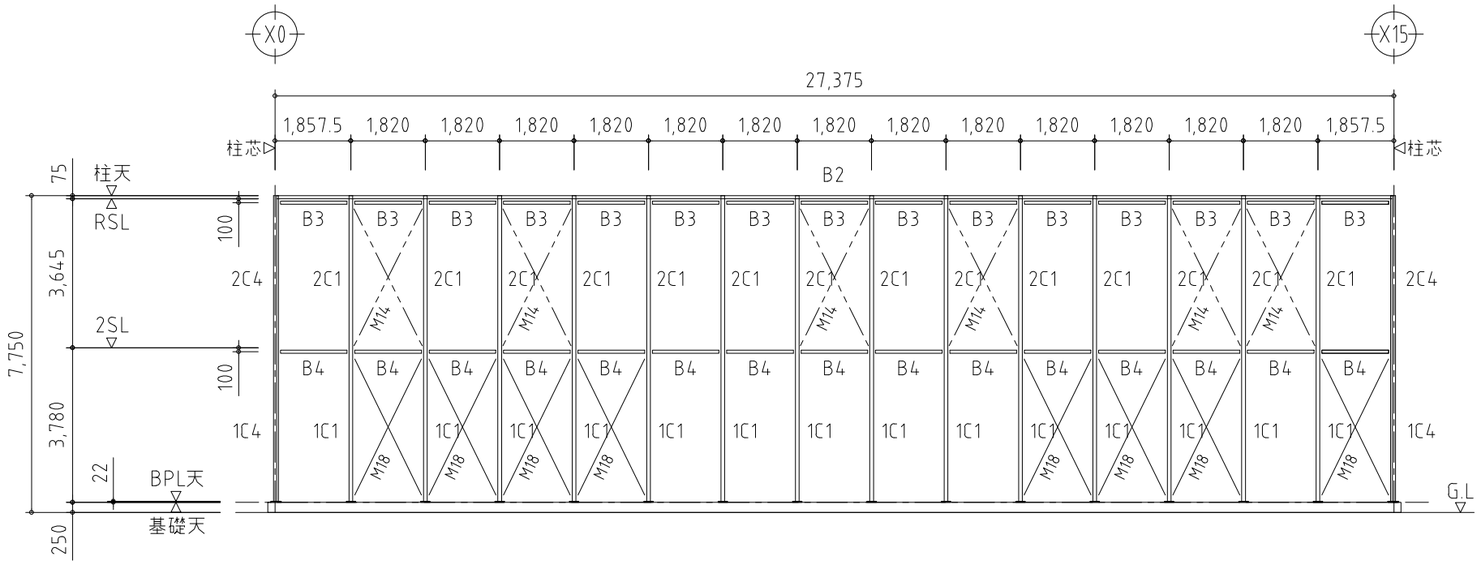
［仮設］B棟　小屋梁伏図　A3　1/150

DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



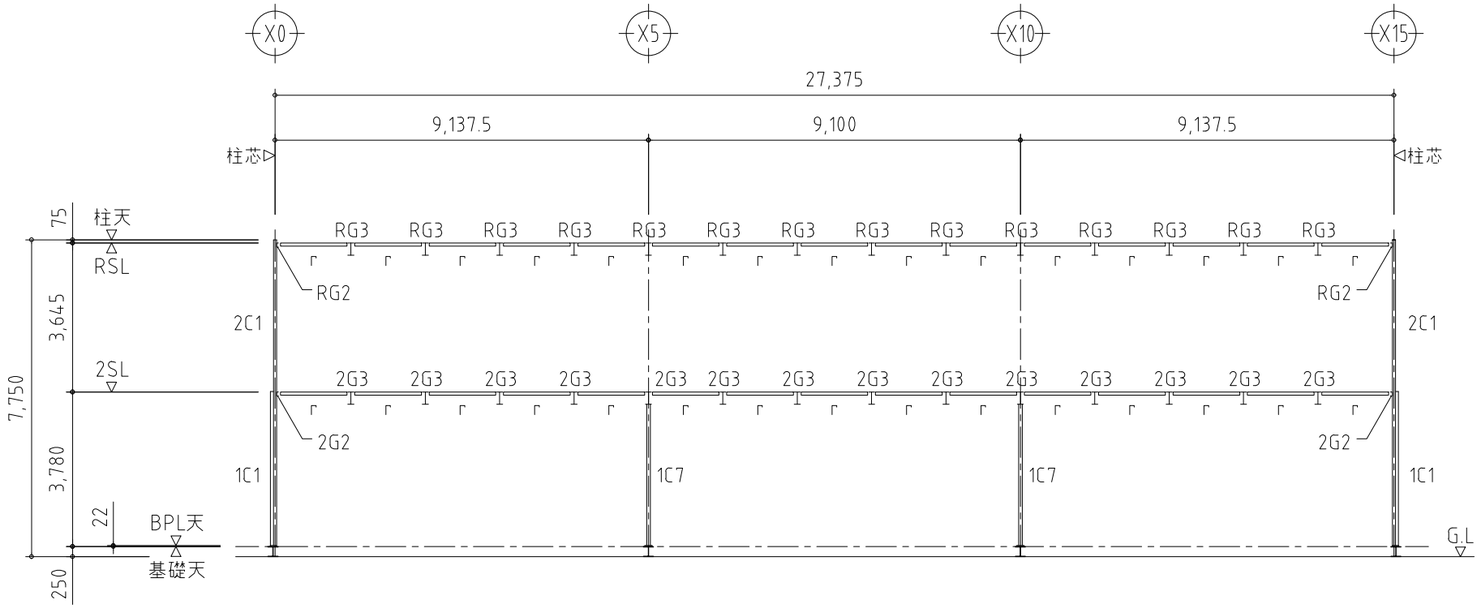
Y0-1975通 軸組図 S=1/150



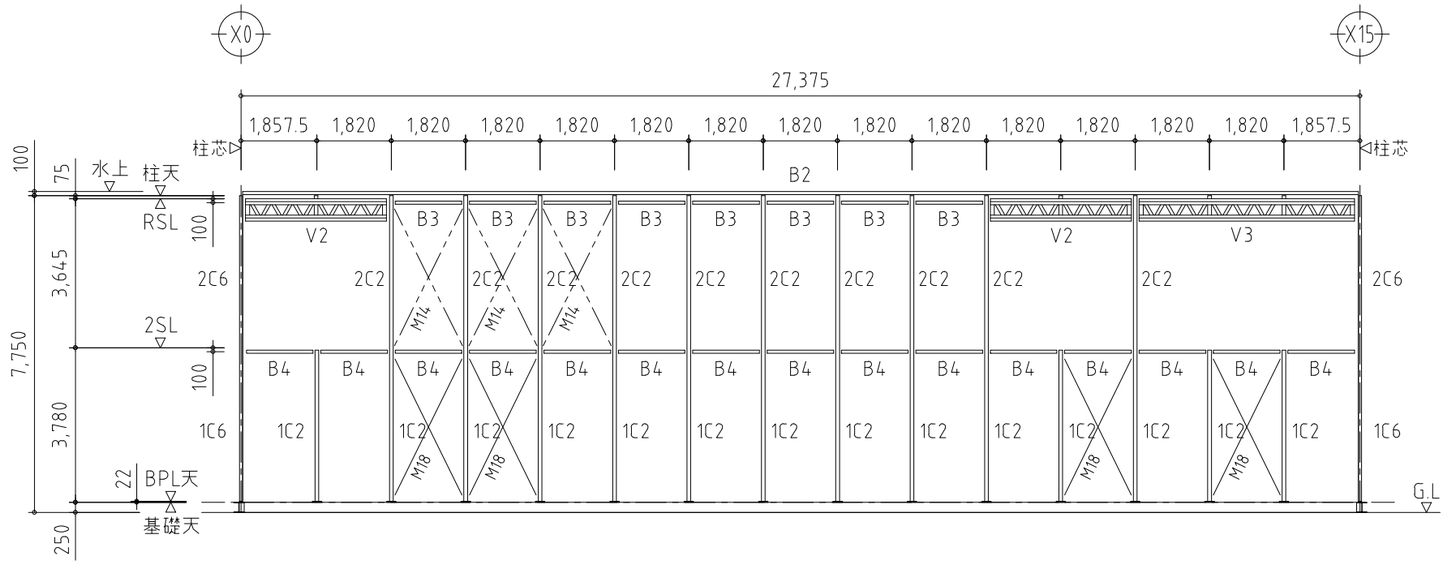
Y0通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 129
	[仮設] B棟 軸組図 1 A3 1/150	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



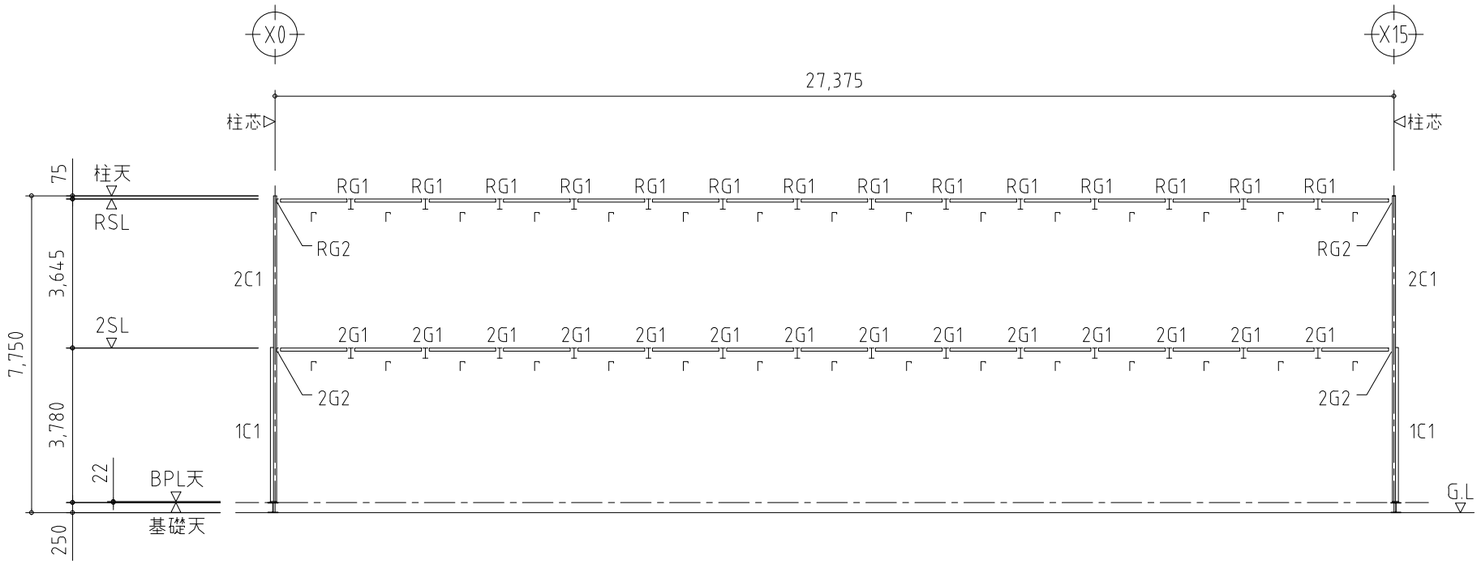
Y1～3通 軸組図 S=1/150



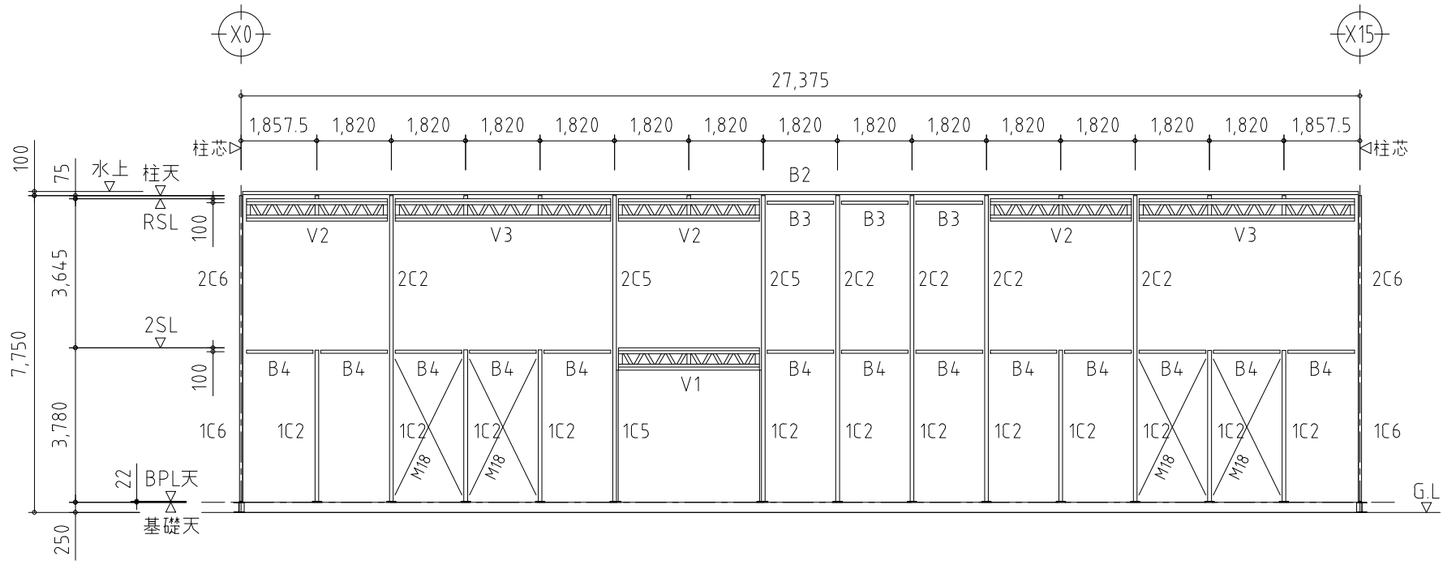
Y4通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 130
	[仮設] B棟 軸組図２ A3 1/150	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



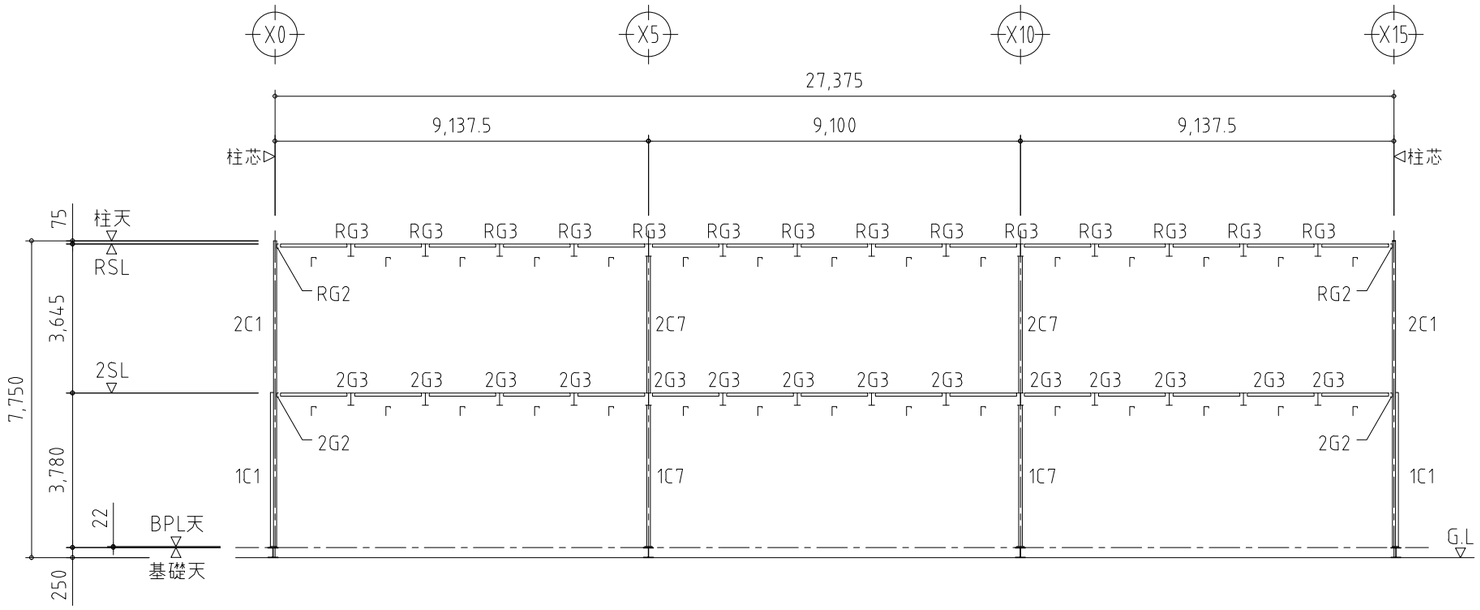
Y5通 軸組図 S=1/150



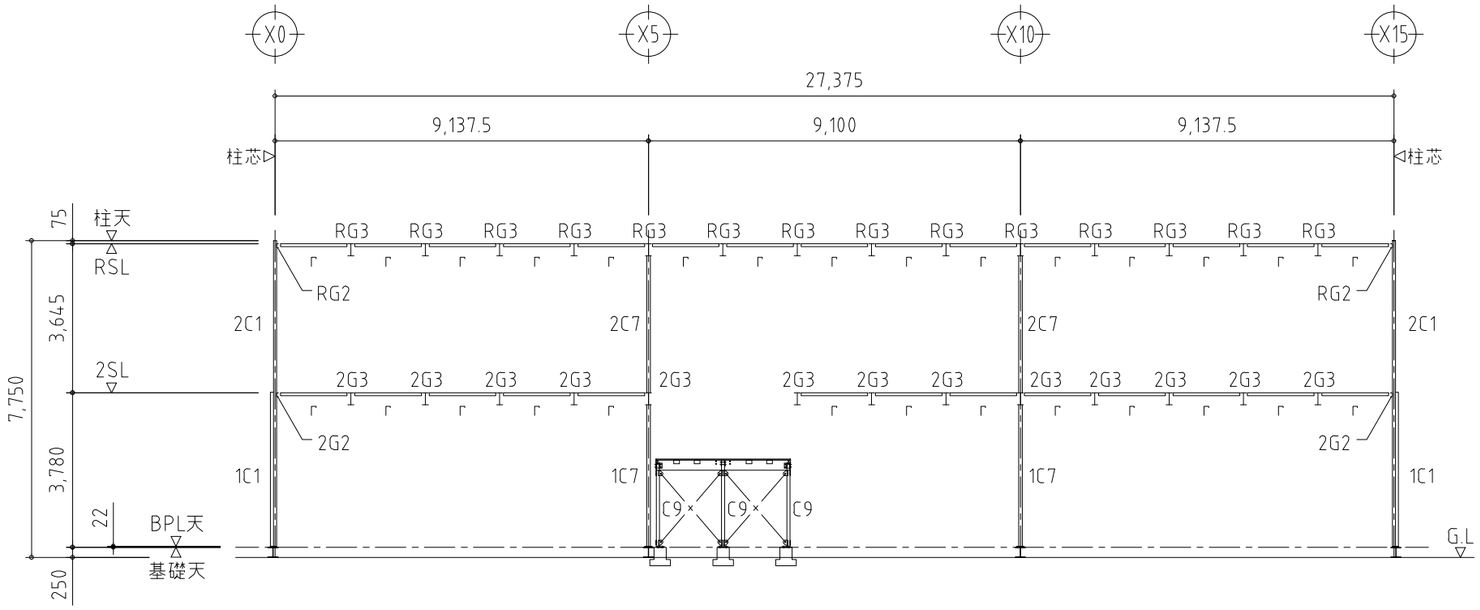
Y6通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 131
	[仮設] B棟 軸組図３ A3 1/150	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y7通 軸組図 S=1/150



Y8,9通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

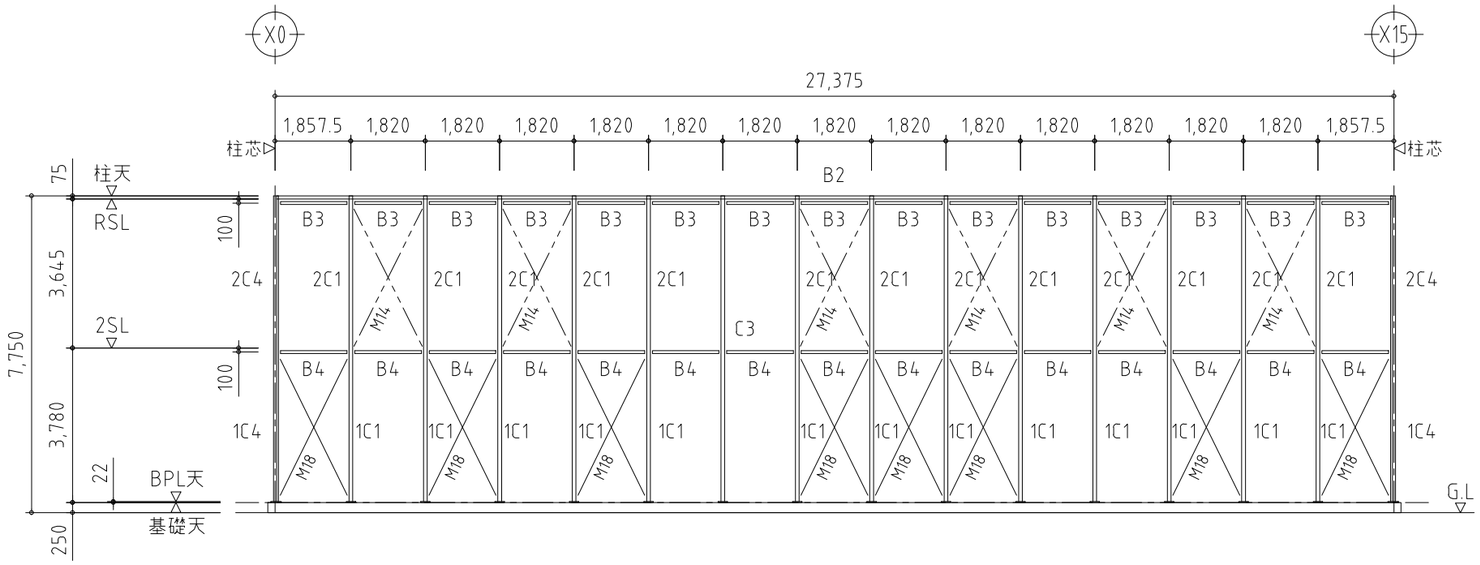
No. 132

[仮設] B棟 軸組図４

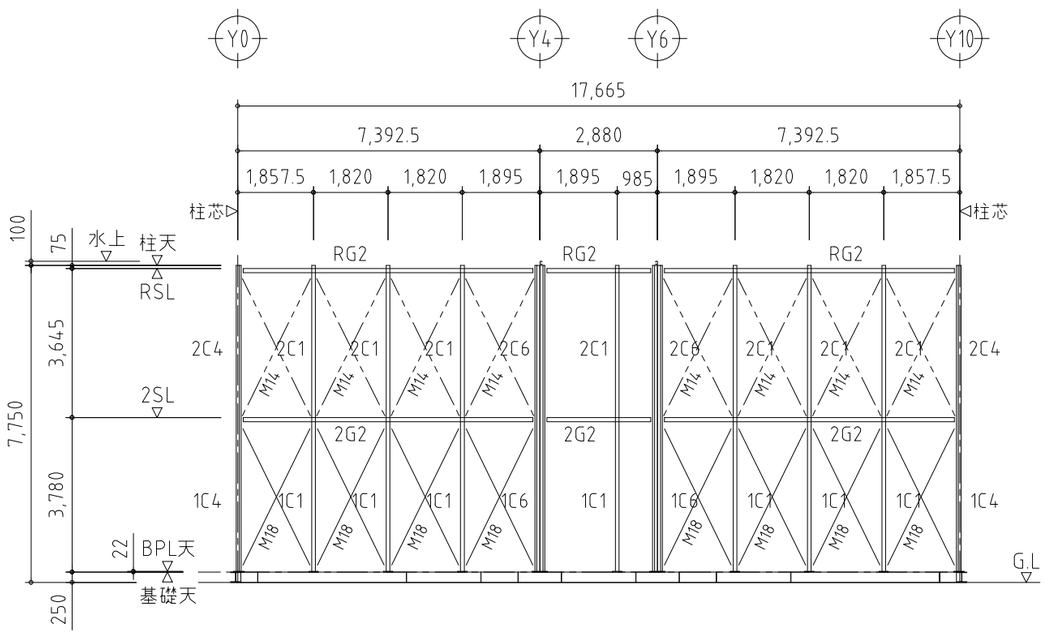
A3 1/150

DEPT. 構

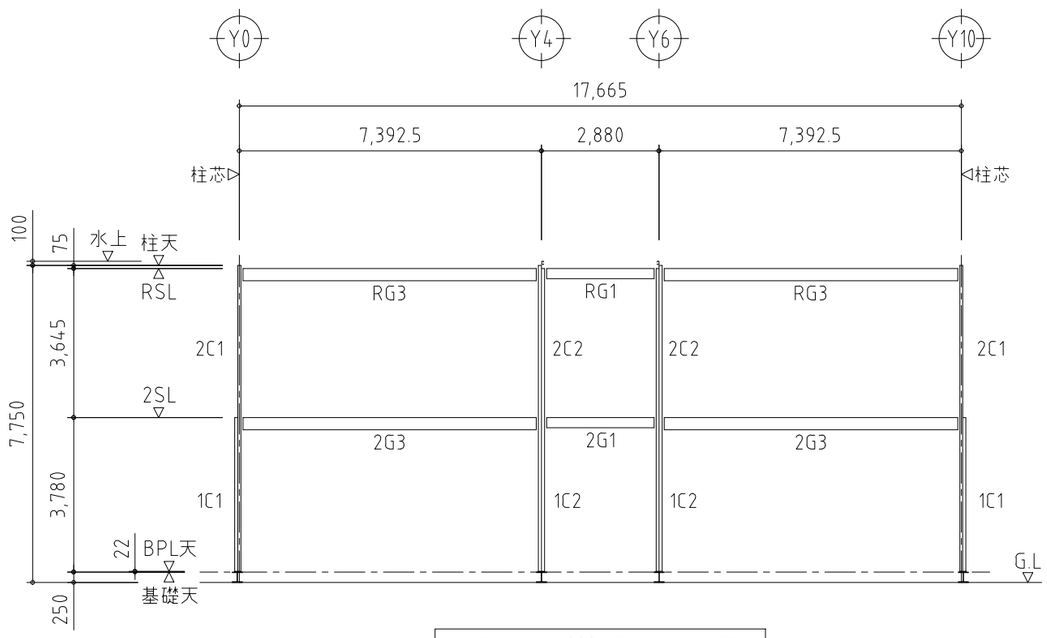
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y10通 軸組図 S=1/150



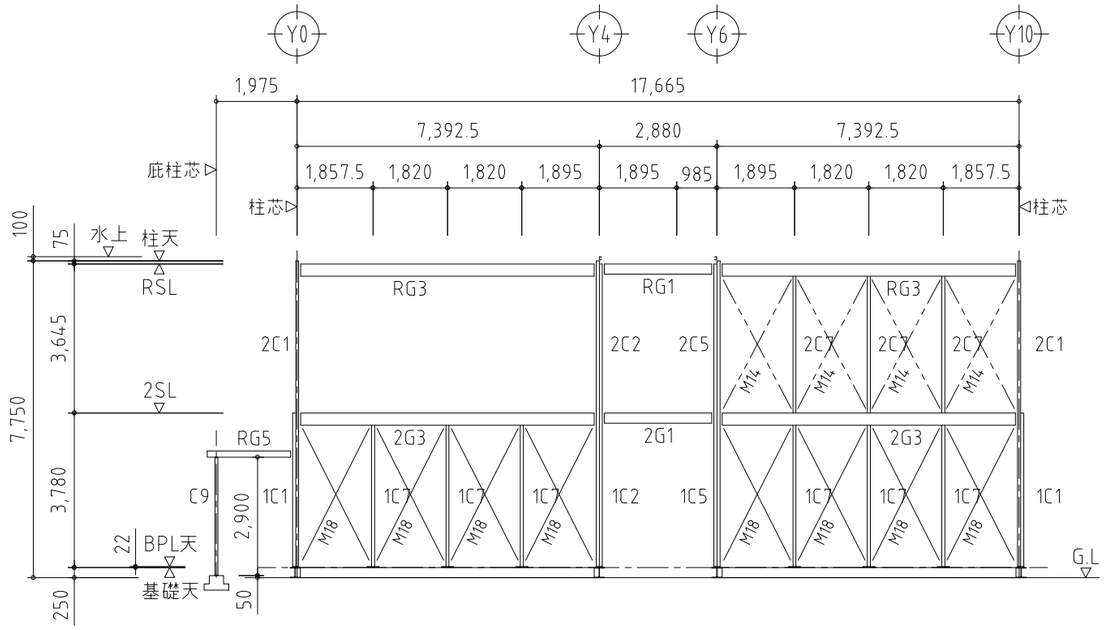
X0通 軸組図 S=1/150



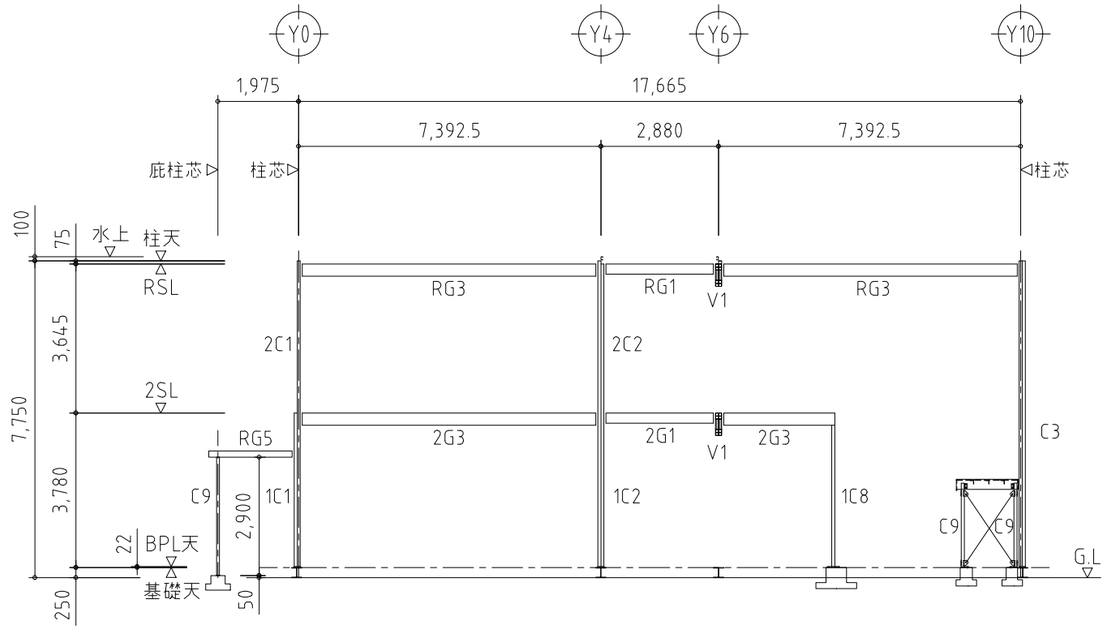
X2・12通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 133
	[仮設] B棟 軸組図５ A3 1/150	DEPT. 構

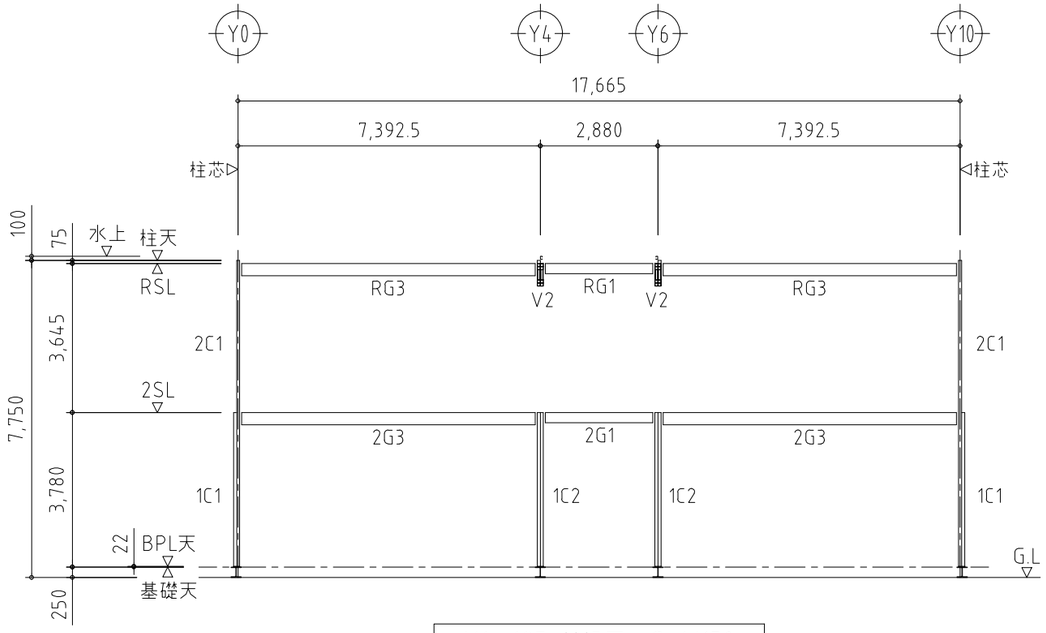
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



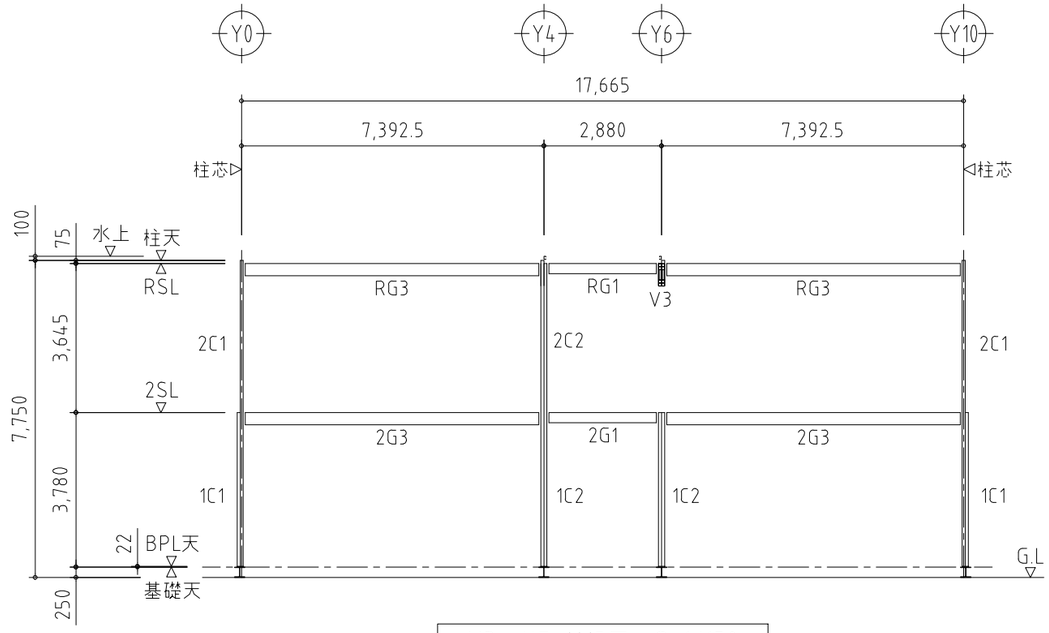
X5通 軸組図 S=1/300



X6通 軸組図 S=1/300



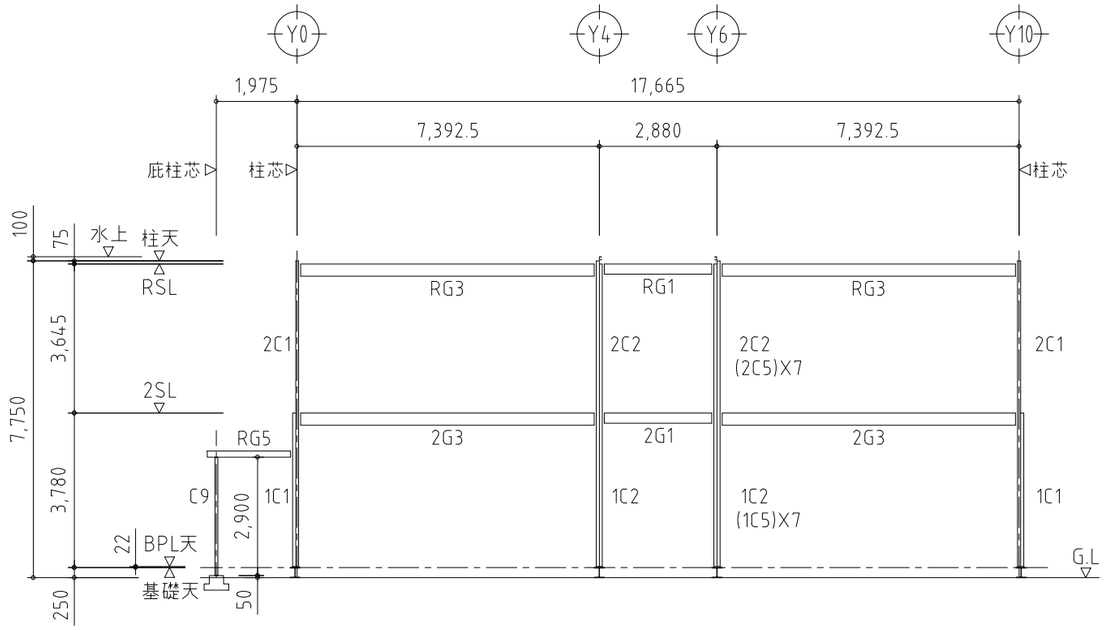
X1・11通 軸組図 S=1/150



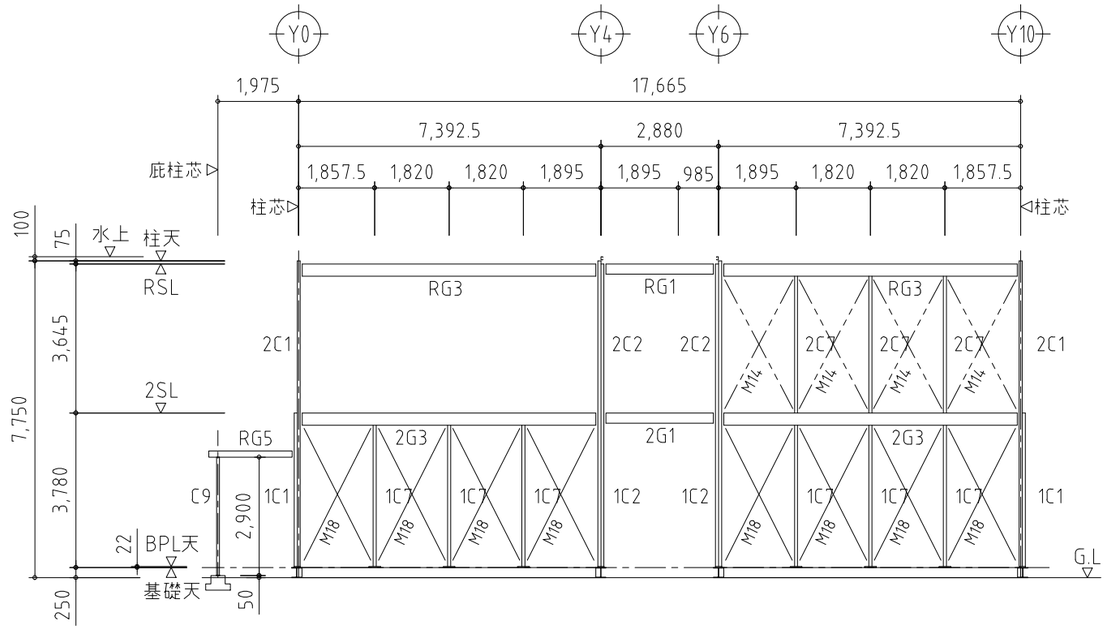
X3・4通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 134
	[仮設] B棟 軸組図6 A3 1/150	DEPT. 構

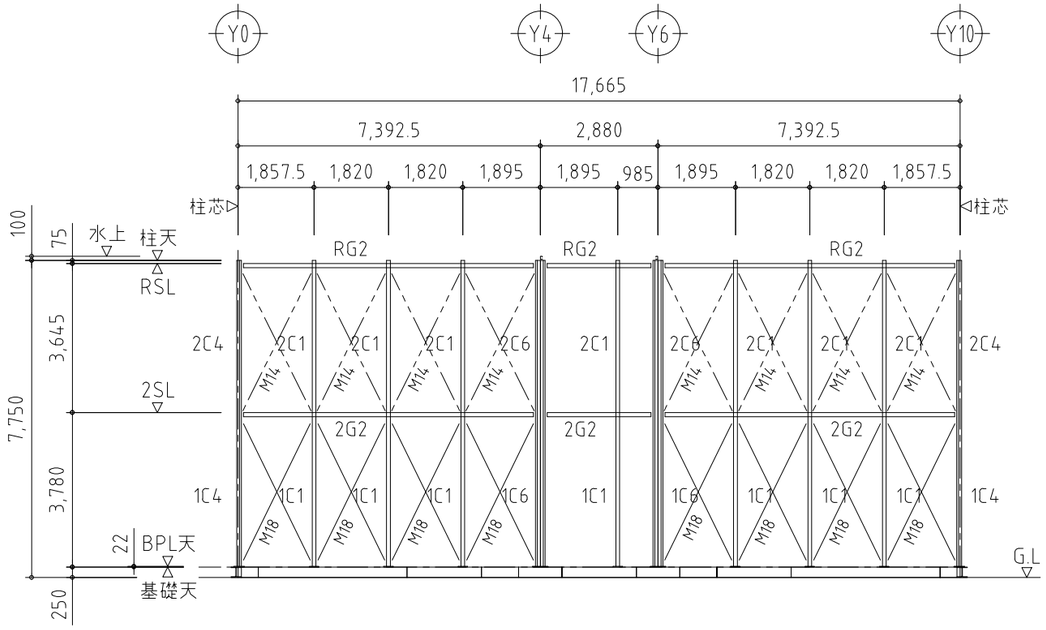
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



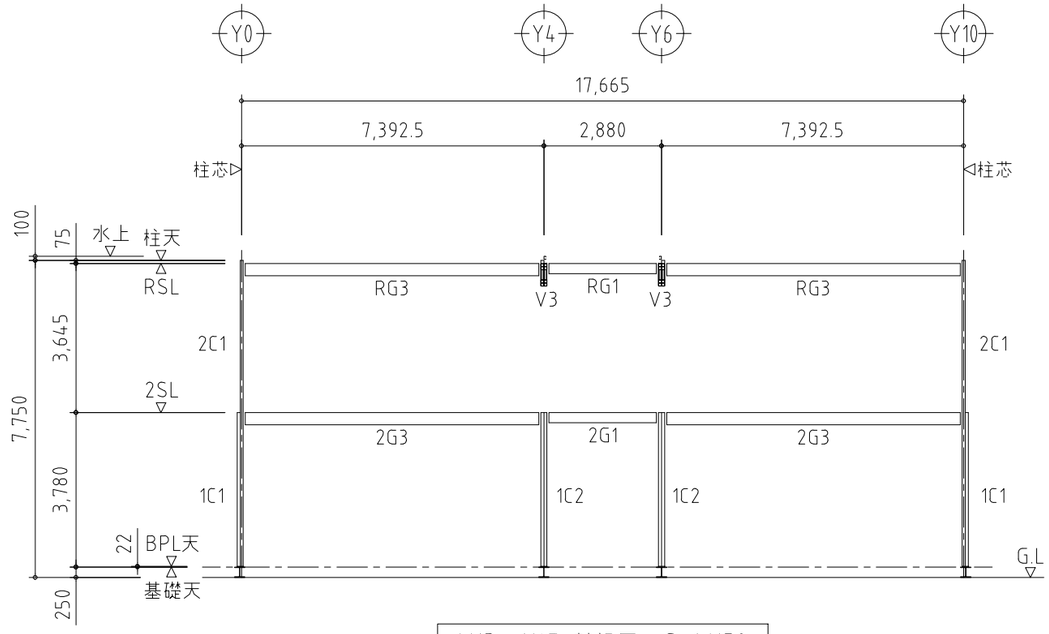
X7～9通 軸組図 S=1/150



X10通 軸組図 S=1/300



X15通 軸組図 S=1/150



X13・14通 軸組図 S=1/150

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

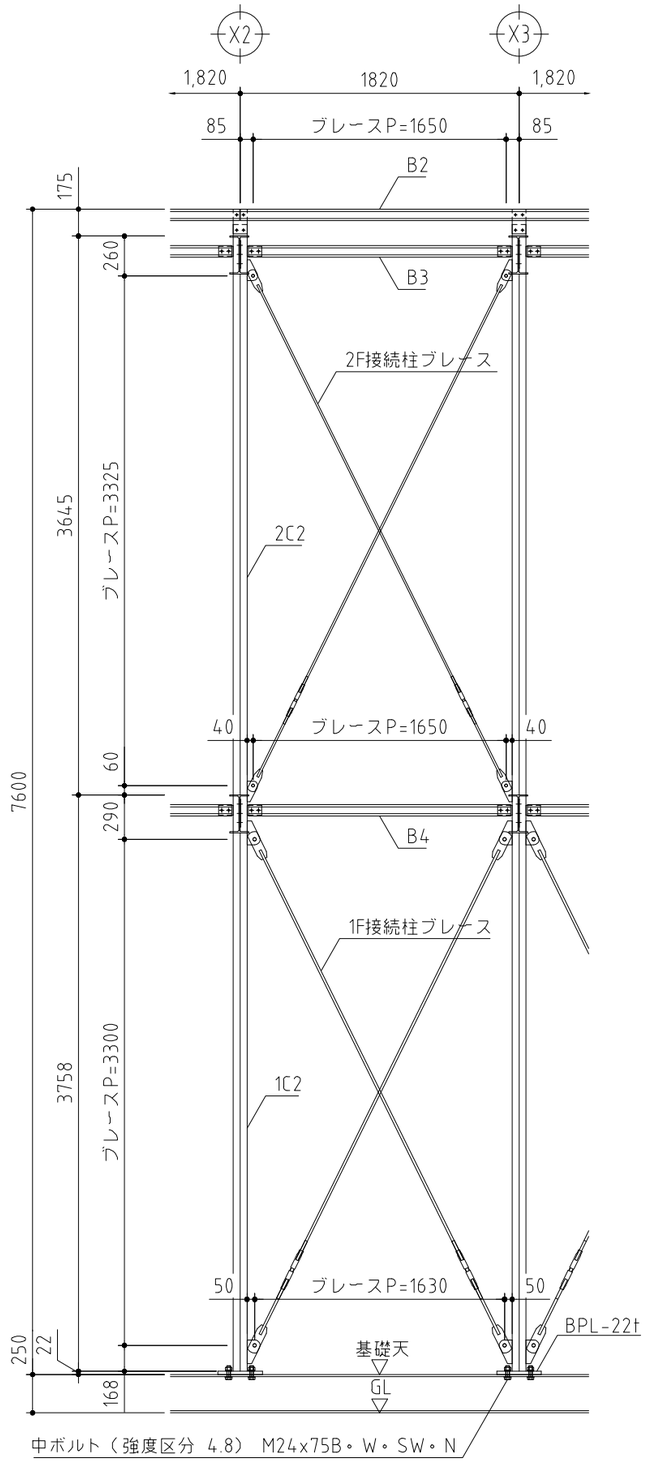
No. 135

[仮設] B棟 軸組図 7

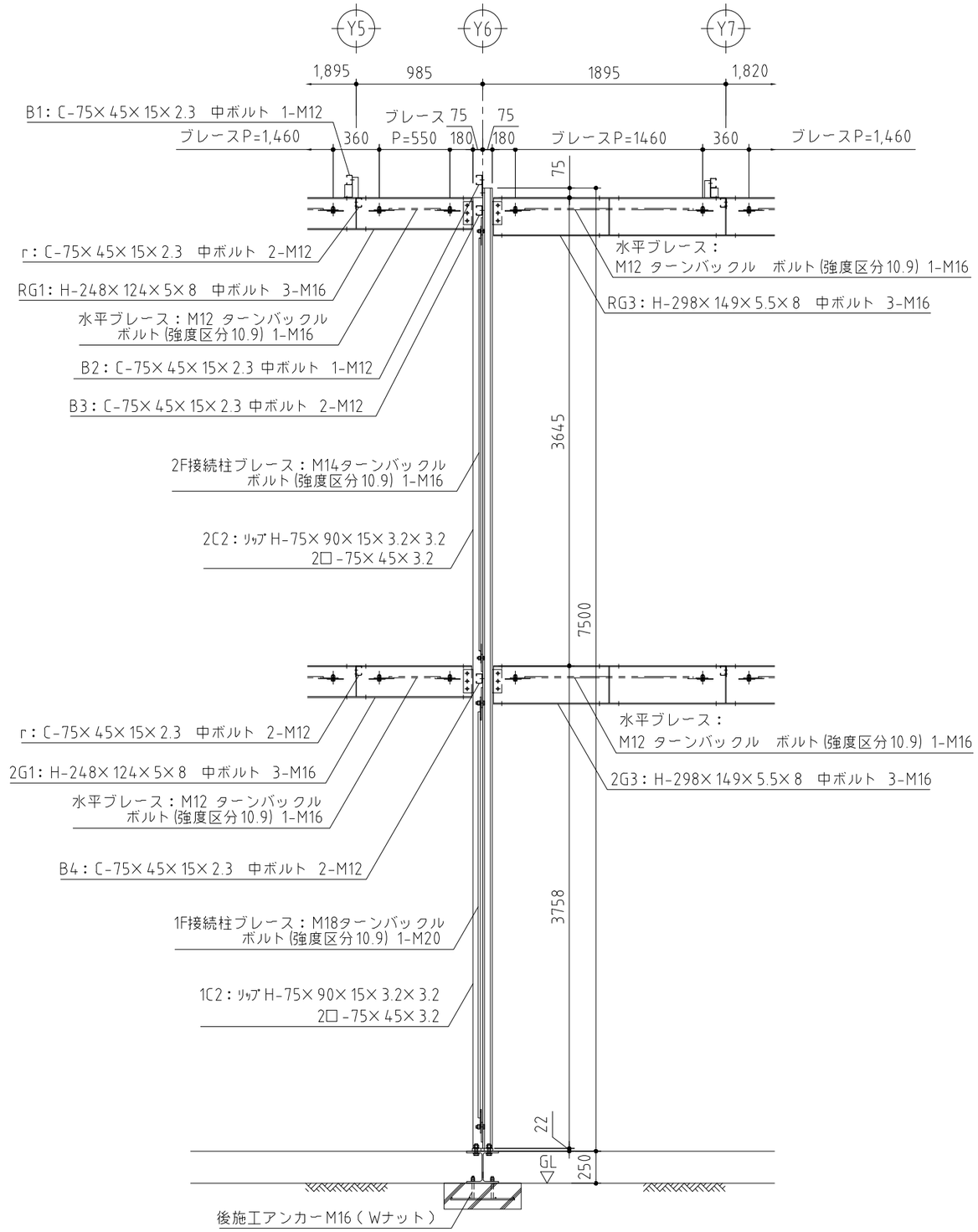
A3 1/150

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



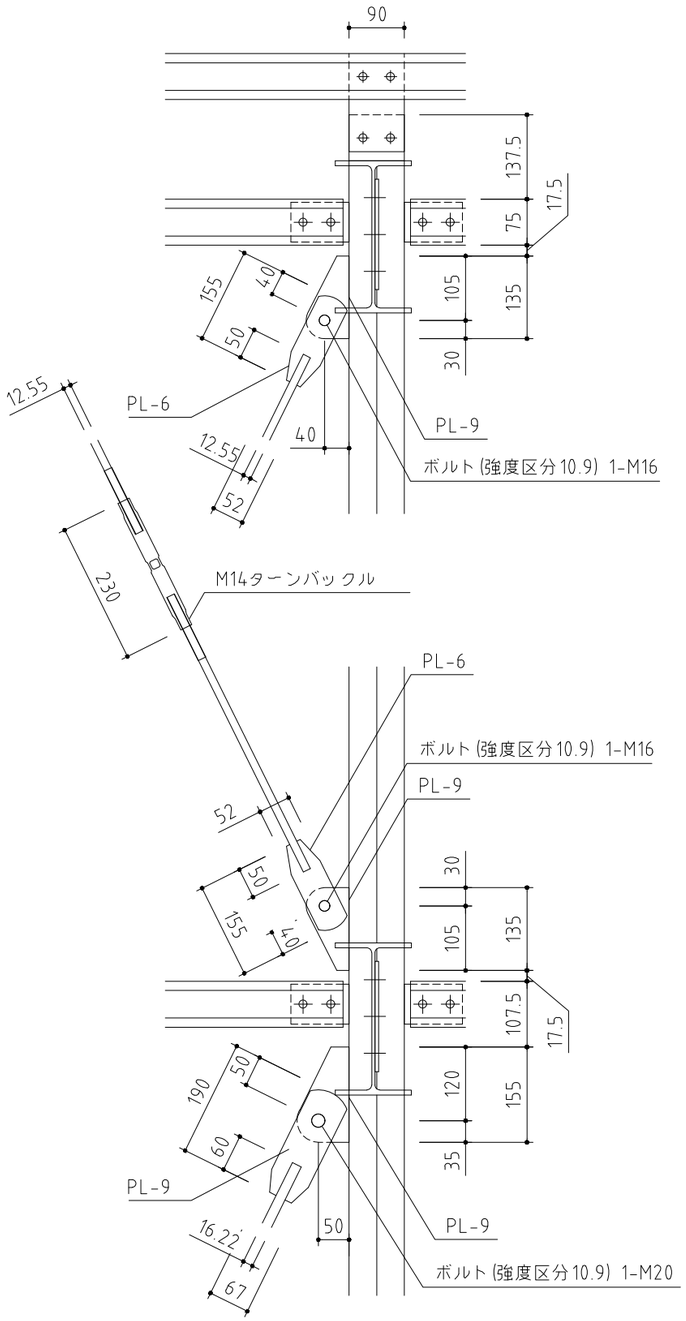
Y6通 架構図（接続部） S=1/40

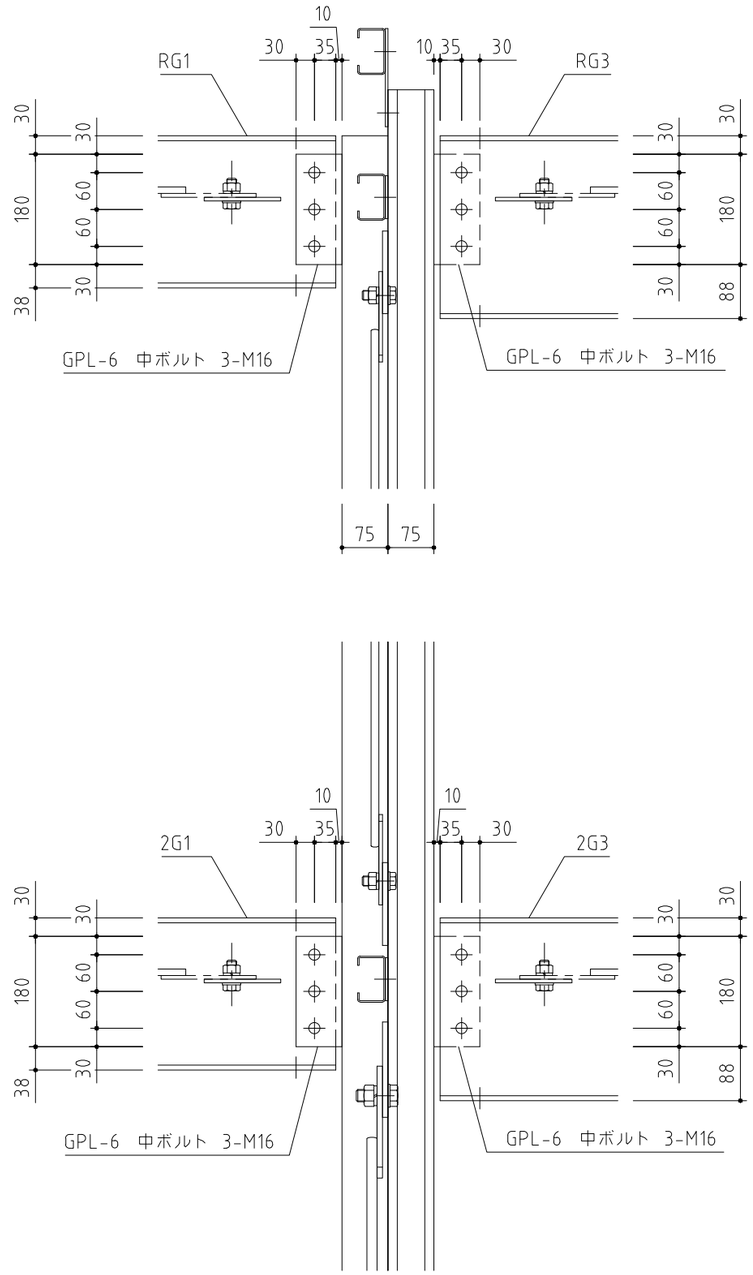


X2通 架構図（接続部） S=1/40

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 136
	[仮設] B棟 架構図 A3 1/40	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/24





鉄骨詳細図　S=1/10

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

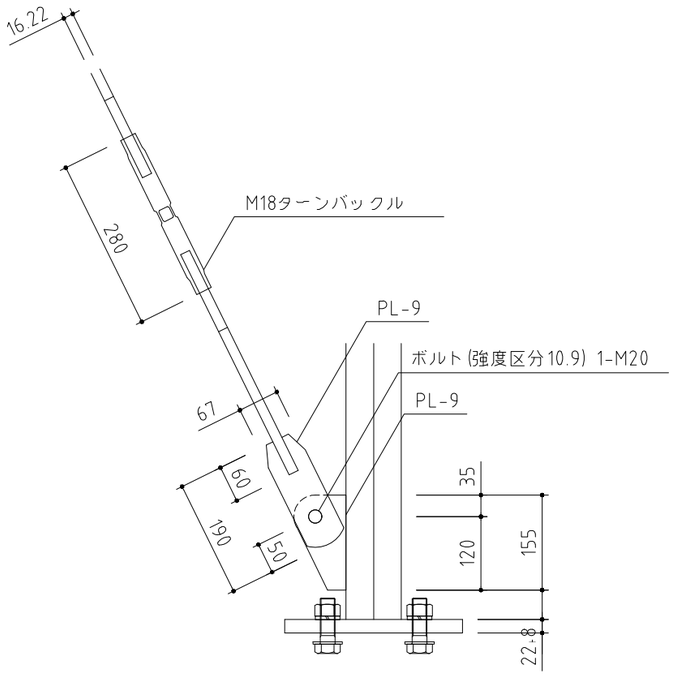
No. 137

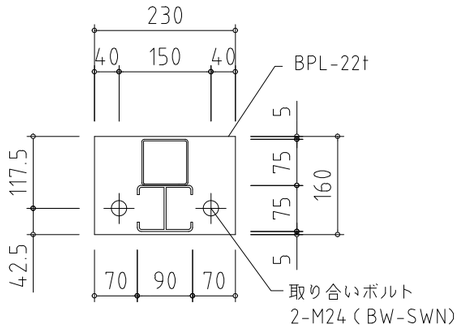
[仮設] B棟 鉄骨詳細図

A3 1/10

DEPT. 構

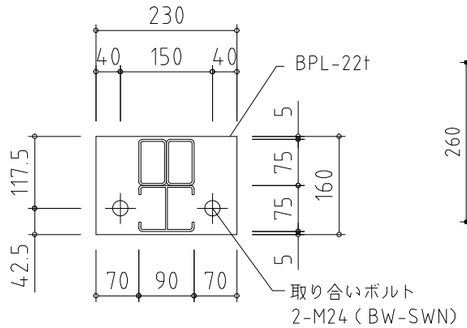
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23





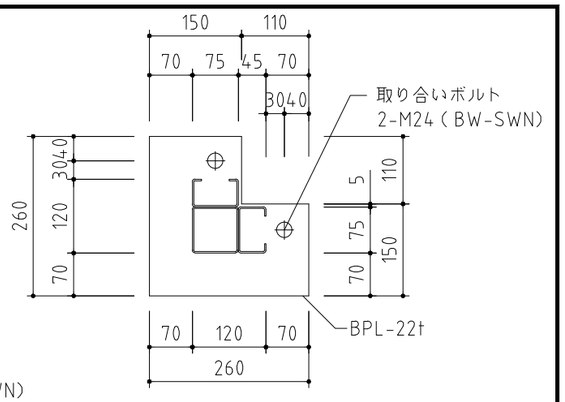
1C1: LH-75×90×15×3.2×3.2
+□-75x75x3.2

1C1 柱脚詳細図 S=1/10



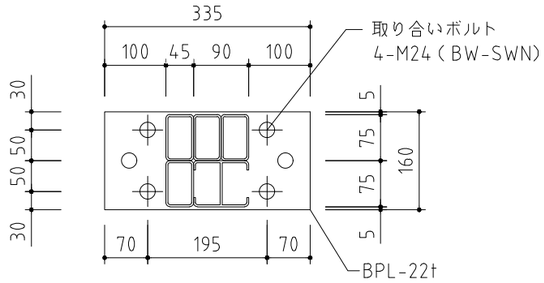
C3: LH-75×90×15×3.2×3.2
+2□-75x45x3.2

C3 柱脚詳細図 S=1/10



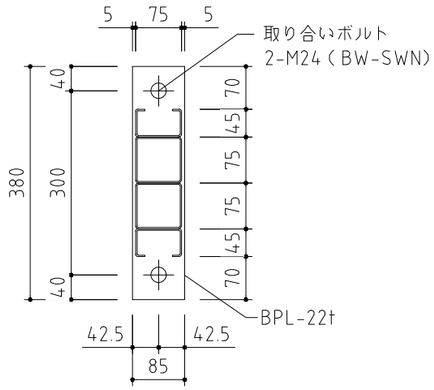
1C4: 2C-75x45x15x2.3
+ □-75x75x2.3

1C4 柱脚詳細図 S=1/10



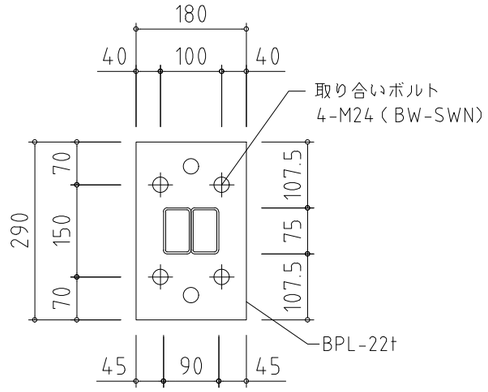
1C5: LH-75×90×15×3.2×3.2
+4□-75×45×3.2

1C5 柱脚詳細図 S=1/10



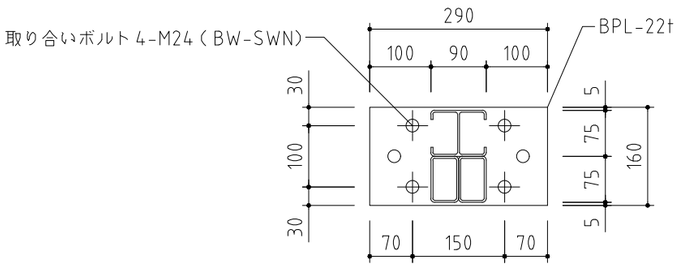
1C6: 2C-75x45x15x2.3 + 2□-75x75x2.3

1C6 柱脚詳細図 S=1/10



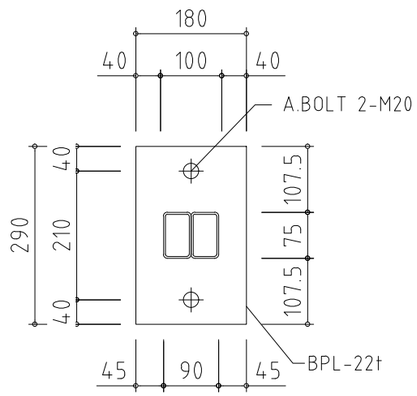
1C7: 2□-75×45×3.2

1C7 柱脚詳細図 S=1/10



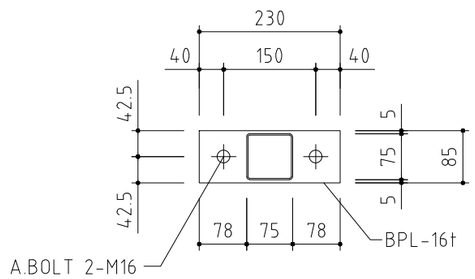
1C2: LH-75×90×15×3.2×3.2
+2□-75×45×3.2

1C2 柱脚詳細図 S=1/10



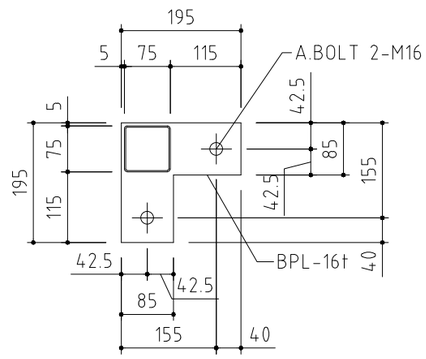
1C8: 2□-75×45×3.2

1C8 柱脚詳細図 S=1/10



C9: □-75×75×2.3

C9 柱脚詳細図 S=1/10



C9: □-75×75×2.3

C9 柱脚詳細図 S=1/10

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

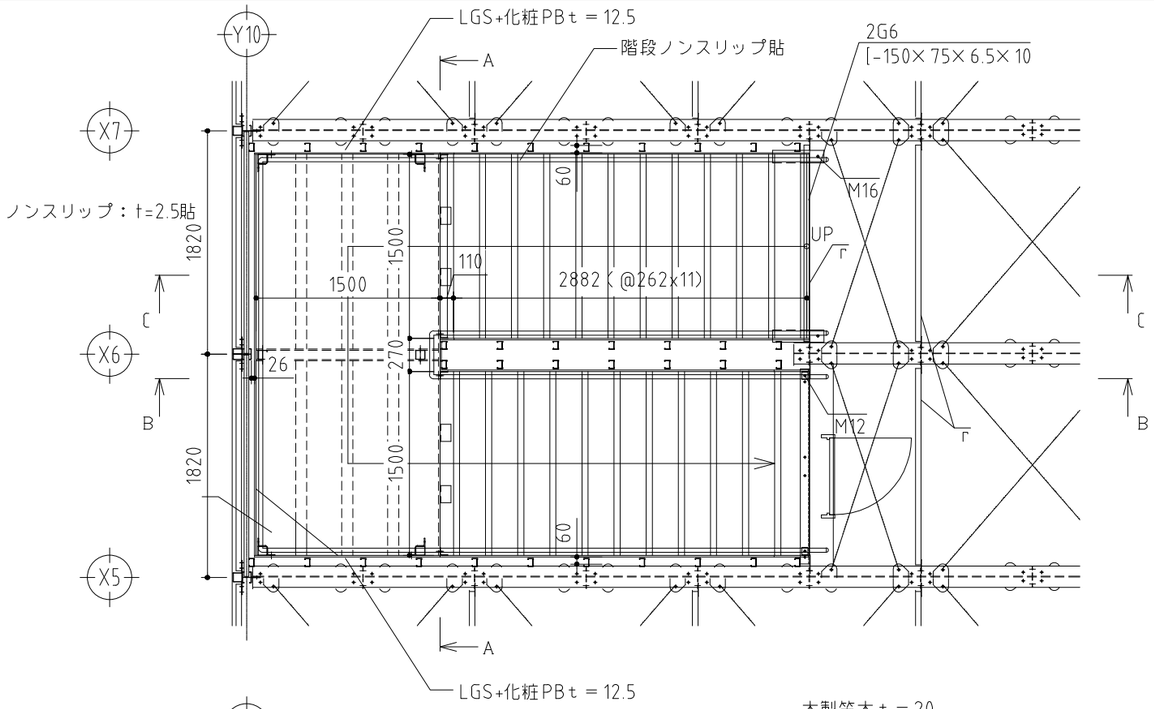
No. 138

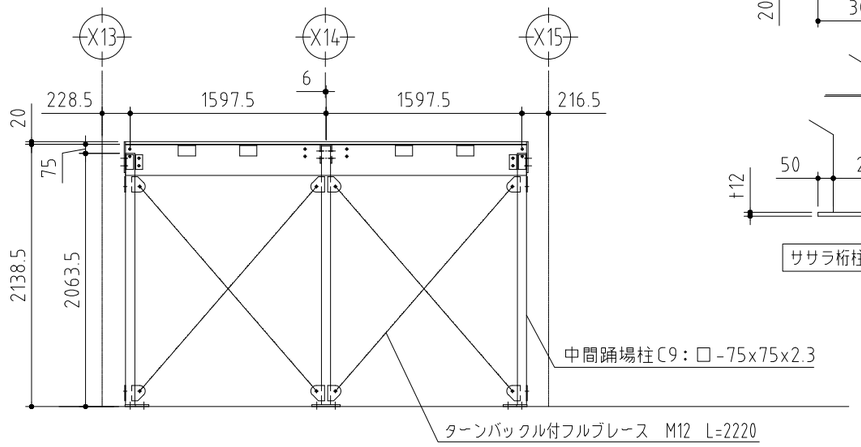
[仮設] B棟 柱脚詳細図

A3 1/10

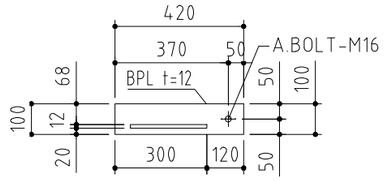
DEPT. 構

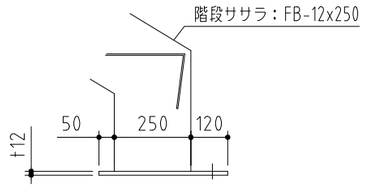
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



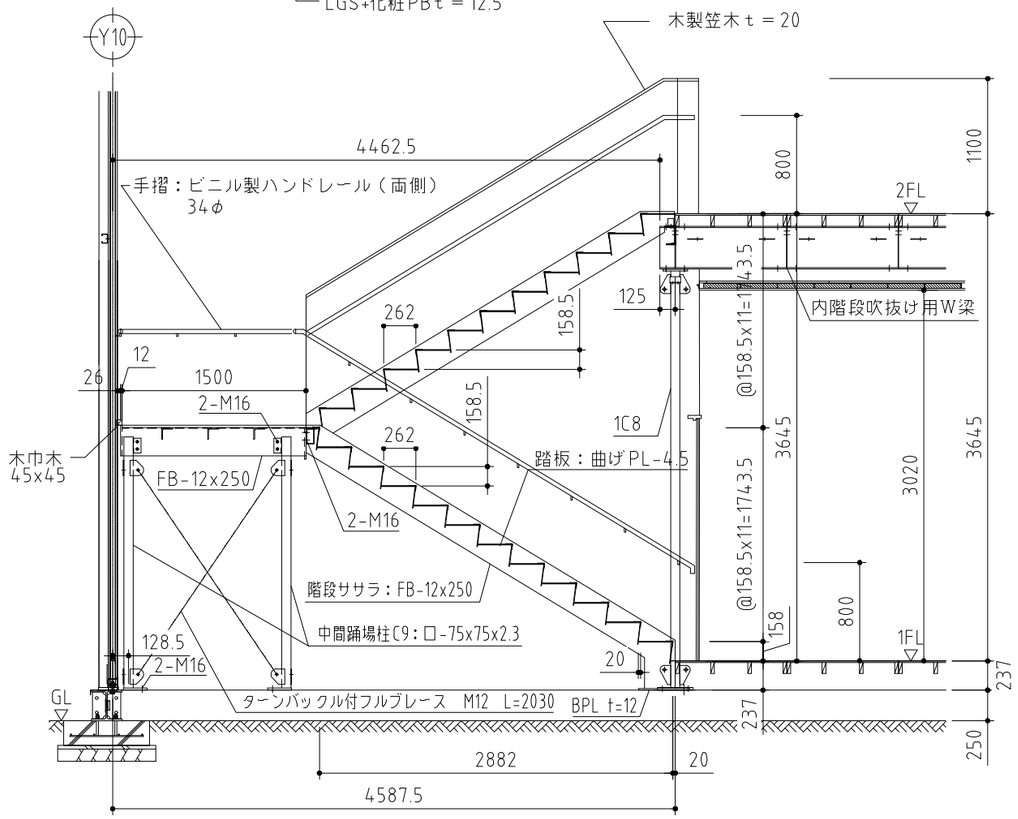


A-A矢視図

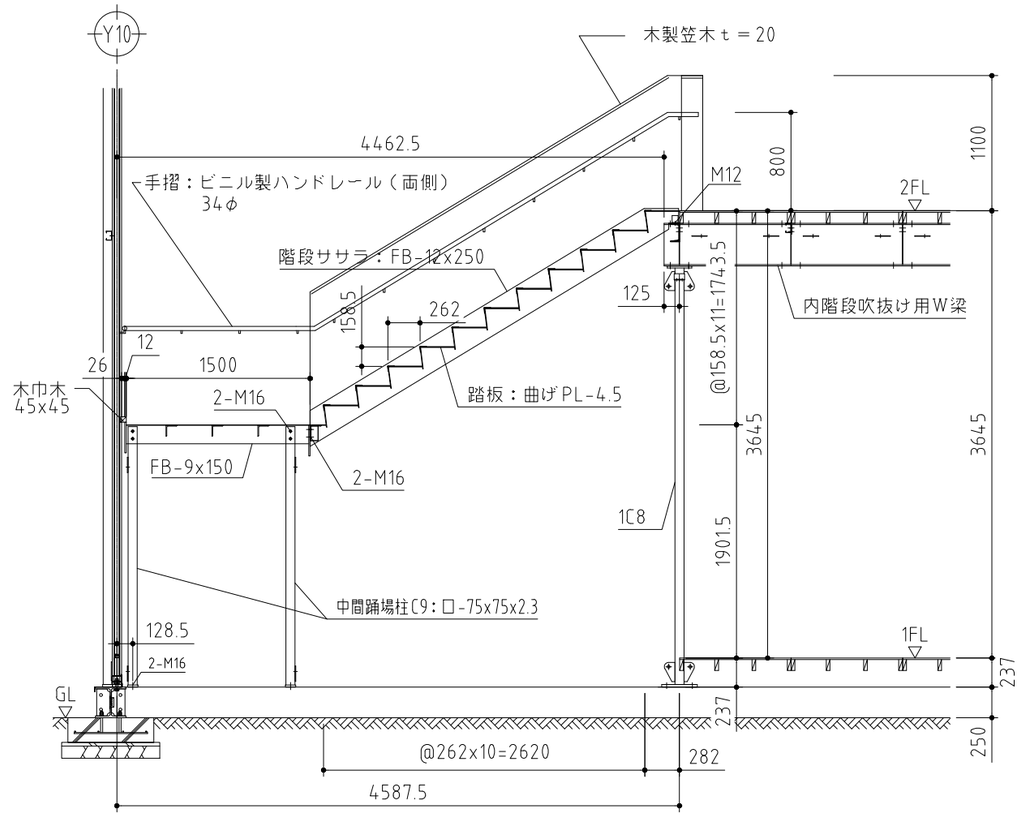




ササラ桁柱脚部　S=1/20



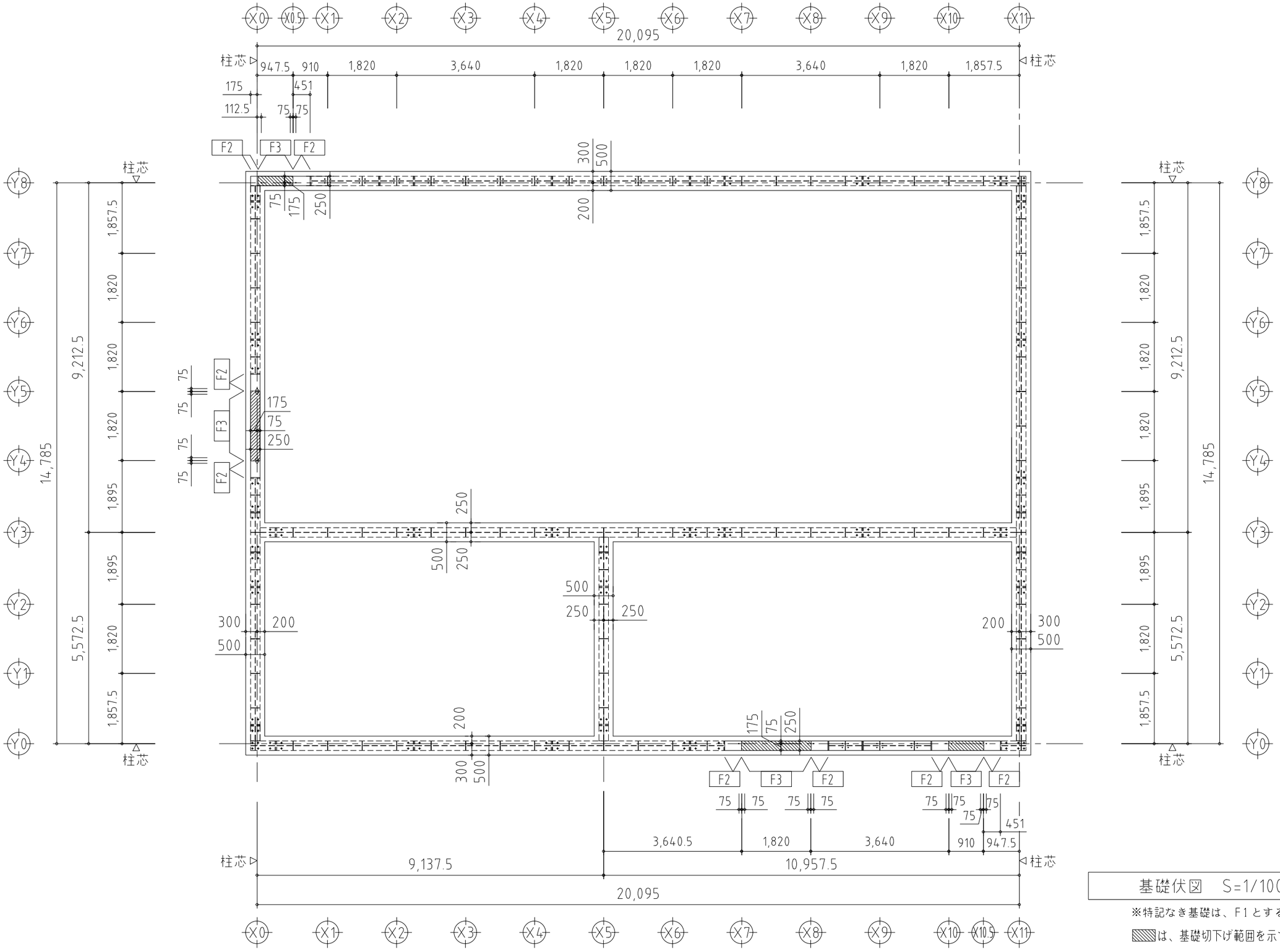
C-C断面図



B-B断面図

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 139
	［仮設］B棟　階段詳細図　A3　1/50	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



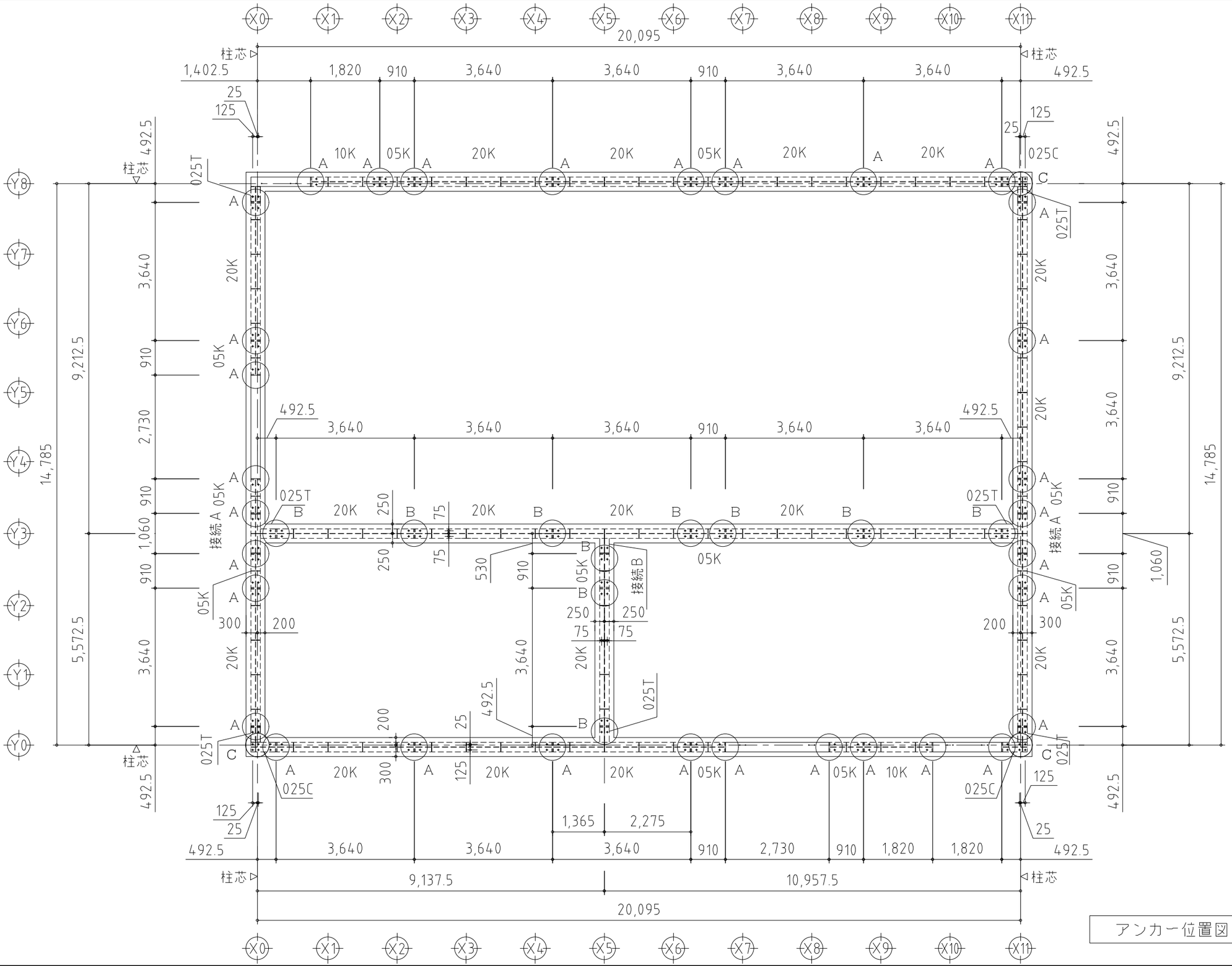
基礎伏図　S=1/100

※特記なき基礎は、F1とする

▨は、基礎切下げ範囲を示す

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 140
	[仮設] 給食棟　基礎伏図・基礎詳細図　A3　1/100	DEPT 構

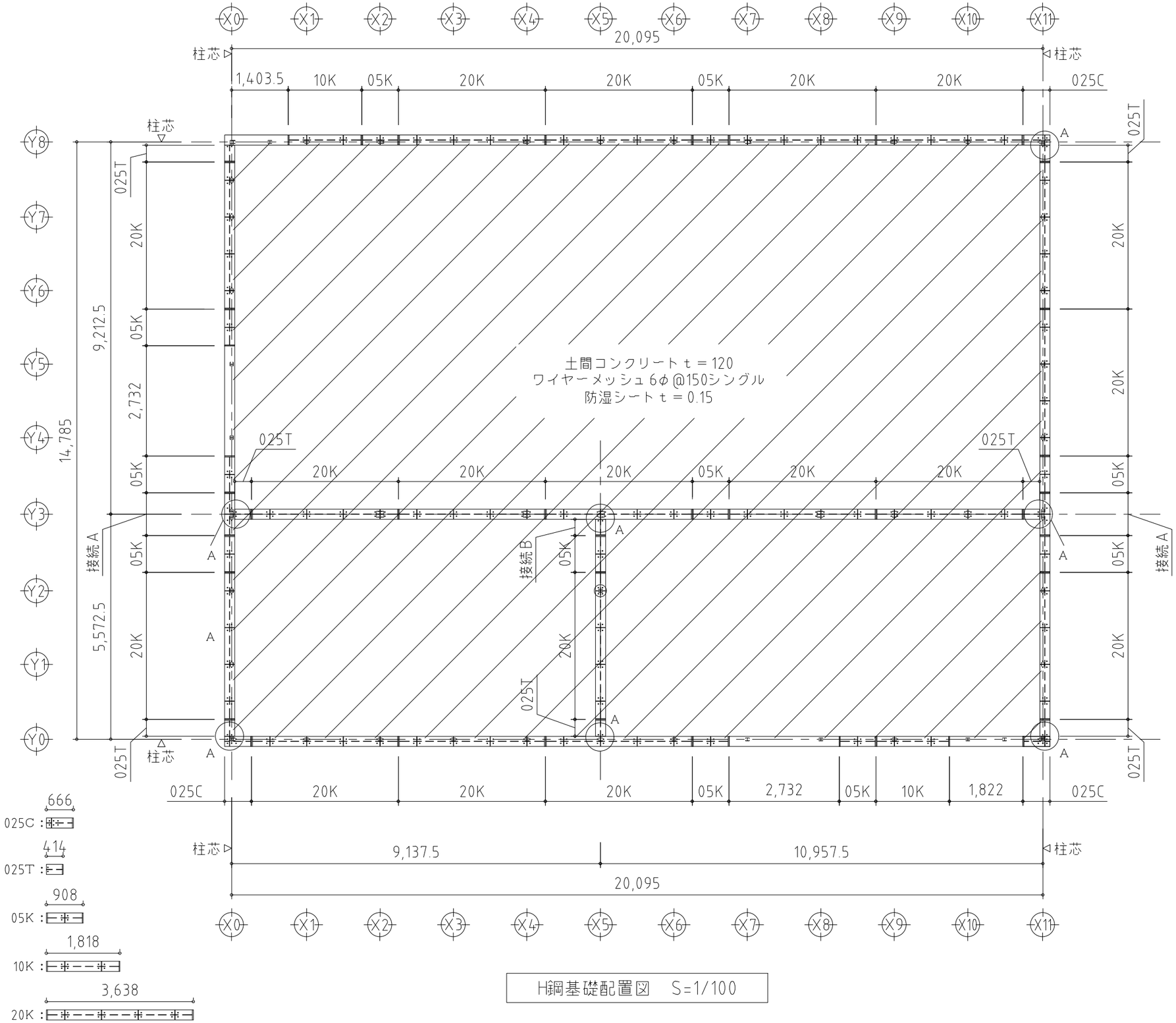
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



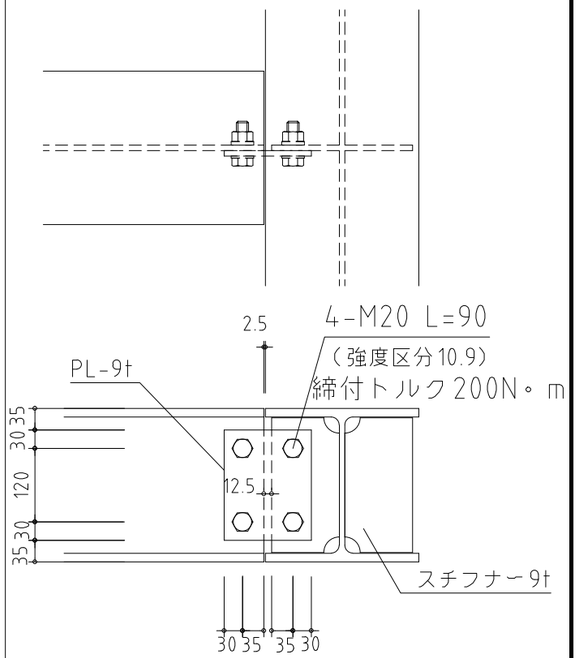
アンカー位置図　S=1/100

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計	高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 141
		[仮設] 給食棟　アンカー位置図　A3　1/100	DEPT. 構

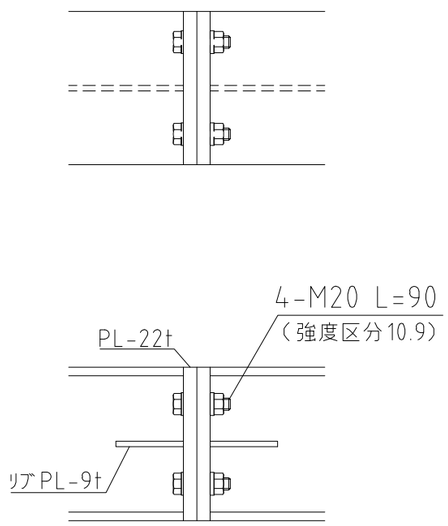
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



H鋼基礎配置図　S=1/100



A部接続　S=1/10



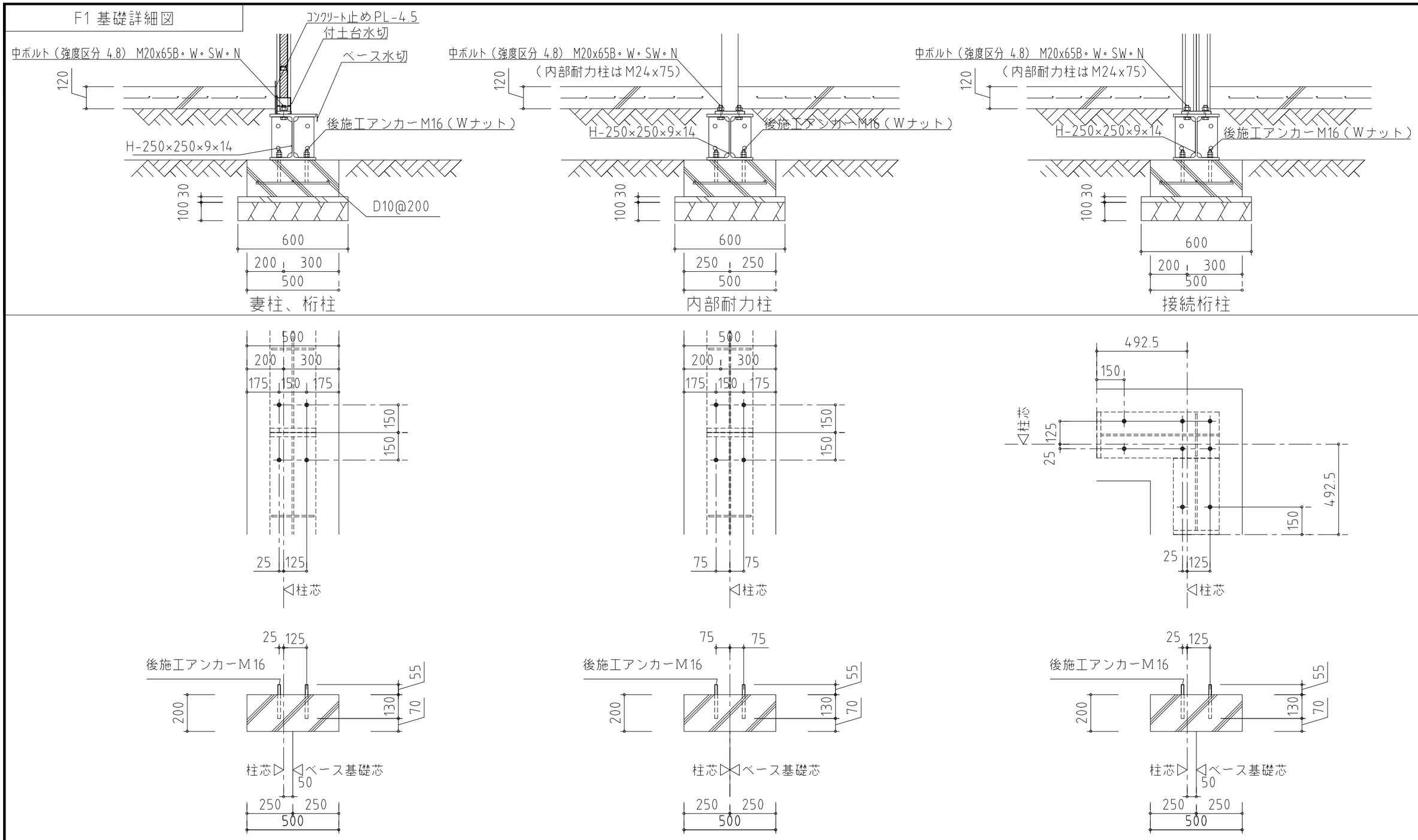
B部接続　S=1/10

※A部以外の接続部

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 142
	[仮設] 給食棟　H鋼基礎配置図　A3　図示	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

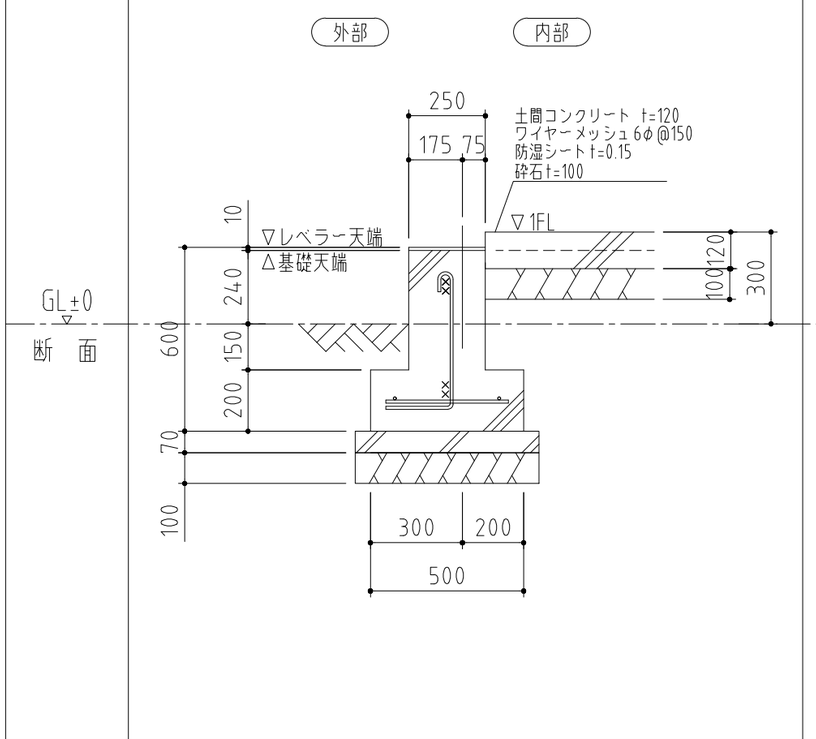
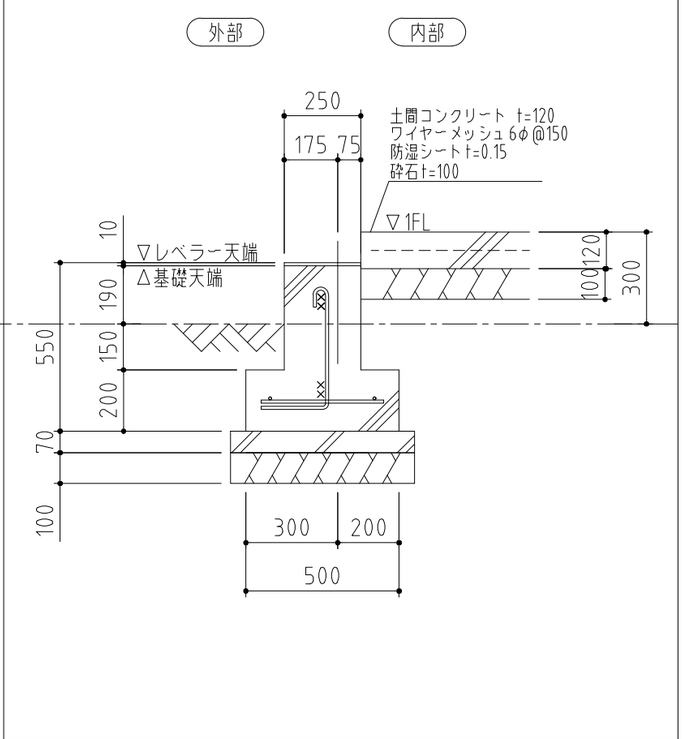
F1 基礎詳細図



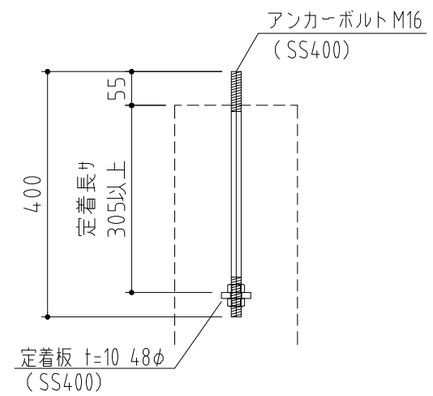
※後施工アンカーはケミカルアンカー標準サイズ同等品とする。（長期許容引張強度19kN以上）

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 143
	[仮設] 給食棟 基礎詳細図1・アンカー詳細図 A3 1/20	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23

符　号	F2	F3
断　面		
A.BOLT	M16 L-400	M16 L-400
上端筋	2-D13	2-D13
下端筋	2-D13	2-D13
立上補強筋	D10-@150	D10-@150
ベース筋	D10-@150	D10-@150
備考	〖桁柱〗	〖切下げ桁柱〗

アンカーボルト図　S=1/10



特記事項

レディミクストコンクリート	(JIS A 5308)
コンクリート強度	21 N/mm2
異形鉄筋	SD 295 (D16 マデ) (JIS G 3112)
鉄筋	重ね継手40dとする。
アンカーボルト	SS400　JIS G 3101
許容地耐力	50 kN/m2

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

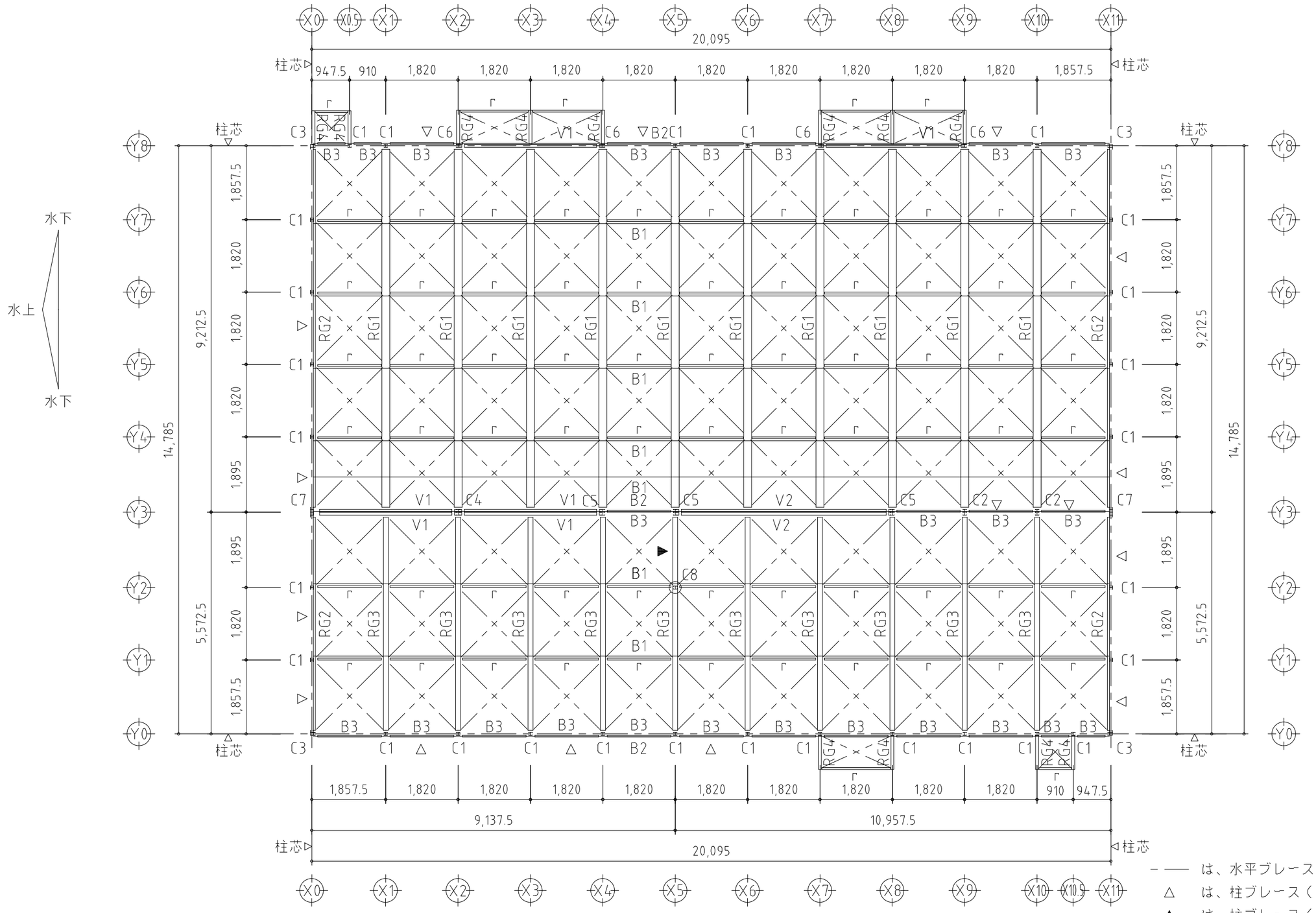
[仮設] 給食棟　基礎詳細図2

A3　1/20

No. 144

DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



小屋梁伏図　S=1/100

－ —— は、水平ブレース（M12）を示す。
△ は、柱ブレース（M14）位置を示す。
▲ は、柱ブレース（M18）位置を示す。
○ は、梁下柱を示す。

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 145
	[仮設] 給食棟　小屋梁伏図 A3 1/100	DEPT. 構

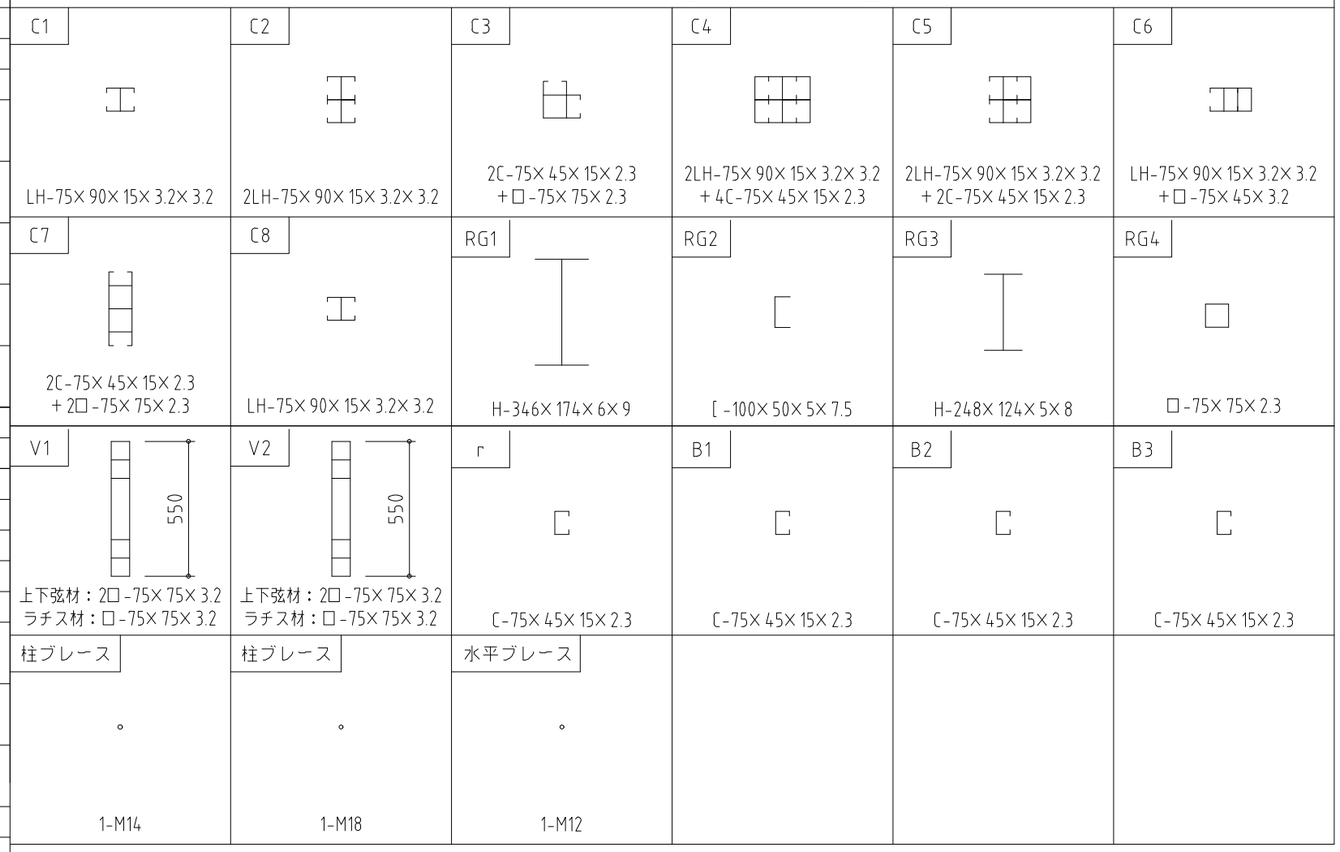
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

部材リスト

符号	部材	材質			
C1	LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-16	中ボルト 2-M20	A.Bolt 2-M16
C2	2LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-16	中ボルト 4-M20	
C3	2C-75×45×15×2.3	SSC400	BPL-16	中ボルト 2-M20	
	+□-75×75×2.3	STKR400			
C4	2LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-16	中ボルト 4-M20	
	+4C-75×45×15×2.3	SSC400			
C5	2LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-16	中ボルト 4-M20	
	+2C-75×45×15×2.3	SSC400			
C6	LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-16	中ボルト 2-M20	
	+□-75×45×3.2	STKR400			
C7	2C-75×45×15×2.3	SSC400	BPL-16	中ボルト 2-M20	
	+2□-75×75×2.3	STKR400			
C8	LH-75×90×15×3.2×3.2	SWH400L	BPL-22	中ボルト 4-M24	
RG1	H-346×174×6×9	SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16	
RG2	[-100×50×5×7.5	SS400		中ボルト 2-M12	
RG3	H-248×124×5×8	SS400	GPL-6	中ボルト 3-M16	
RG4	□-75×75×2.3	STKR400	GPL-6	中ボルト 4-M12	
V1	上下弦材：2□-75×75×3.2	STKR400	GPL-6	中ボルト 3-M16	
H=550	ラチス材：□-75×75×3.2	STKR400			
V2	上下弦材：2□-75×75×3.2	STKR400	GPL-6	中ボルト 3-M16	
H=550	ラチス材：□-75×75×3.2	STKR400			
r	C-75×45×15×2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12	
B1	C-75×45×15×2.3	SSC400		中ボルト 1-M12	
B2	C-75×45×15×2.3	SSC400		中ボルト 1-M12	
B3	C-75×45×15×2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト 2-M12	
水平ブレース	—— 1-M12（ターンバックル）	SNR400B	シート-6 羽子板PL-6	ボルト（強度区分10.9）1-M16	
柱ブレース	△ 1-M14（ターンバックル）	SNR400B	シート-9 羽子板PL-6	ボルト（強度区分10.9）1-M16	
柱ブレース	▲ 1-M18（ターンバックル）	SNR400B	シート-9 羽子板PL-9	ボルト（強度区分10.9）1-M20	

※ボルトは、スプリングワッシャーにて戻り止めとする。

部材断面



・鋼材		
■SSC400	(ツナギ・母屋・柱)	JIS G 3350
■SWH400L	(柱)	JIS G 3353
■STKR400	(柱・開口梁)	JIS G 3466
■SS400	(梁・アンカーボルト)	JIS G 3101
■仕上ボルト	ボルト強度区分4.8 ボルト強度区分10.9	JIS B 1180
■SNR400B	(ブレース・ターンバックル)	JIS A 5540

※中ボルトは戻り止め仕様（スプリングワッシャー使用）とする。

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

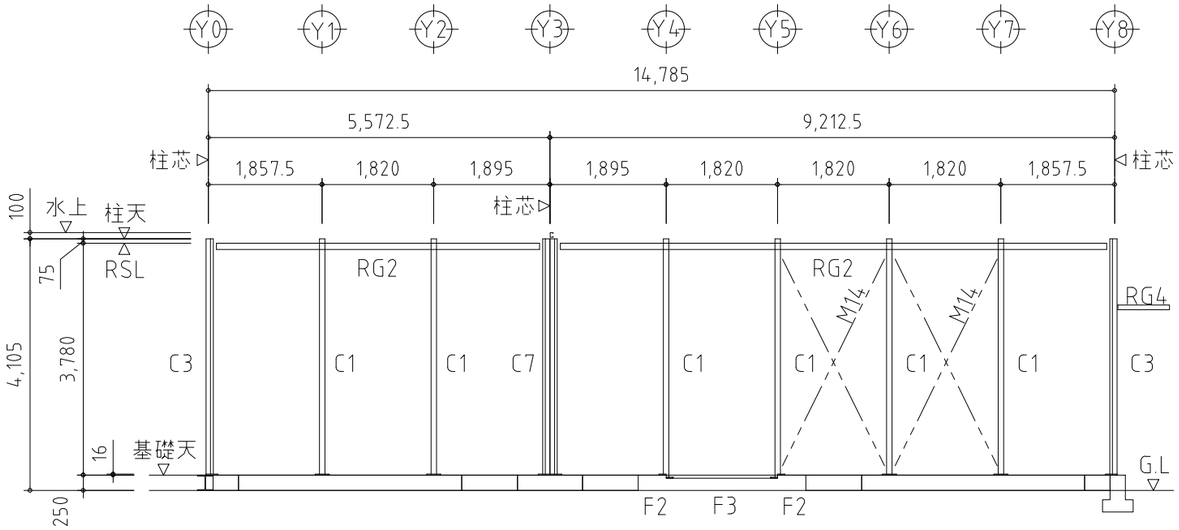
No. 146

[仮設] 給食棟 部材リスト

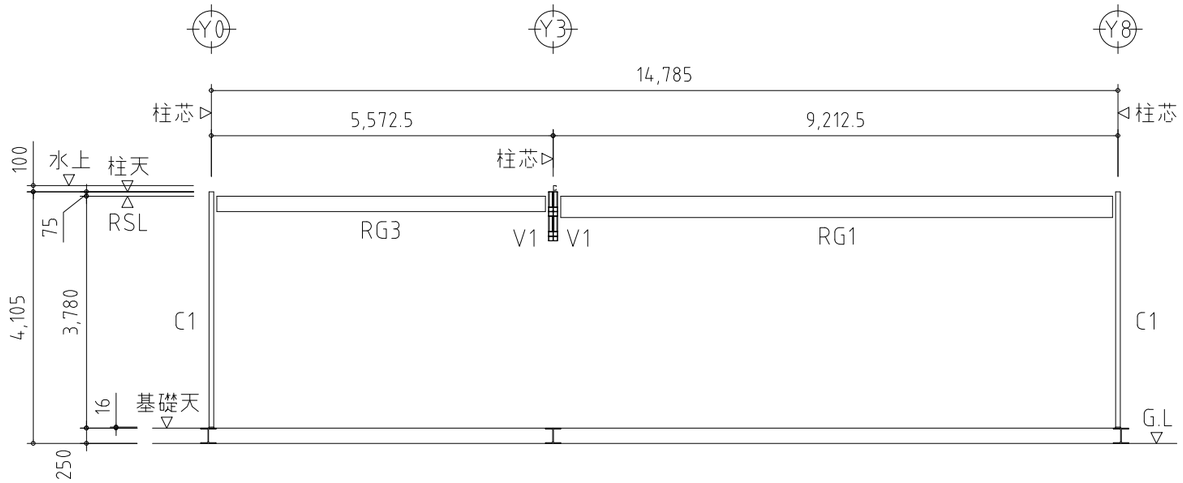
A3 1/---

DEPT. 構

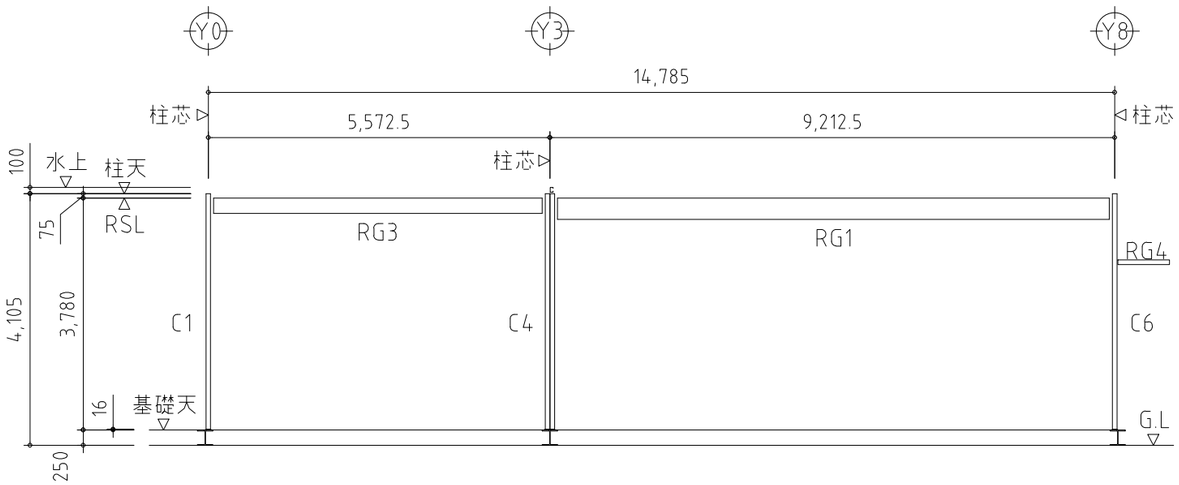
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



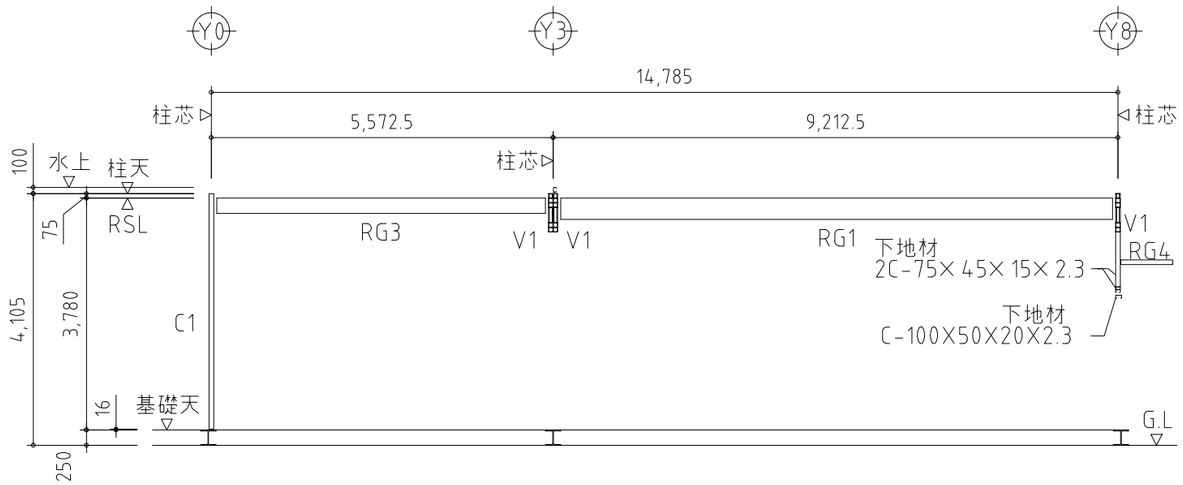
X0通 軸組図 S=1/100



X1通 軸組図 S=1/100



X2通 軸組図 S=1/100



X3通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

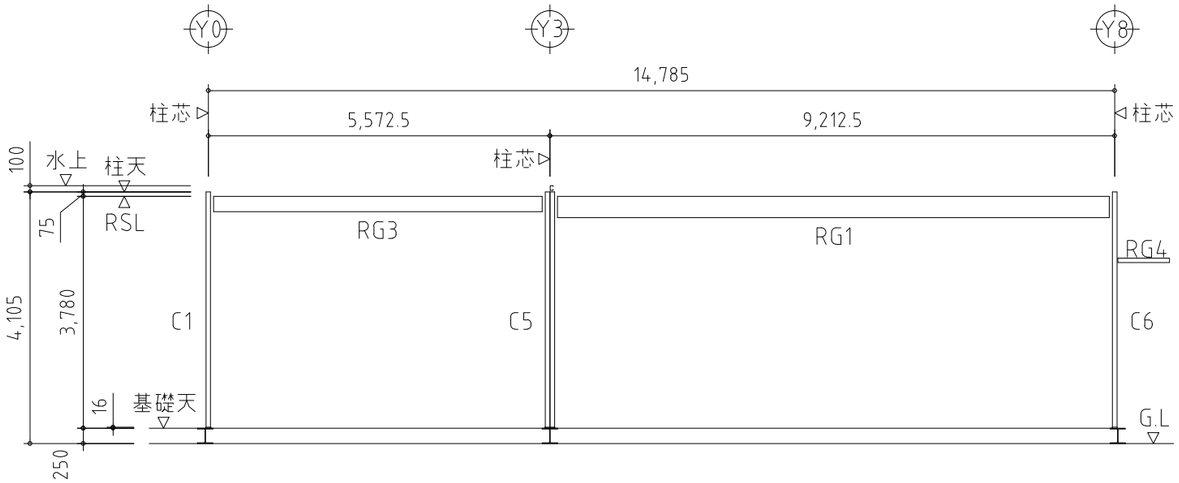
No. 147

[仮設] 給食棟 軸組図 1

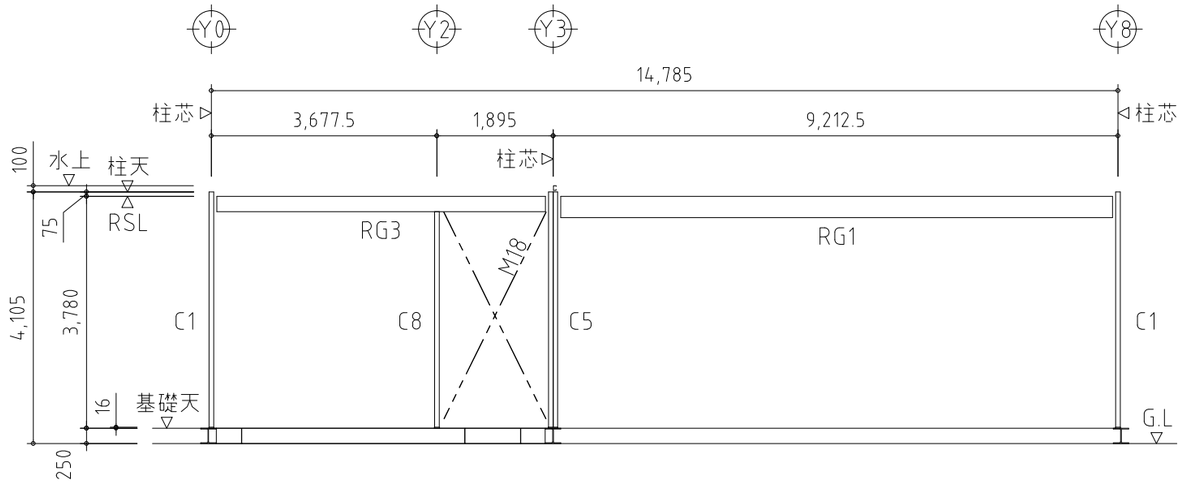
A3 1/100

DEPT. 構

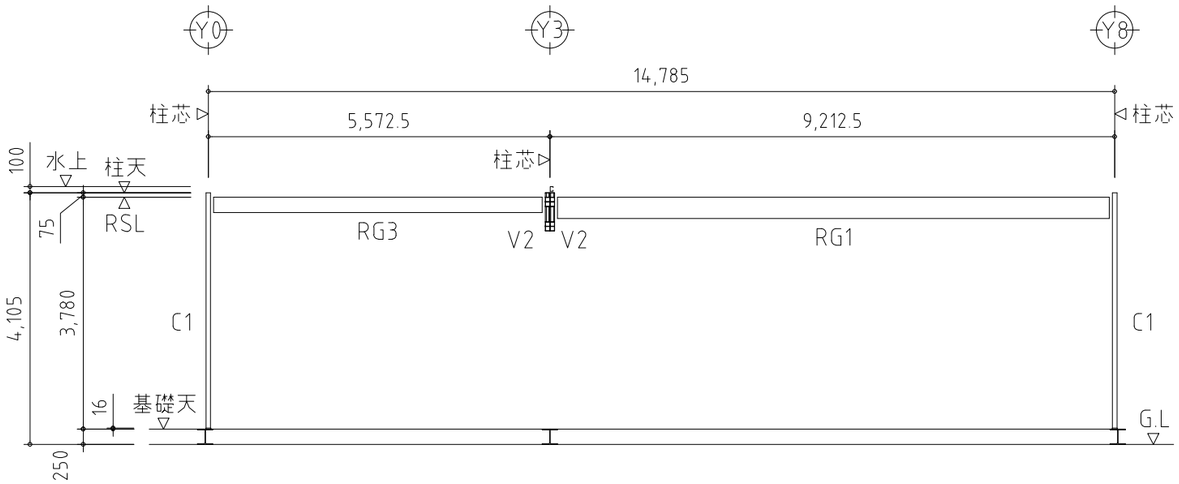
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



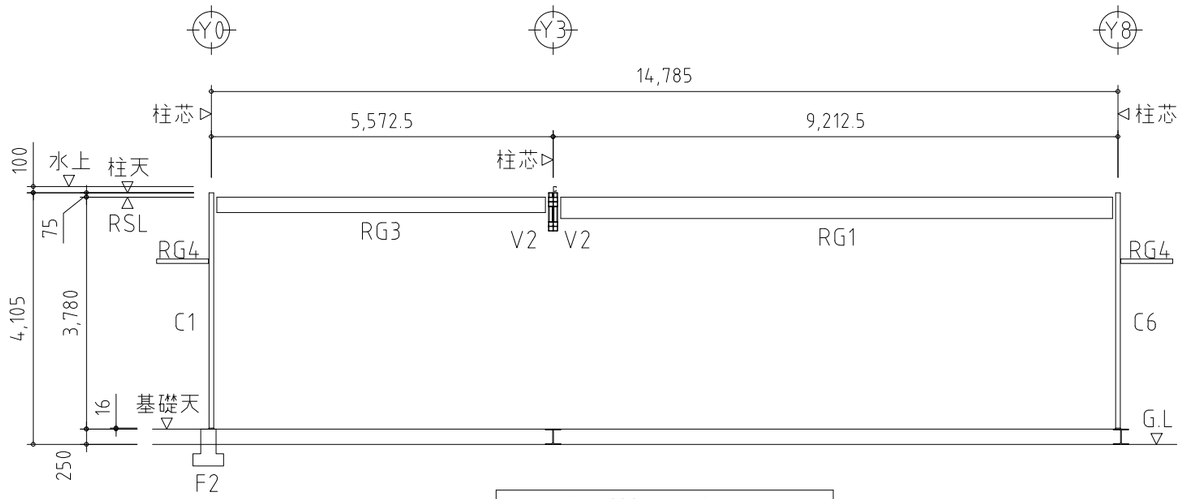
X4通 軸組図 S=1/100



X5通 軸組図 S=1/100



X6通 軸組図 S=1/100



X7通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

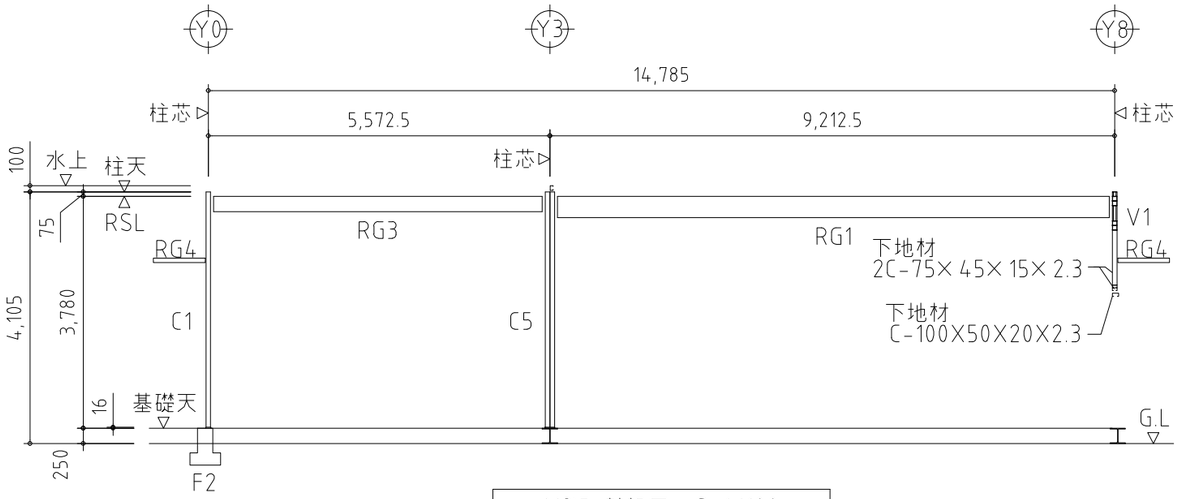
No. 148

[仮設] 給食棟 軸組図２

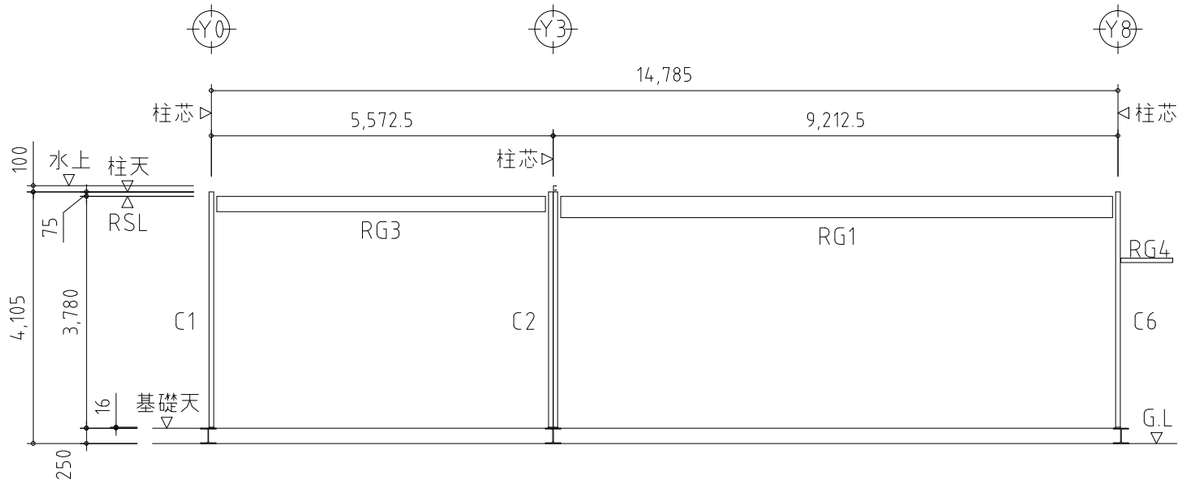
A3 1/100

DEPT. 構

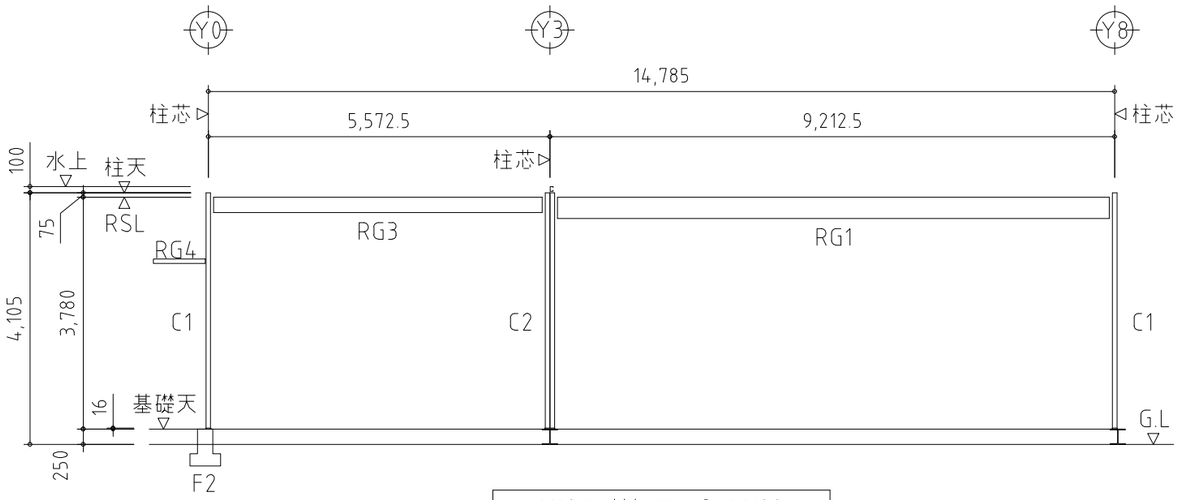
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



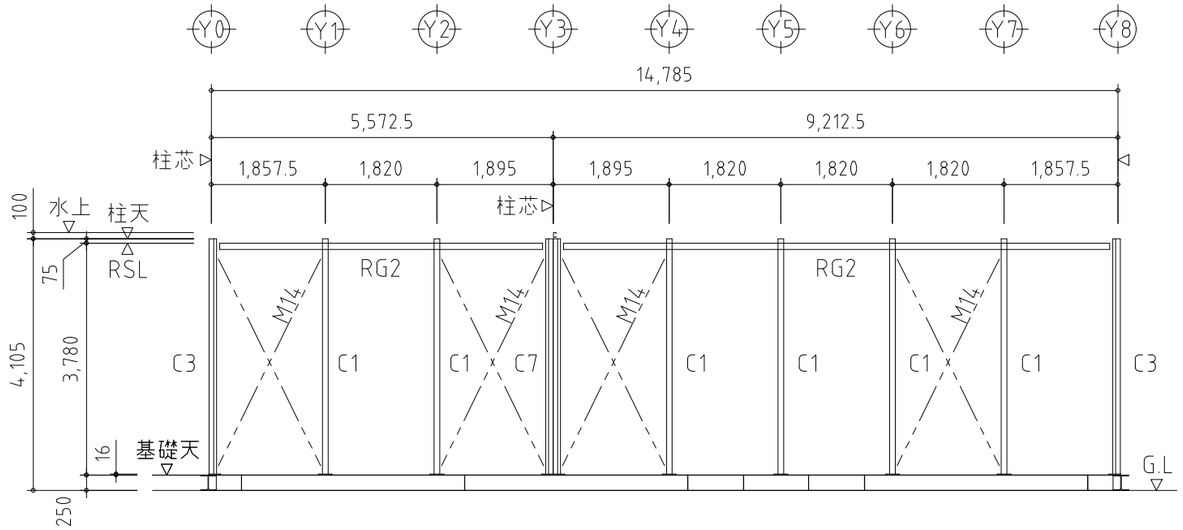
X8通 軸組図 S=1/100



X9通 軸組図 S=1/100



X10通 軸組図 S=1/100



X11通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

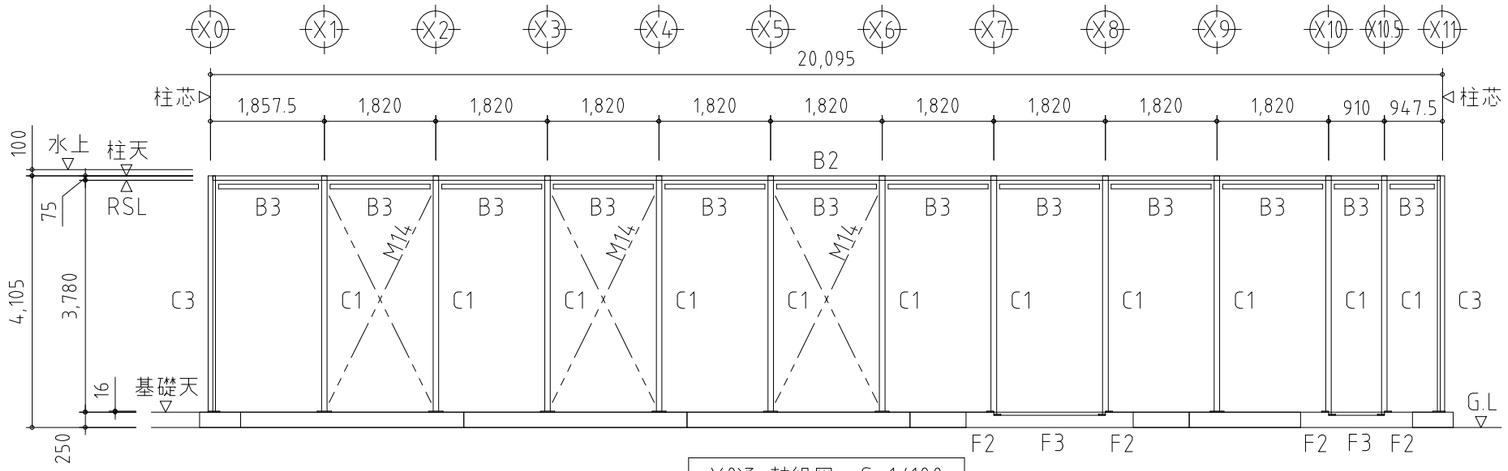
No. 149

[仮設] 給食棟 軸組図３

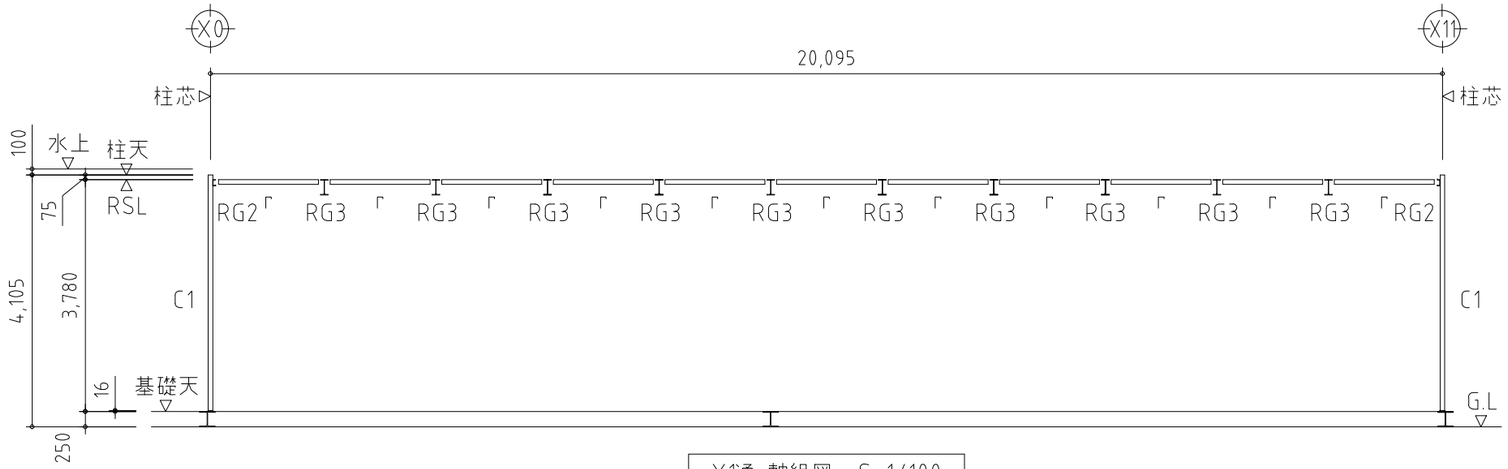
A3 1/100

DEPT. 構

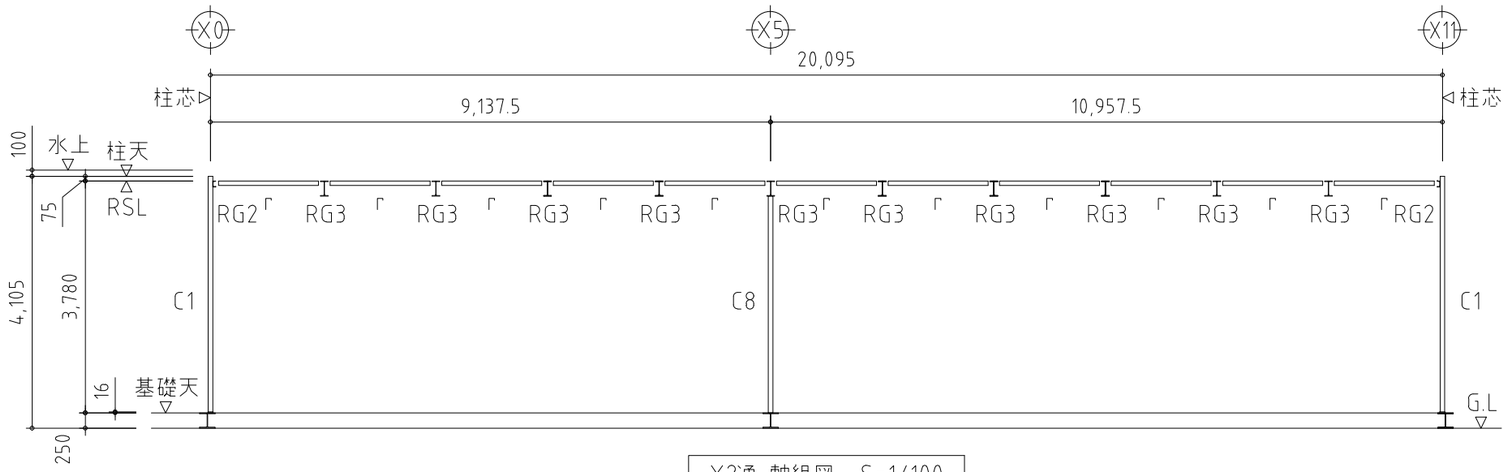
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y0通 軸組図 S=1/100



Y1通 軸組図 S=1/100



Y2通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

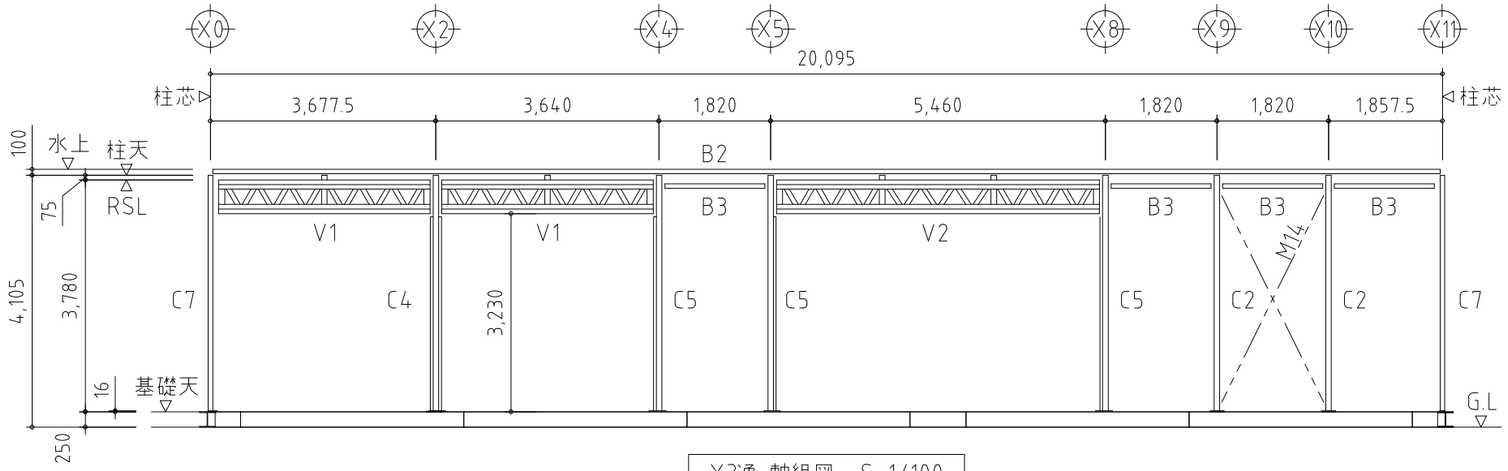
No. 150

[仮設] 給食棟 軸組図４

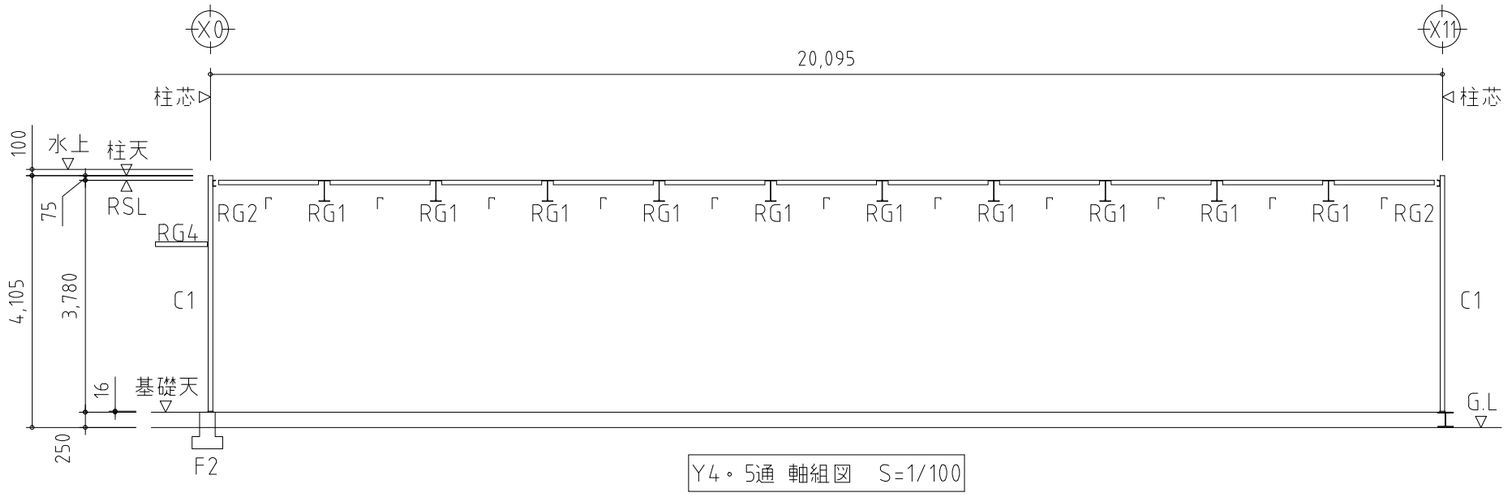
A3 1/100

DEPT. 構

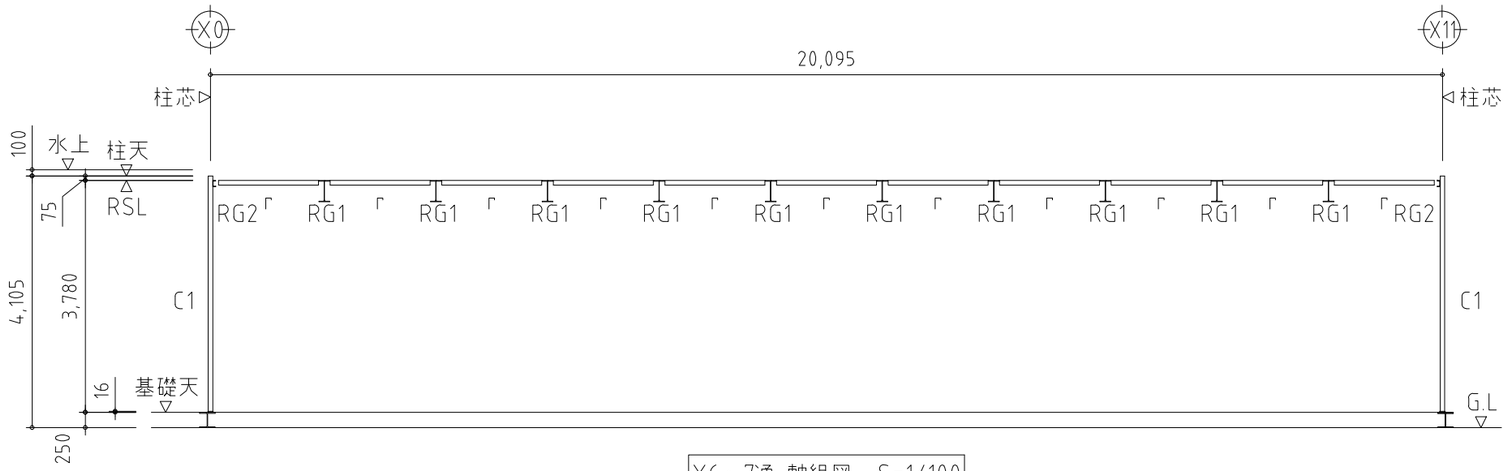
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y3通 軸組図 S=1/100



Y4・5通 軸組図 S=1/100



Y6・7通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

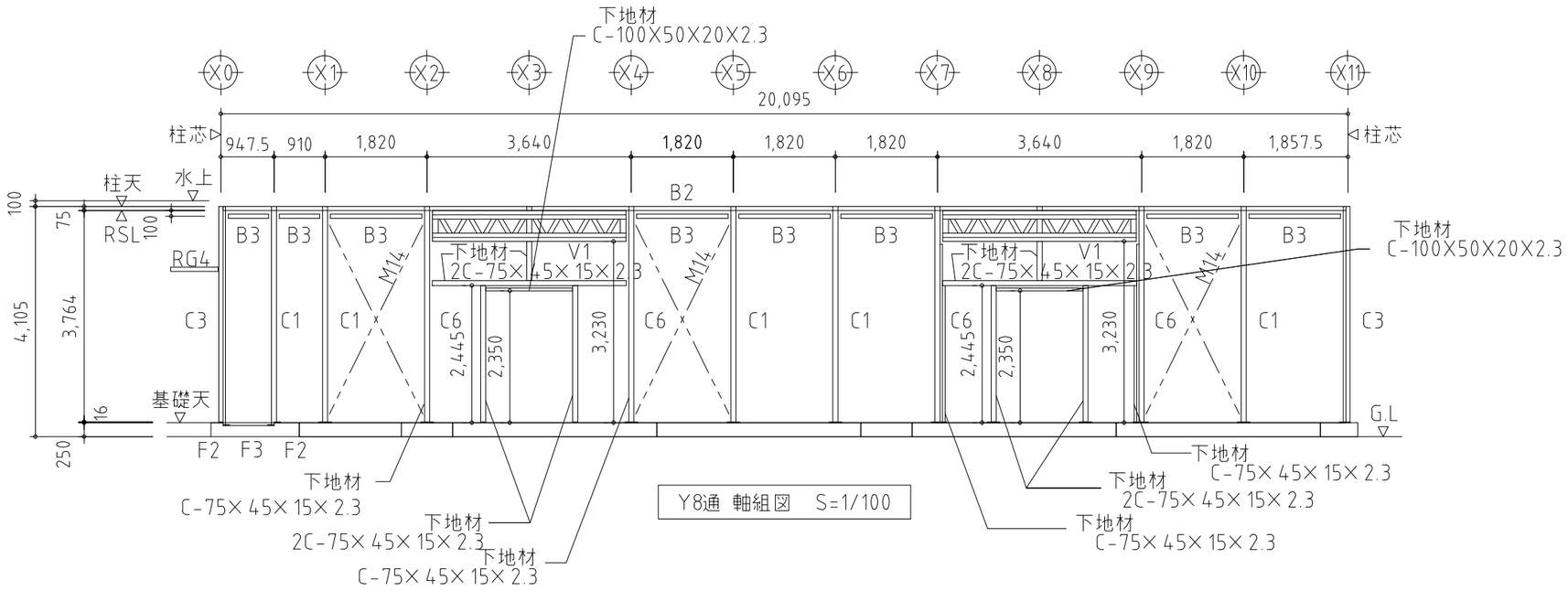
No. 151

[仮設] 給食棟 軸組図５

A3 1/100

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



Y8通 軸組図 S=1/100

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

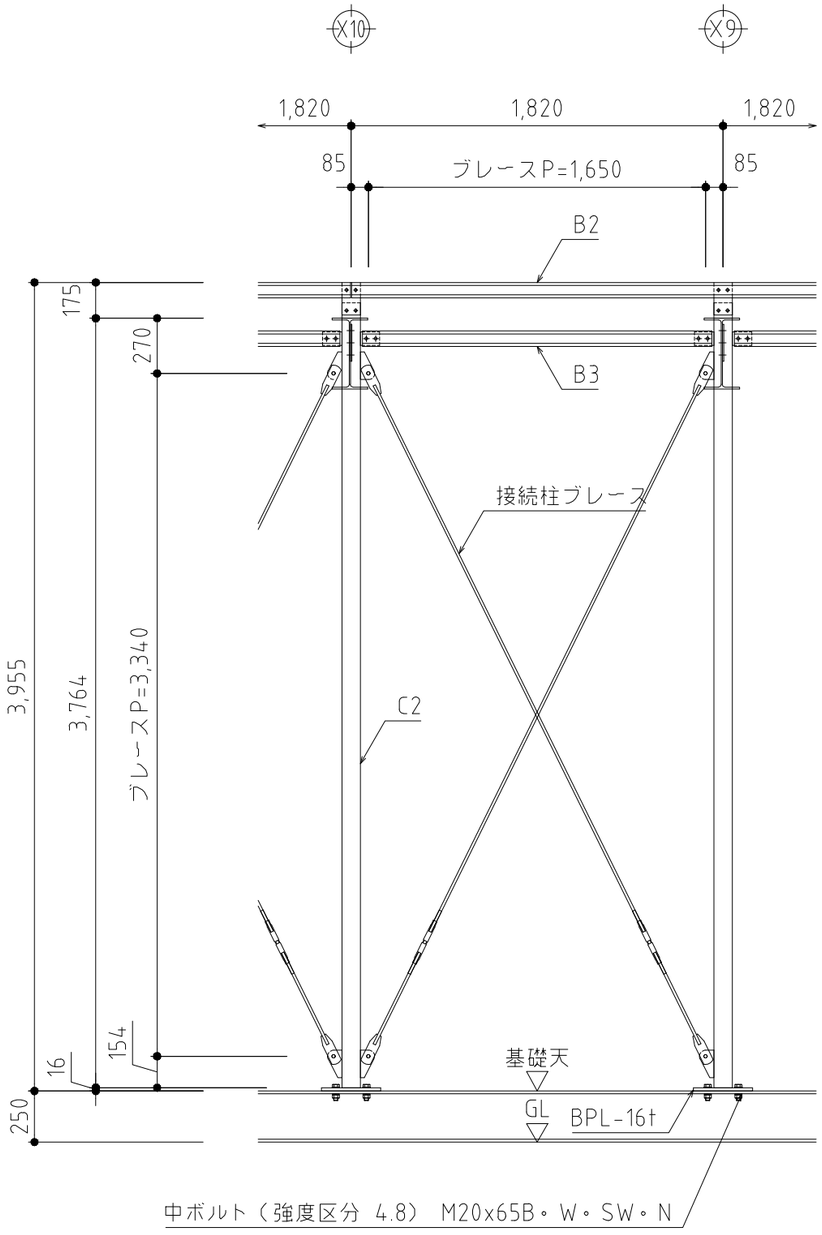
No. 152

[仮設] 給食棟 軸組図６

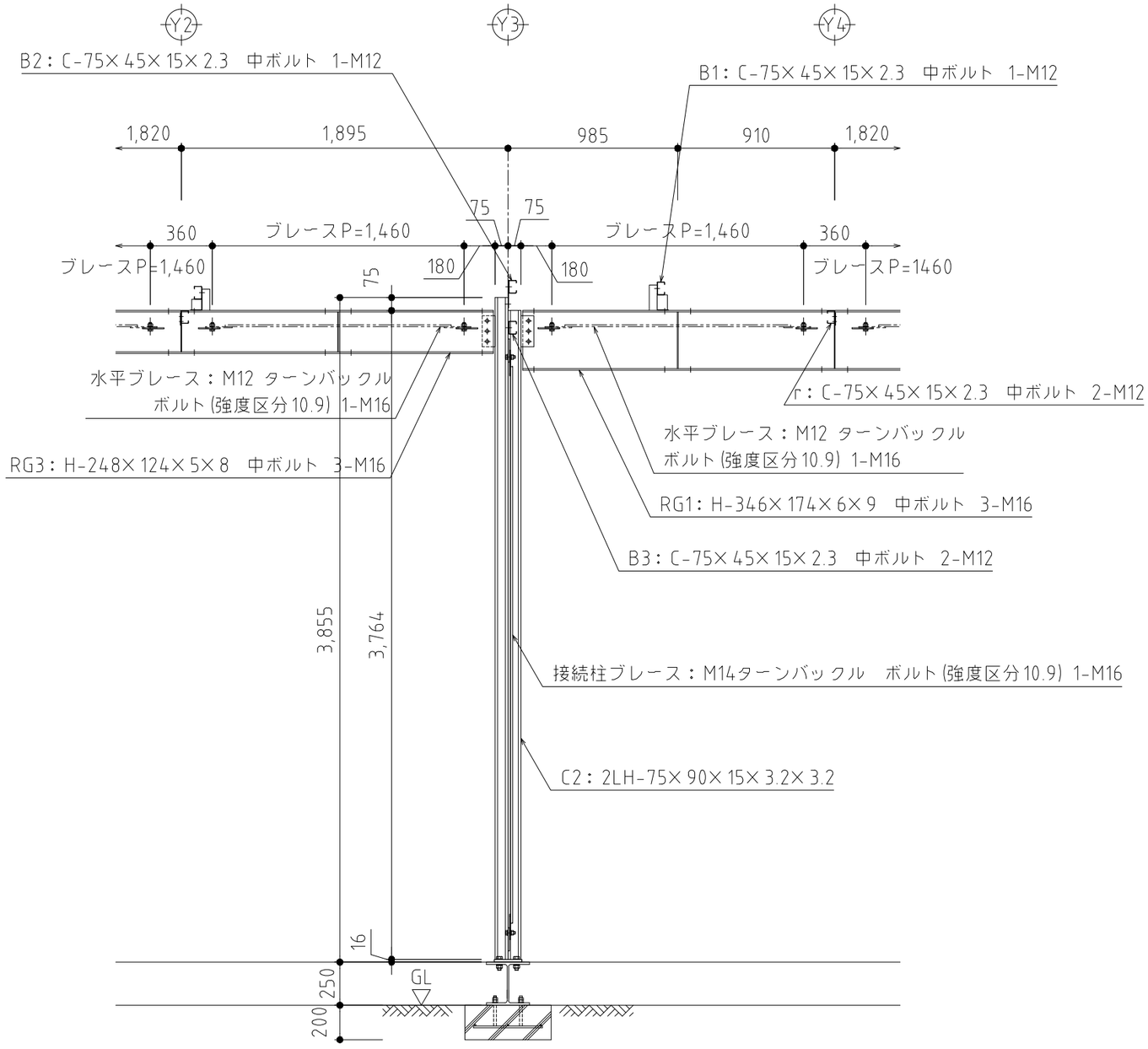
A3 1/100

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



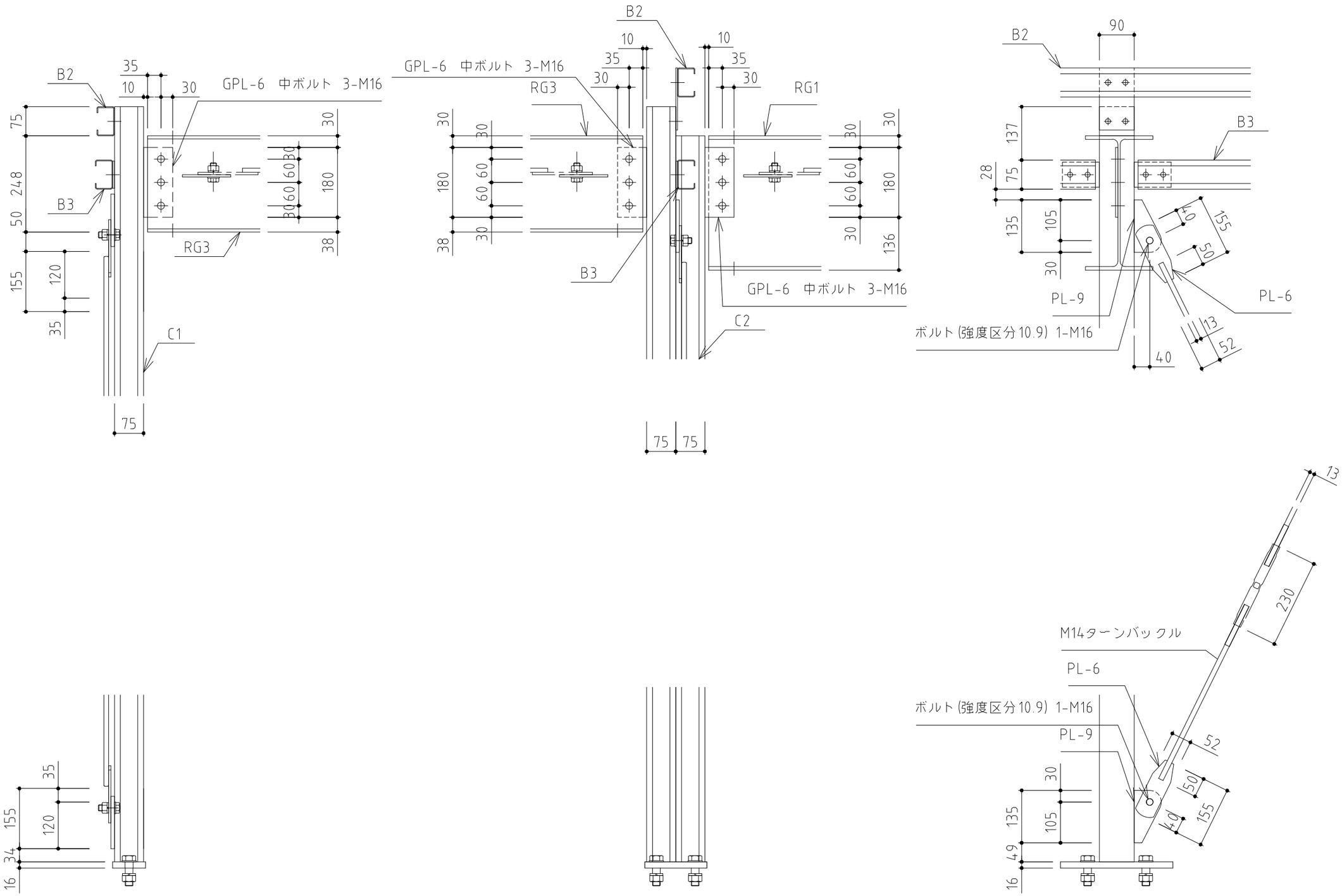
Y3架構図（接続部）S=1/30



X9架構図（接続部）S=1/30

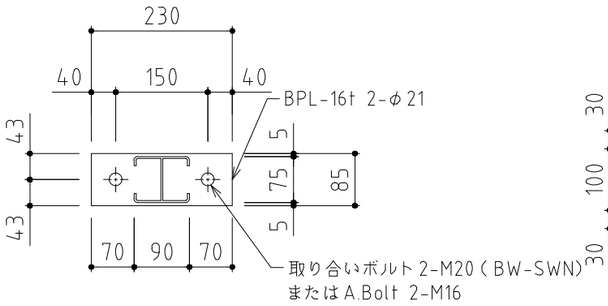
SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 153
	[仮設] 給食棟 架構図 A3 1/30	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



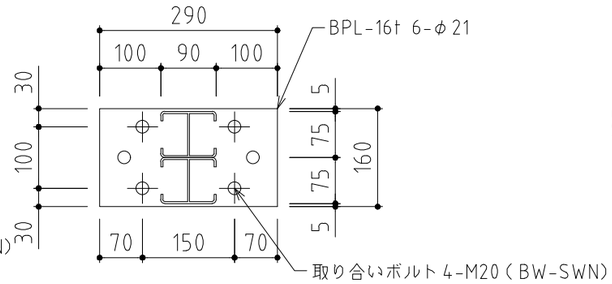
SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計 高木 秀晃 一級建築士 大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 154
	[仮設] 給食棟 鉄骨詳細図 A3 1/10	DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



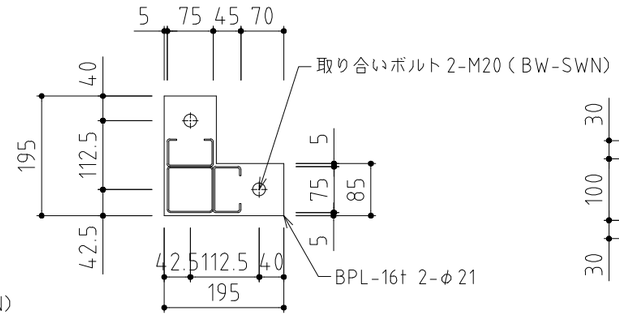
C1: LH-75×90×15×3.2×3.2

C1 柱脚詳細図 S=1/10



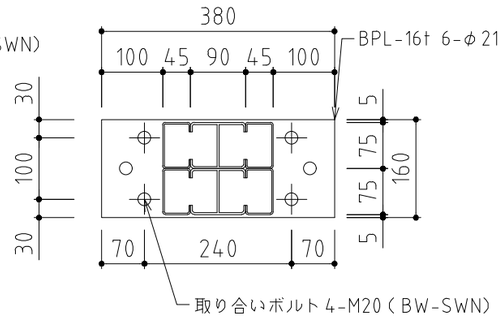
C2: 2LH-75×90×15×3.2×3.2

C2 柱脚詳細図 S=1/10



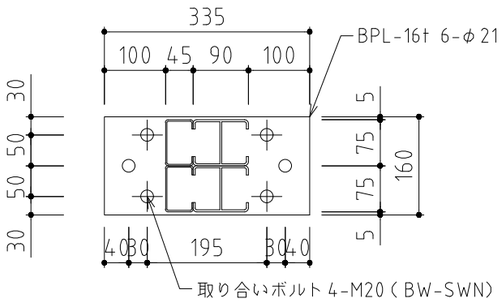
C3: 2C-75x45x15x2.3 + □-75x75x2.3

C3 柱脚詳細図 S=1/10



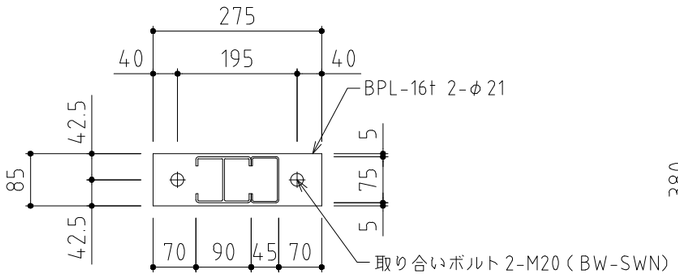
C4: 2LH-75×90×15×3.2×3.2
+4C-75×45×15×2.3

C4 柱脚詳細図 S=1/10



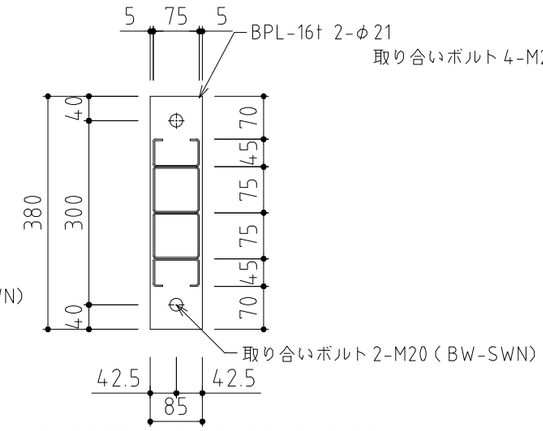
C5: 2LH-75×90×15×3.2×3.2
+2C-75×45×15×2.3

C5 柱脚詳細図 S=1/10



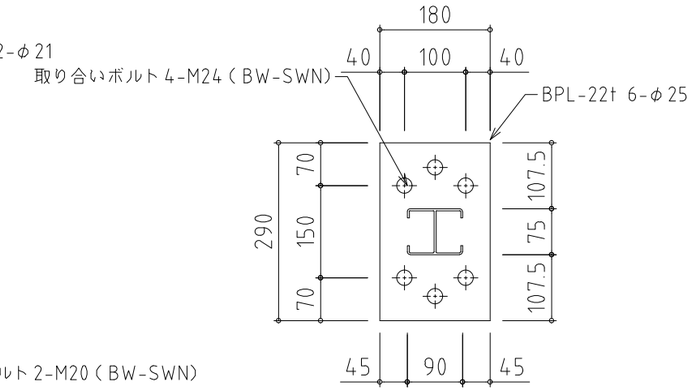
C6: LH-75x90x15x3.2x3.2+C-75x45x15x2.3

C6 柱脚詳細図 S=1/10



C7: 2C-75x45x15x2.3 + 2□-75x75x2.3

C7 柱脚詳細図 S=1/10



C8: LH-75×90×15×3.2×3.2

C8 柱脚詳細図 S=1/10

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計

高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 155

[仮設] 給食棟 柱脚詳細図

A3 1/10

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23

構造特記仕様書

2023年版

§1　一般事項

選択項目は◎印を適用し、◎印が無い場合は＊印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1　使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
　　輸入製品については、JIS同等品かどうかの確認を行う。
1-2　設計図書の優先順位は下記による。
　1）本特記仕様書
　2）設計図
　　日本建築学会標準仕様書，JASS6
　　アルミニウム建築構造設計規準・同解説
　　膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説
1-3　各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。
1-4　構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
　　第三者機関による検査・試験費用は工事費に　（　＊含む　• 含まない　）
1-5　設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。
1-6　その他

§2　構造計算ルート

2-1

方　向	構造計算ルート		
X	• ルート1	⦿ ルート2相当	• ［ ルート3相当 ］
Y	• ルート1	⦿ ルート2相当	• ［ ルート3相当 ］

［]内は施行令81条に基づくルート3相当の地震力で許容応力度計算とする。
仮設許可にて3章8節の緩和の適用を受けるものとする。

2-2　構造耐力上主要な部分の構造計算に適用する、構造種別
⦿ アルミニウム合金造
⦿ 鉄骨造

§3　設計風速

3-1　設計風速　　建設地　大阪府　守口市
3-2　設計風速　採用値　　＊V0=34m/s

§4　地業工事

4-1　基礎及びスラブ下地業　（単位mm）

項　所		捨てコンクリート厚さ	A：砕 石 / B：割栗石	厚 さ
基 礎	独立、布	*50 • 60 • 100	*A • B	*60 • 100 • 150
	ベ タ	*50 • 60 • 100	*A • B	*60 • 100 • 150
地 中 梁		*50 • 60 • 100	*A • B	*60 • 100 • 150
土間スラブ	屋 内	*50 • 60 • 100	*A • B	*60 • 100 • 150
	屋 外	*50 • 60 • 100	*A • B	*60 • 100 • 150

4-2　許容支持力度
　　長期　20 kN/m^2　　短期　40 kN/m
　　地耐力試験 •　　＊行う（　ヶ所）・行わない
4－3　敷き鉄板滑り摩擦係数　　μ=（0.4 ）
　　滑り摩擦試験 ⦿ 行う　　・行わない

§5　アルミニウム合金造工事

5-1　材種および使用箇所

種類	記号	柱	大梁	ブレース	小梁、他
アルミニウム合金材	• A6061-T6	○	○		○

5-2　高力ボルト

種類	等級	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	• S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	• F8T	アルミニウム合金母材が亜鉛メッキされている部分

5-3　中ボルト
　1）種類　＊　強度区分 4.6
5-4　アンカーボルト
　1）種類　＊　SS400
5-5　溶接材料

規 格	名 称
＊JIS Z 3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
・JIS Z 3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒

上記以外の溶接材料を用いる場合は、工事監理者の承認を得たものとする。

5-6　溶接作業及び管理
　1）溶接作業条件（作業場所の気温・降雨・風・降雪）の確認を行う。
　2）溶接技能者の資格の確認を行う。
5-7　溶接部の検査（受入検査）　　＊　行う　　•　行わない
　1）＊ 外観検査　　・ 超音波探傷検査
　2）外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 付則6、鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
　3）超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・同解説」2008により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
　4）検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とする。
5-8　錆止め塗装　（ 工場塗　•2回　•1回、現場タッチアップ程度とする ）
　1）素地調整　　• ケレン　　• ブラスト
　2）錆止め塗料　　標準塗膜　35μm

適用 室外	適用 室内	塗　料		種 別	
•	•	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674		
	•	一般用錆止めペイント	JISK5621	•1種	•2種
•	•	鉛丹錆止めペイント	JISK5622	•1種	•2種
•	•	シアナミド鉛錆止めペイント	JISK5625	•1種	•2種

　3）溶融亜鉛メッキ　　• 行う　　⦿ 行わない

§6　鉄骨工事

6-1　材種および使用箇所

種類	記号	柱	大梁	ブレース	小梁、他
一般構造用圧延鋼材	• SS400				○
一般構造用角形鋼管	• STKR400	○	○		○
一般構造用炭素鋼管	• STK400				
一般構造用軽量形鋼	• SSC400				
ワイヤーロープ	• JISG3525-2013				

6-2　高力ボルト

種類	等級	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	• S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
高力ボルト	⦿F8T	全般

　高力ボルトの使用にあたって軸力導入試験を　• 行う　⦿ 行わない
6-3　中ボルト
　1）種類　＊　強度区分 4.6
6-4　アンカーボルト
　1）種類　＊　SS400
6-5　溶接材料

規 格	名 称
＊JIS Z 3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
・JIS Z 3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒

上記以外の溶接材料を用いる場合は、工事監理者の承認を得たものとする。
6-6　溶接作業及び管理
　1）溶接作業条件（作業場所の気温・降雨・風・降雪）の確認を行う。
　2）溶接技能者の資格の確認を行う。
6-7　溶接部の検査（受入検査）　　＊　行う　　•　行わない
　　（自社検100%）
　1）＊ 外観検査　　・ 超音波探傷検査
　2）外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 付則6、鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
　3）超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・同解説」2008により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
　4）検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とする。
6-8　錆止め塗装　（ 工場塗　⦿2回　•1回、現場タッチアップ程度とする ）
　（YNS12 基礎非リース品部に適用する。）
　1）素地調整　　・ケレン　　• ブラスト
　2）錆止め塗料　　標準塗膜　70μm

適用 室外	適用 室内	塗　料		種 別	
⦿	＊	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674		
	•	一般用錆止めペイント	JISK5621	•1種	•2種
•	•	鉛丹錆止めペイント	JISK5622	•1種	•2種
＊	•	シアナミド鉛錆止めペイント	JISK5625	•1種	•2種

　3）溶融亜鉛メッキ　　• 行う　　⦿ 行わない

6-9　製作工場
　（基礎非リース品部に適用する。）
　1）認定又は登録（ＳＨＭＲ③）グレード以上の制作工場で鉄骨製作を行うこと。
　2）溶接加工管理技術者をたてること。

§7　膜材取付け工事

7-1　膜材料

商品名	種類		厚さ（mm）	質量（g/m^2）	基準強度 たて/よこ(N/3cm)
⦿ ヒット100	不燃膜	B種	0.52	760	2990×2990

§8　ボルトの仕様

8-1　ボルトの管理
　1）中ボルト・アンカーボルトに関しては、余長を3山以上を確保すること。
　2）アンカーボルトは2重ナットとすること。

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計　高木　秀晃　一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 156
	［仮設］　体育館棟　特記仕様書　A3　1/---	DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

鉄 骨 構 造 標 準 図

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

（a） 構造設計仕様による。
（b） 適用範囲は鋼材を用いる工事とし、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
（c） 構造図に記載された事項は本標準図に優先して適用するものとする。

(3) 高力ボルト接合

（a） 本締めに使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない。

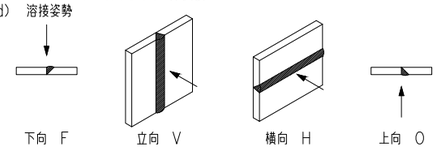
(4) 溶接接合

（a） 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格者とする

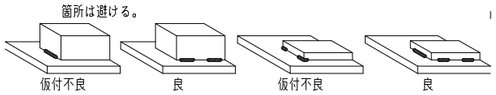
（b） 溶接機器
（ィ） 交流アーク溶接機 300A~500A
（ロ） アークエアーガウジング機（直流）
（ハ） サブマージアーク溶接機一式
（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ホ）溶接電流を測定する電流計
（ヘ）溶接棒乾燥器

（c） 溶接方法
・アーク手溶接（MC）
・セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC）
・ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
・アークエアーガウジング（AAG）

（d） 溶接姿勢



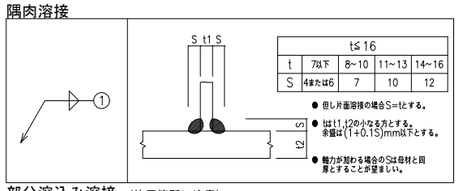
（e） 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（ィ） 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となりやすい箇所は避ける。



2. 溶接規準図

（注）f :余盛 G :ルート間隔 R :フェース S :脚長 単位（mm）

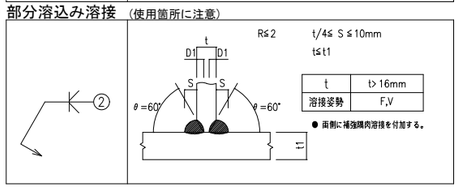
(1) 隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	4または6	7	10	12

● 但し片面溶接の場合S=tとする。
● t は t1,t2の小なる方とする。余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
● 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

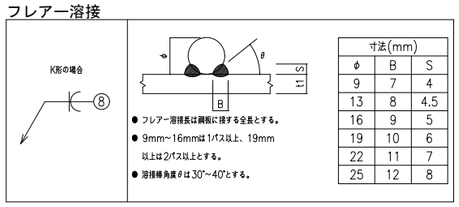
(2) 部分溶込み溶接 （使用箇所に注意）



t	t> 16mm
溶接姿勢	F,V

● 両側に補強隅肉溶接を付加する。

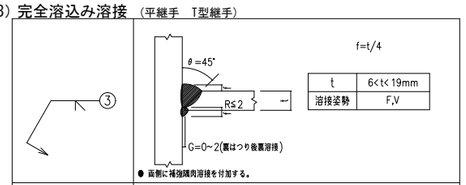
(4) フレアー溶接



寸法(mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

● フレアー溶接長は鋼板に接する全長とする。
● 9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする。
● 溶接棒角度θは30°~40°とする。

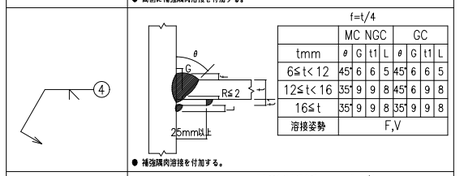
(3) 完全溶込み溶接 （平継手 T型継手）



f=t/4

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F,V

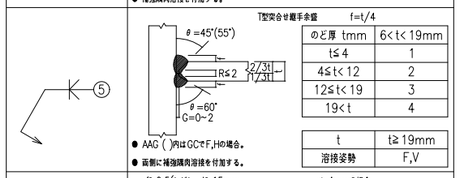
● 両側に補強隅肉溶接を付加する。



f=t/4

	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F,V							

● 補強隅肉溶接を付加する。

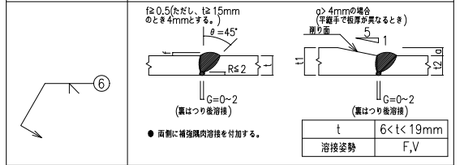


T型突合せ継手余盛 f=t/4

のど厚 tmm	6<t<19mm
t≦4	1
4≦t<12	2
12≦t<19	3
19<t	4

● AAG（ ）内はGCでF,Hの場合。
● 両側に補強隅肉溶接を付加する。

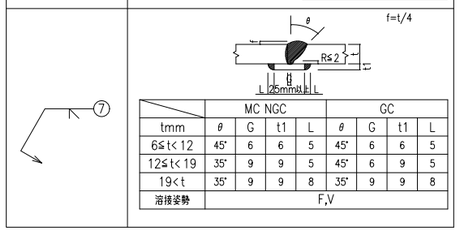
t	t≧19mm
溶接姿勢	F,V



f≧0.5(ただし、t≧15mmのとき4mmとする。)

● 両側に補強隅肉溶接を付加する。

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F,V



f=t/4

	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F,V							

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計
高木 秀晃
一級建築士 大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

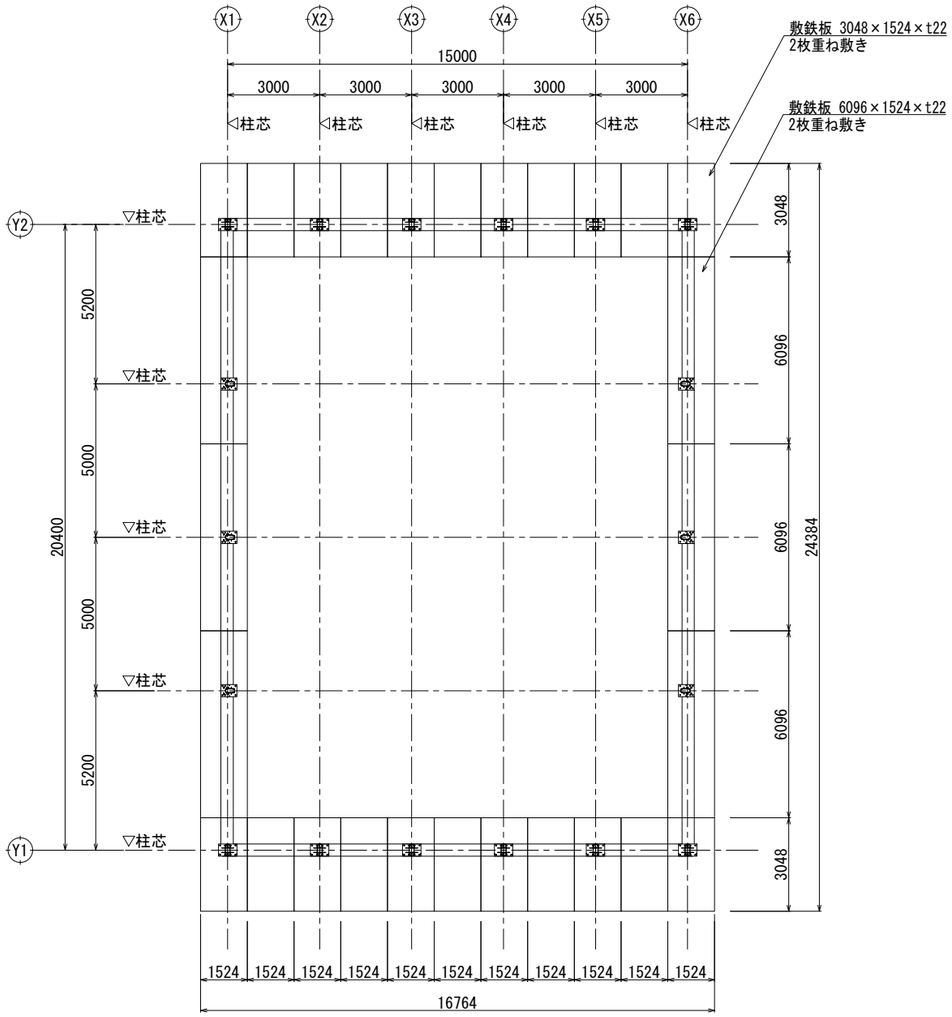
No. 157

[仮設] 体育館棟 鉄骨構造基準図

A3 1/---

DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする Printed 2023/08/23



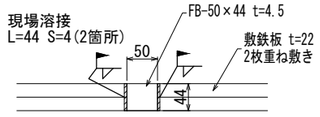
基礎伏図　1:200

敷鉄板凡例）

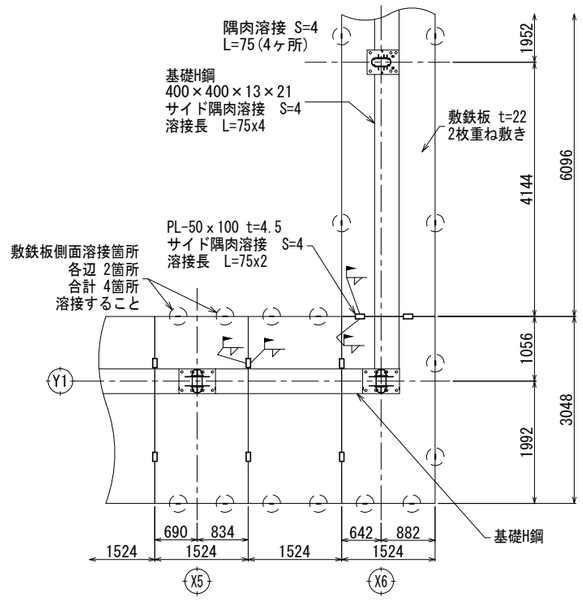
6096×1524×t22

3048×1524×t22

敷鉄板は全て2枚重ね敷きとする。



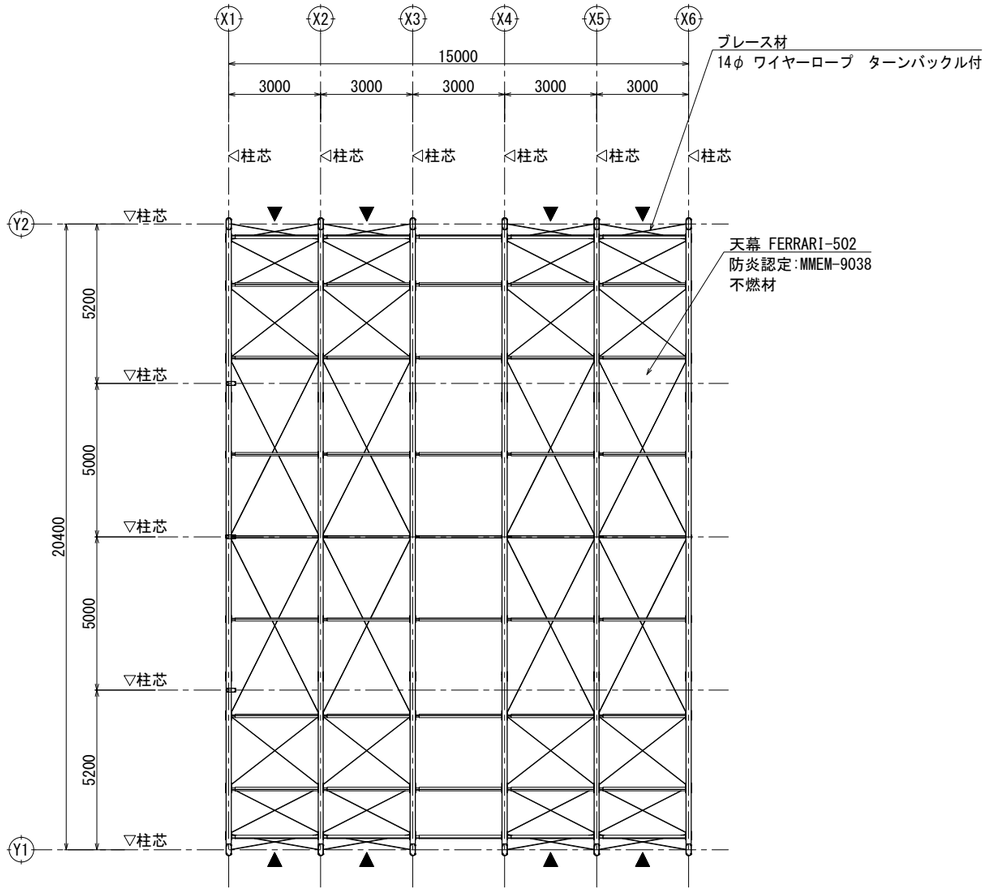
敷鉄側面溶接詳細図　1:10



A部敷鉄板詳細図　1:100

SHOWA SEKKEI 株式会社昭和設計 高木　秀晃 一級建築士　大臣登録第280475号	守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借	No. 158
	［仮設］　体育館棟　基礎伏図・敷鉄板詳細図　A3　図示	DEPT 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



小屋伏図　1:200

▲左記表示は、ブレース位置を示す。

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

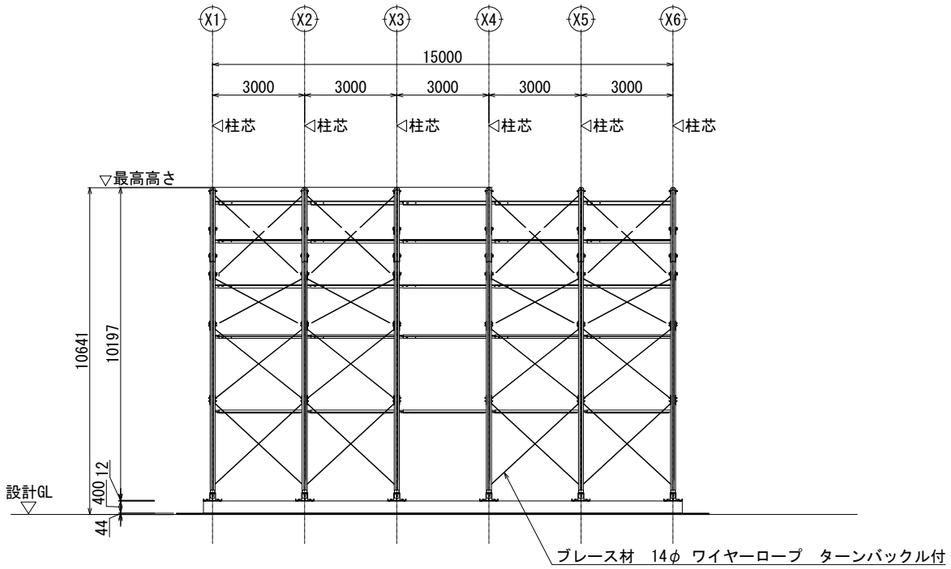
No. 159

[仮設]　体育館棟　小屋伏図

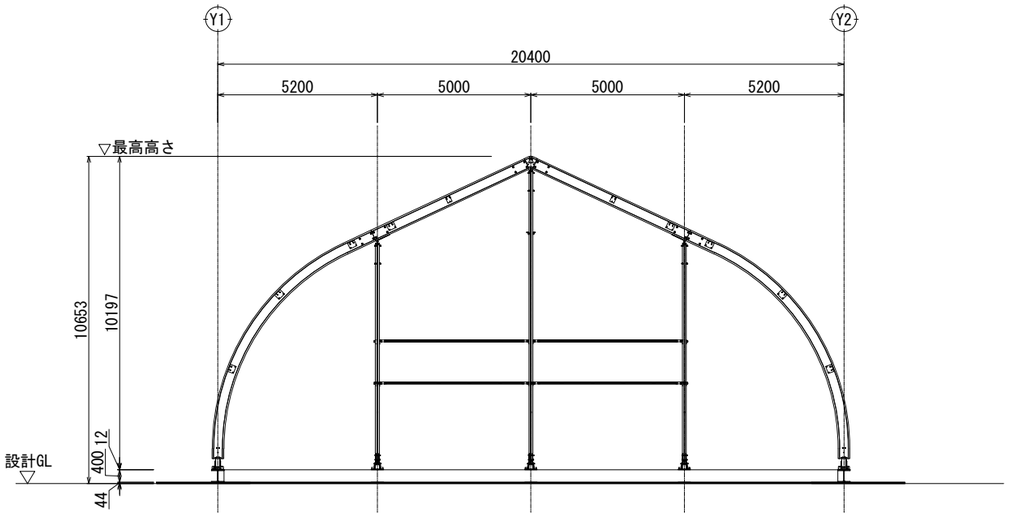
A3　1/200

DEPT 構

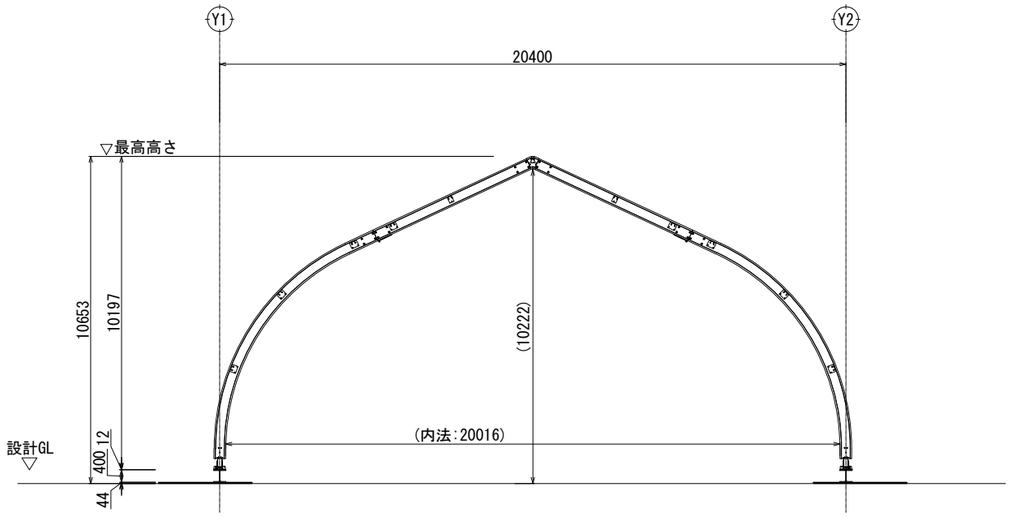
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23



Y1・Y2通り軸組図　1:200



X1・X6通り軸組図　1:200



X2～X5通り軸組図　1:200

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 160

[仮設]　体育館棟　軸組図

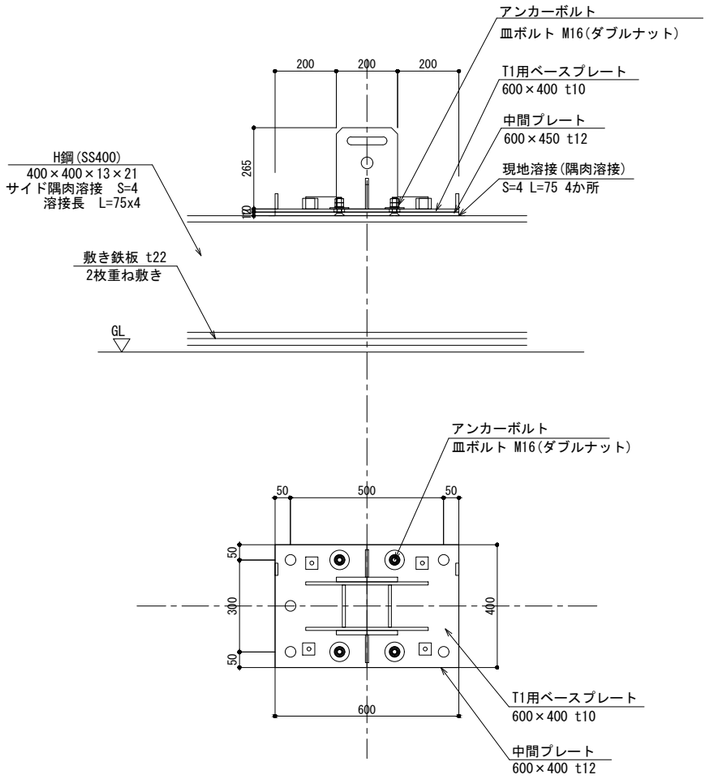
A3　1/200

DEPT. 構

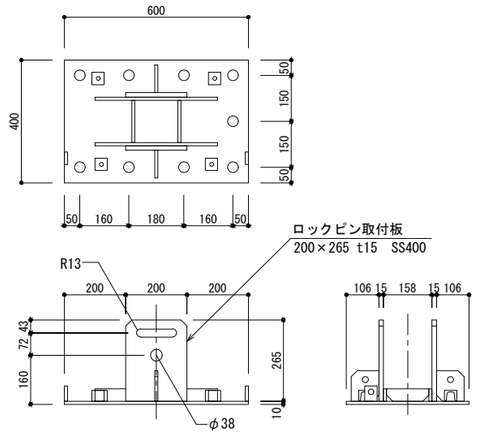
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

部材リスト				
柱材、梁材	T1	アルミ　380×166×6t	6061T6	JIS H 4100　(同等品)
間柱材	P1	アルミ　310×130×4.5t	6061T6	JIS H 4100　(同等品)
棟材	B1	アルミ　133×70×3t	6061T6	JIS H 4100　(同等品)
母屋材	B2	アルミ　□-130×90×3t	6061T6	JIS H 4100　(同等品)
間柱梁材	B3	アルミ　130×70×3t	6061T6	JIS H 4100　(同等品)
T1用ベースプレート		スチール 600×400×10t	SS400	JIS G 3101　(同等品)
P1用ベースプレート		スチール 520×400×16t	SS400	JIS G 3101　(同等品)
中間プレート		スチール 600×450×12t	SS400	JIS G 3101　(同等品)
梁インナー材		スチール 250×149×5.5t	SS400	JIS G 3101　(同等品)
梁棟部インナー材		スチール 250×149×5.5t	SS400	JIS G 3101　(同等品)
柱脚インナー材		スチール □150×150×6t	STKR400	JIS G 3466
アンカーボルト		M16 普通ボルト(皿ボルト)	SS400	JIS B 1180　強度区分4.6
普通ボルト		各種	SS400	JIS B 1180　強度区分4.6
ロックピン		各種	SS400	JIS B 1354　強度区分4.6
アイボルト		M20	SS400	JIS B 1354　強度区分4.6
シャックル		BD16		JIS B 2801
アルミリベット		8-10	リベットはリベット孔に充分埋まるように打つこと	
ブレース材		6×24-14Φワイヤーロープ ターンバックルUSA3/4×12	ワイヤーロープ JIS G 3525(同等品)	
膜材		ヒット100　不燃材料認定：NM-0623		

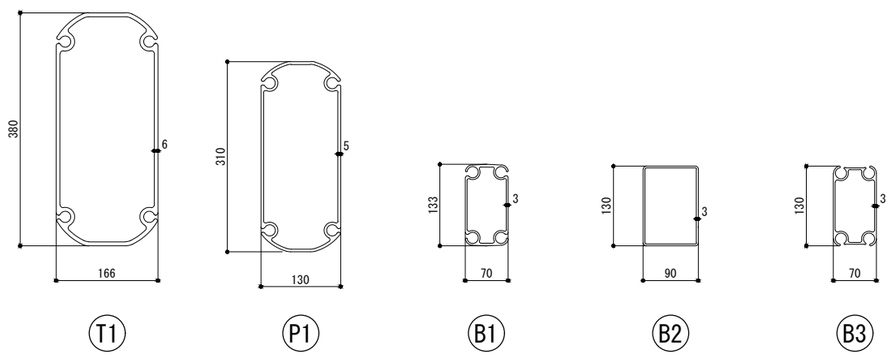
部品はリース品であり、使用前に部材の損傷劣化がないか確認する事。
尚、詳細については別紙添付の、"品質管理マニュアル　ーアルミニウム合金造テント共通ー"を参照の事。



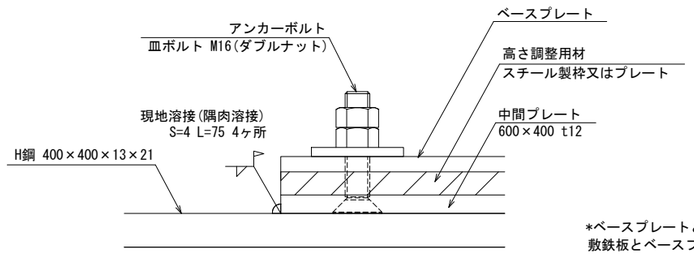
T1柱脚部詳細図　1:20



ベースプレート詳細図　1:20



部材断面図　1:10



PL-400x600x12とH鋼の溶接は計4ヶ所
とし、現場隅肉で溶接長は75mmとする。

*ベースプレートと敷鉄板の取付
敷鉄板とベースプレートの間に450x600x12のプレート
をはさみ、そのプレートとH鋼を隅肉溶接をする。
又アンカーボルトはプレートを貫通してベースプレート
と接合する。

ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付詳細図　1:10

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

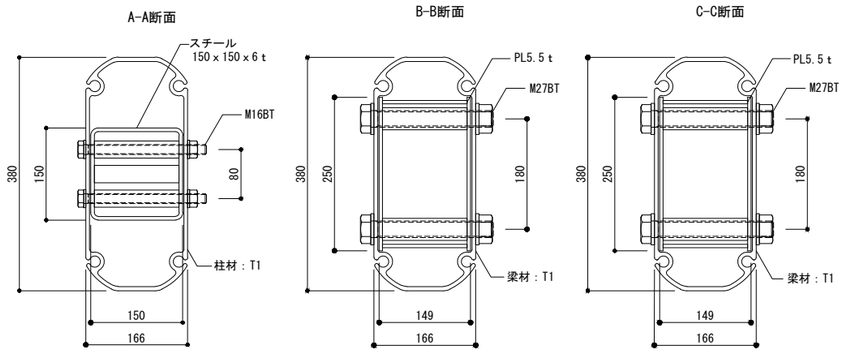
No. 161

[仮設]　体育館棟　部材リスト・各部詳細図

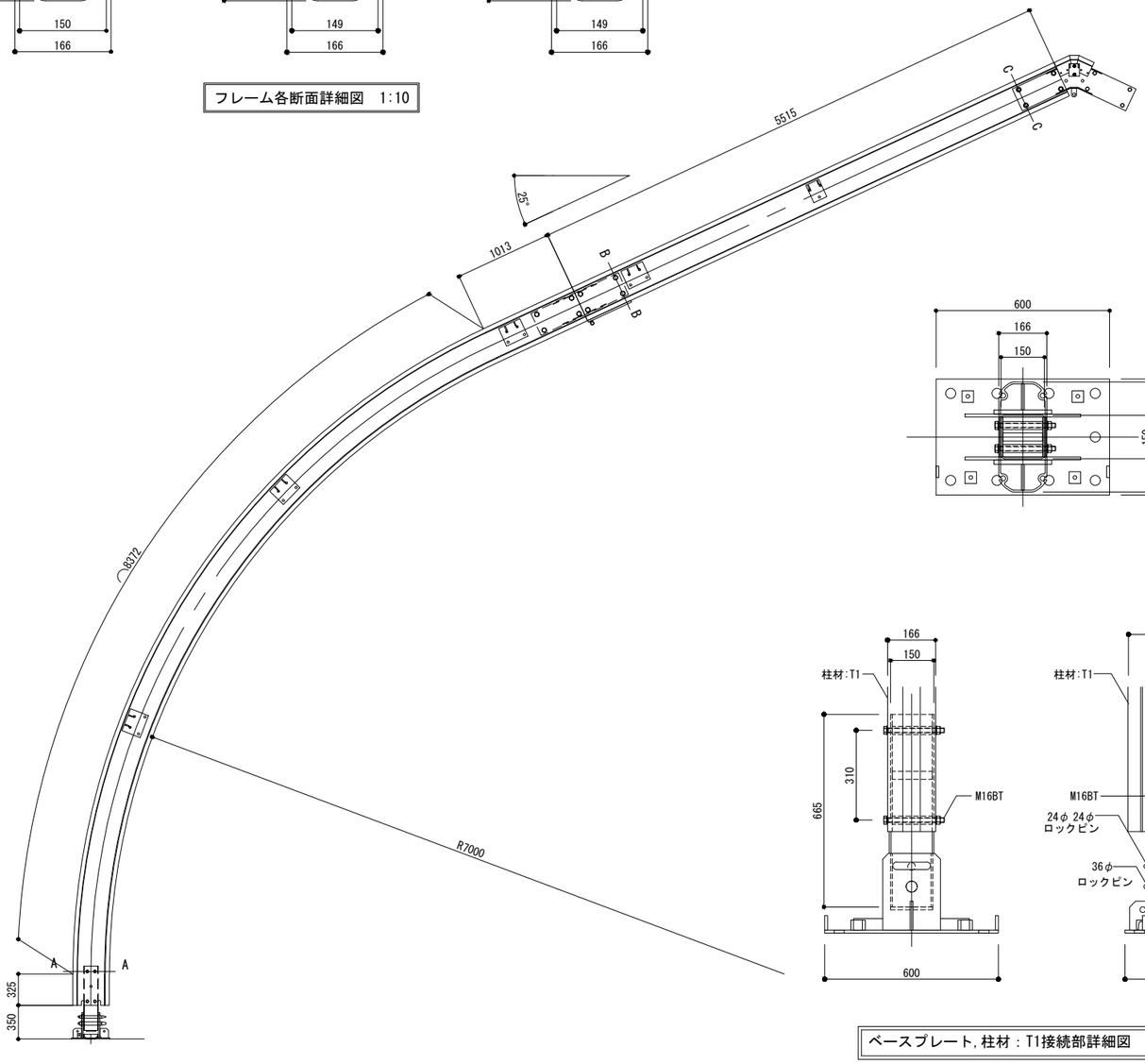
A3　図示

DEPT. 構

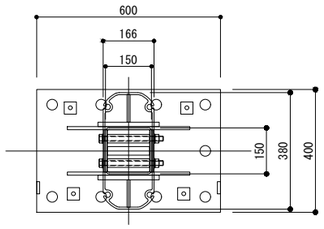
※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

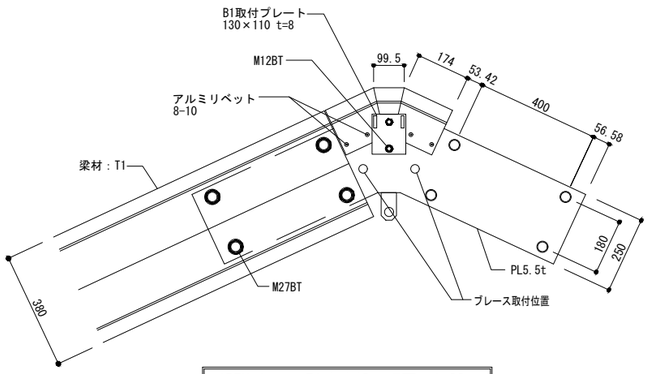


フレーム各断面詳細図　1:10

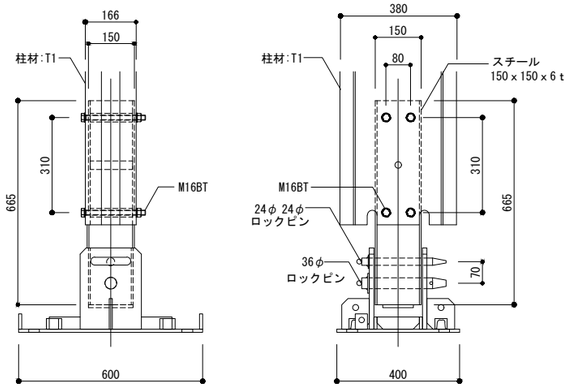


架構詳細図　1：60

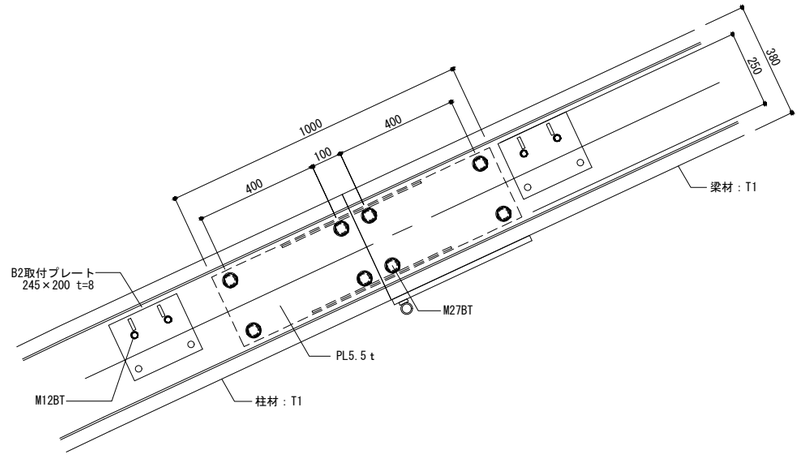




APEX,梁材：T1接続部詳細図　1:20



ベースプレート,柱材：T1接続部詳細図　1:20



柱材：T1,梁材：T1接続部詳細図　1:20

SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 162

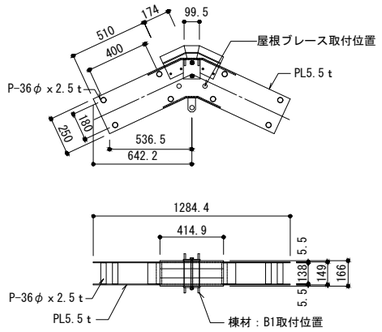
[仮設]　体育館棟　部材詳細図 1

A3　図示

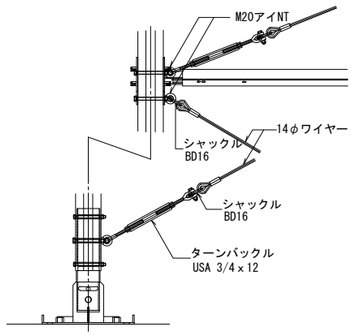
DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/23

棟部詳細図　S=1/40

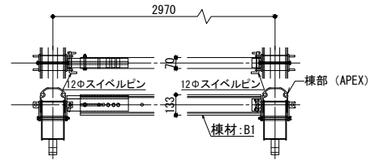


ブレース接合部詳細図　S=1/40

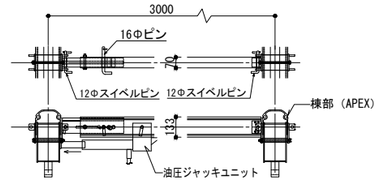


棟材(B1)取り合い詳細図　S=1/40

フレーム組立時、棟材B1は下図の様にセットし組立てる(母屋材B2も同様)

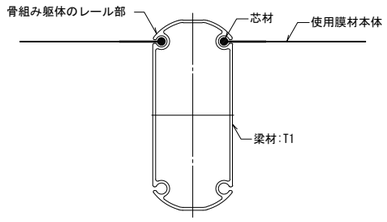


膜材(天幕)をフレームに通した後、油圧ジャッキにて梁材P1を30mmスライドさせ
φ16ピンで固定する



キャンバス詳細図　S=1/20

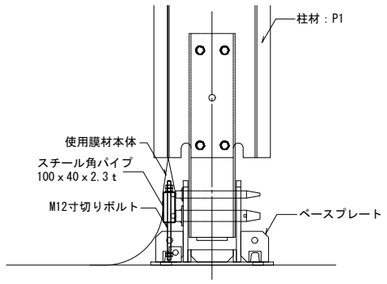
□アルミニウム構造施設の膜材定着部
膜材をアルミニウムの押し出しフレームに成型されているレールに、
膜材のエッジロープをスライド式に通すことによって定着させる。



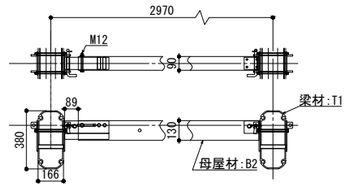
＊使用膜材　フェラーリ502

膜材の緊張　S=1/40

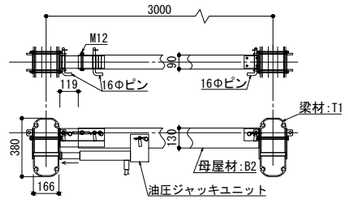
膜材の端部（袋加工）に角パイプ（100x40x2.3t）
を通し、M12寸切りボルトにて下方向に緊張させる



母屋材(B2)取り合い詳細図　S=1/40



膜材(天幕)をフレームに通した後、油圧ジャッキにて母屋材B2を30mmスライドさせ
16φピンで固定する



SHOWA SEKKEI
株式会社昭和設計
高木　秀晃
一級建築士　大臣登録第280475号

守口小学校建設工事に伴う仮設校舎賃貸借

No. 163

［仮設］　体育館棟　部材詳細図 2

A3　図示

DEPT. 構

※A3用紙サイズの場合はA1用紙サイズの1/2縮尺とする　Printed 2023/08/24